介護生産性向上の取組事例

テクノロジー活用による介護現場の業務改善

～情報共有・記録・夜間見守り・移乗介助の見直しについて～

特別養護老人ホーム レモンの樹東海

発表者：施設長　宝地 章浩

施設概要

社会福祉法人檸檬

住所　愛知県東海市名和町南之山10番地の12

特養　110床
ショートステイ　10床
デイサービス　定員30名
居宅介護支援事業所



社会福祉法人 檸檬（れもん）

《法人理念》

会えて良かった。

人は出会いで人となる。

私たちは愛ある人として、感謝と感動のあるところを創ります。
利用者とその家族に安心を提供し、
働く仲間の豊かな人生の追求と、地域の保健、医療、福祉に貢献します。

《行動指針》

愛ある人、5つの宣言。

私は、笑顔で愛ある挨拶をします。
私は、相手の想いを尊重し、その存在を認めます。
私は、向上心を持って、情熱的に行動します。
私は、相手を支えることを自らの喜びとします。
私は、地域社会の一員として、誇りと責任を持って行動します。

社会福祉法人 檸檬（れもん）

1　導入前の課題と導入の目的

導入前の課題　業務負担による職員の疲弊と、離職が多い状況

主な4つの課題

1｜連絡・情報共有

PHSや対面での声掛けが中心。

職員を探す移動が発生し、複数人への同時共有も難しい。

2｜記録業務

ケア終了後に記録を入力。

端末への移動や記録の後回しが、業務負担になり、慢性的な残業が発生。

3｜夜間の見守り

利用者20名を職員1名で見守る場面。

定期巡視の移動負担が大きく、状態把握にも限界。心理的負担も加わり職員が疲弊。

4｜移乗介助

2人介助や抱え上げが必要なケースが多く、職員の腰・肩・腕への負担と安全面が課題。また2人介助になることで、多くの人員が必要。

「職員が安心して働き続けられる職場を目指して」

1　連絡・情報共有

職員間の連絡を円滑にし、
探す･伝える手間を減らす

2　記録業務

音声入力と記録システムで、
入力・転記の負担を軽減

3　夜間の見守り

利用者の状態把握を支援し、
必要なタイミングで対応

4　移乗介助

介護機器を活用し、
抱え上げによる身体的負担を軽減

導入の目的

業務負担を軽減し、職員が辞めずに働き続けられる職場環境を整備する

その先に、利用者と向き合う時間の確保とケアの質の向上を目指す

2　実際に導入した機器の紹介

導入した機器・システム①

骨伝導タイプインカム

職員間の応援要請の迅速化
情報をリアルタイムで一斉共有できる。
連絡のための移動等連絡に係る時間の削減



音声入力ソフト「ハナスト」

支援をしながら、その場でも記録の入力をすることができる。
PCやスマートフォンへの文字入力の負担を軽減し、記録業務の効率化



導入した機器・システム②

見守り機器「aams」

見守り業務の効率化：離れた場所から利用者の心拍・呼吸・体動・睡眠状態などを確認できる

夜間の巡視・訪室の適正化：利用者の状態を確認しながら、必要性に応じた訪室や対応につなげる。

転倒・事故リスクの軽減：離床などの動きを検知して通知し、迅速な対応を支援する。

職員の心理的・身体的負担の軽減：見守りに伴う不安や負担を軽減する

利用者の状態把握と個別ケアの充実：睡眠や離床の履歴を活用し、生活リズムに合わせたケアにつなげる。



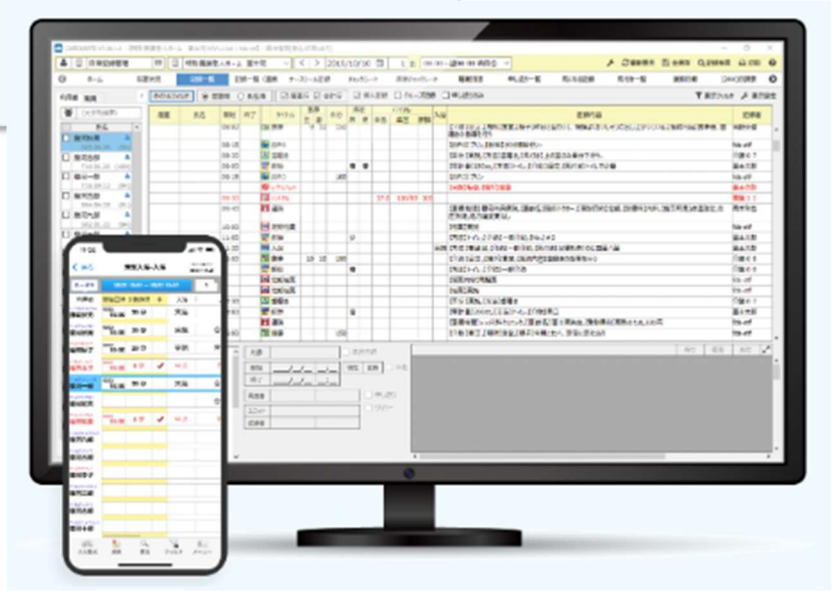


導入した機器・システム③

介護ソフト「ケアカルテ」

「ハナスト、aams」との連携：介護記録・音声入力・見守りシステムを連携させ、業務の効率化と情報共有の迅速化を図る。aamsの検知情報やバイタル情報をケアカルテへ自動記録し、介護記録と同じ画面で時系列に確認できる

CARE KARTE



導入した機器・システム④

天井走行用リフト/HUG

職員の身体的負担の軽減：抱え上げや中腰姿勢での介助を減らし、腰痛予防につなげる。

安全な移乗介助の実現：機器で利用者の身体を支えることで、移乗時の転倒や身体への負担の軽減を図る。

職員の負担に左右されない介助体制の整備：職員の体格や筋力にかかわらず、安全に介助しやすい環境を整える。

利用者の尊厳と安心感の確保：無理な抱え上げを避け、利用者の状態に配慮した移乗介助を行う。おむつ内からトイレでの排泄へ。

ノーリフトケアの推進：人力で抱え上げない介護を実践し、職員が長く働き続けられる職場環境を整備する。





機器を単独で使わず、業務の流れにつなげる

1 aamsで把握

利用者の状態・離床などを確認

→

2 インカムで共有

必要な職員へその場で連絡

→

3 必要なケア

状態に応じて訪室・対応

→

4 音声で記録

ハナストからケアカルテへ

状態を把握 → 情報共有 → ケア → 記録

この流れを踏まえ、ここからは業務ごとに「課題・工夫・変化」を見ていきます。

3　導入後、現場の仕事はどう変わったか

情報共有｜インカム導入後に見えた壁と工夫

導入当初の壁

PHSの使い方に慣れていた

インカムへの切替が進まない

通信環境の整備に時間がかかってしまった。

取り組んだ工夫

・通信テストを繰り返す

・使う場面やルールを整理

・現場の意見を聞いて運用を見直す

現在の位置づけ

・その場で連絡・情報共有

・骨伝導で周囲の音も把握

・PHSからの移行と定着は継続課題

大切なのは「機器を配ること」ではなく「現場で使う意味を共有すること」

記録業務｜その場で記録し、後回しを減らす

導入前

- **ケア終了後に入力**する必要がある
- **端末の場所まで移動**する場面がある
- **記録を後回し**にしやすい

→

導入後

- **音声入力を活用**してその場で記録
- **ケアと記録を連動**させる
- **記録の滞りを減らす**ことを目指す

記録削減時間　22．5分/1日あたり

03｜OPERATION

夜間の見守り｜状態を確認してから訪室する

従来

定期的な巡視が中心

職員の移動負担が大きい

訪室時に睡眠を妨げる場合も

活用後

訪室前に状態を確認

離床・体動・睡眠等を判断材料に

必要なタイミングでケア

期待する変化

夜勤職員の心身の負担軽減

睡眠を必要以上に妨げない

客観情報をケアにつなげる

巡視時間

120分

→

短縮後

30分

90分短縮
（75%減）

移乗介助｜抱え上げない介護を進める

導入前の課題

・移乗に2人介助が必要なケース

・体重の重い方、立位が不安定な方の抱え上げ

・腰・肩・腕への身体的負担

・職員配置が一時的に手薄になる

導入後の変化

・福祉用具を使った安全な移乗

・抱え上げる場面を減らす

・2人介助が必要な場面を一部削減

・他の利用者への対応もしやすくする

利用者の安全と、職員の身体的負担軽減を両立する

4　導入効果を振り返る
～数字で見えた成果と、今後の課題～

04 | RESULTS

4つの取組の効果を、数字で振り返る

22.5分
1日の記録時間短縮
音声記録業務

120 → 30分
夜間巡視時間
90分短縮・75%減

1時間
夜勤帯の休憩確保
見守り機器の導入

2人 → 1人
移乗介助の人数減
移乗用リフトの導入

時間の短縮だけでなく、夜勤職員の負担軽減や利用者の睡眠への配慮にもつながっています。

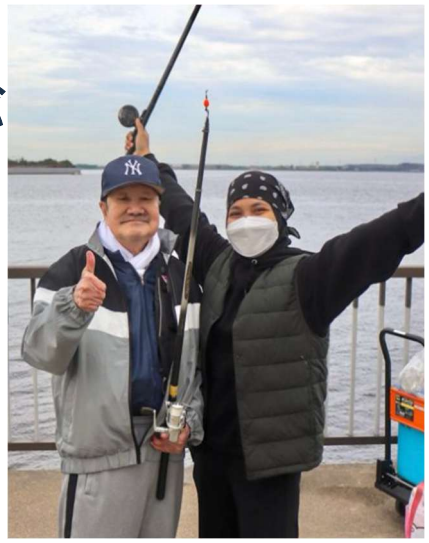
記録時間は1日あたり22.5分短縮。月20勤務日で換算すると、職員1人あたり月450分、年間5,400分になります。

記録時間をは1日あたり22.5分短縮。月20勤務日で換算すると、職員1人あたり月450分、年間5,400分になります。
この5400分を何の時間として使うのか？

取り組み事例（入居者の直接的な支援にあてる（5400分））

①夢かなプロジェクト

入居者の「夢」を叶えるプロジェクト。入居者と家族、職員が共に、「夢を実現するために」計画し、実施する。



事例　クロダイ釣り　野球観戦　お墓参り（他県）
　　星を見に行く　孫の顔を見に行く　　等

できた時間でこのような取組みを行う事で、入居者一人ひとりの思いや希望を理解し、夢の実現に向けて取り組むことで、職員は介護のやりがいや喜びを実感でき、また、入居者や家族と共に取り組むことで信頼関係が深まり、職員同士の連携強化や個別ケアの質の向上につながる。

効果を出し続けるために必要だったこと

1｜導入＝完了ではない

機器を設置しても、使い方が現場に定着するまで時間が必要。

2｜現場の声が必要

実際に使う職員の困りごとや意見を聞き、運用を見直す。

3｜業務そのものを見直す

新たな確認作業を増やさず、本当に必要な手順かを検討する。

現在も残る課題

インカムの定着：PHSからの移行と活用ルールの整理

職員間の習熟度の差：継続的な周知・操作支援

効果の検証：負担や業務時間の変化を確認し、改善を続ける

今後の取組：定着・検証・改善を続ける

- **インカム**：使用場面と情報共有ルールを職員間で整理する
- **ハナスト・ケアカルテ**：音声入力を定着させ、記録の負担を減らす
- **aams**：利用者ごとの状態・リスクに応じて活用する
- **HUG・天井走行用リフト**：対象者の選定と安全な使用方法の共有を続ける
- **全体**：活用状況と業務負担の変化を確認し、改善を繰り返す

テクノロジーを、職員の負担軽減とケアの質向上につなげる

まとめ

大切なのは、機器を導入することではなく、現場で活用し続けられる仕組みを作ること

1. **業務の流れ全体を見直す。**
2. 現場の意見を取り入れながら運用する。
3. 負担軽減とケアの質の向上につなげる

生産性向上の取り組みの最大の狙いと効果

入居者（利用者）の直接的な支援や、個別のケアを行える時間や機会が増え、入居者（利用者）へ質の高い支援を届けるための時間的余裕と気持ちのゆとりが生まれる。

介護の仕事に就く時に多くの職員が思う「誰かの役に立ちたい、入居者の方に喜んでもらいたい」といった想いの実現が可能になり、働きがいのある職場づくりにつなげる事ができる。



ご清聴ありがとうございました。

入浴支援の生産性や介護の質の向上に関する研究開発（AMED採択事業）

2026年 11月 10日

ニチイ学館
GENBA SMILE Lab

ニチイ
日本生命グループ

Ⅰ. GENBA SMILE Labについて

実践的・実用的なテクノロジーを活用し、介護現場が抱える課題を解決し、
未来に向けた持続可能な介護の形を追求していく

GENBA SMILE Lab

GENBA SMILE Lab　概要

2025年4月　活動開始

設立背景

- 超高齢化社会への突入、労働人口減少で**介護業界の需給Gapは今後も一層拡大し、2040年にはおよそ69万人の介護人材不足**が見込まれている
- ICTや介護ロボット開発・活用の裾野は広がりつつあるも、**日々の業務に追われ活用まで至りにくい現状**

目的

- **現場スタッフの負担を軽減し、現場の方が安心してテクノロジーを継続活用できる環境を整え、以下のゴールを目指す**
  - **介護現場の負荷軽減・現場で働く方の満足度向上**
  - **生産性向上・ケア品質向上**
  - **積極的な対外発信を通じた業界課題解決**

検討スキーム

- 課題や市場のニーズからソリューションを検討し現場スタッフとともに検証

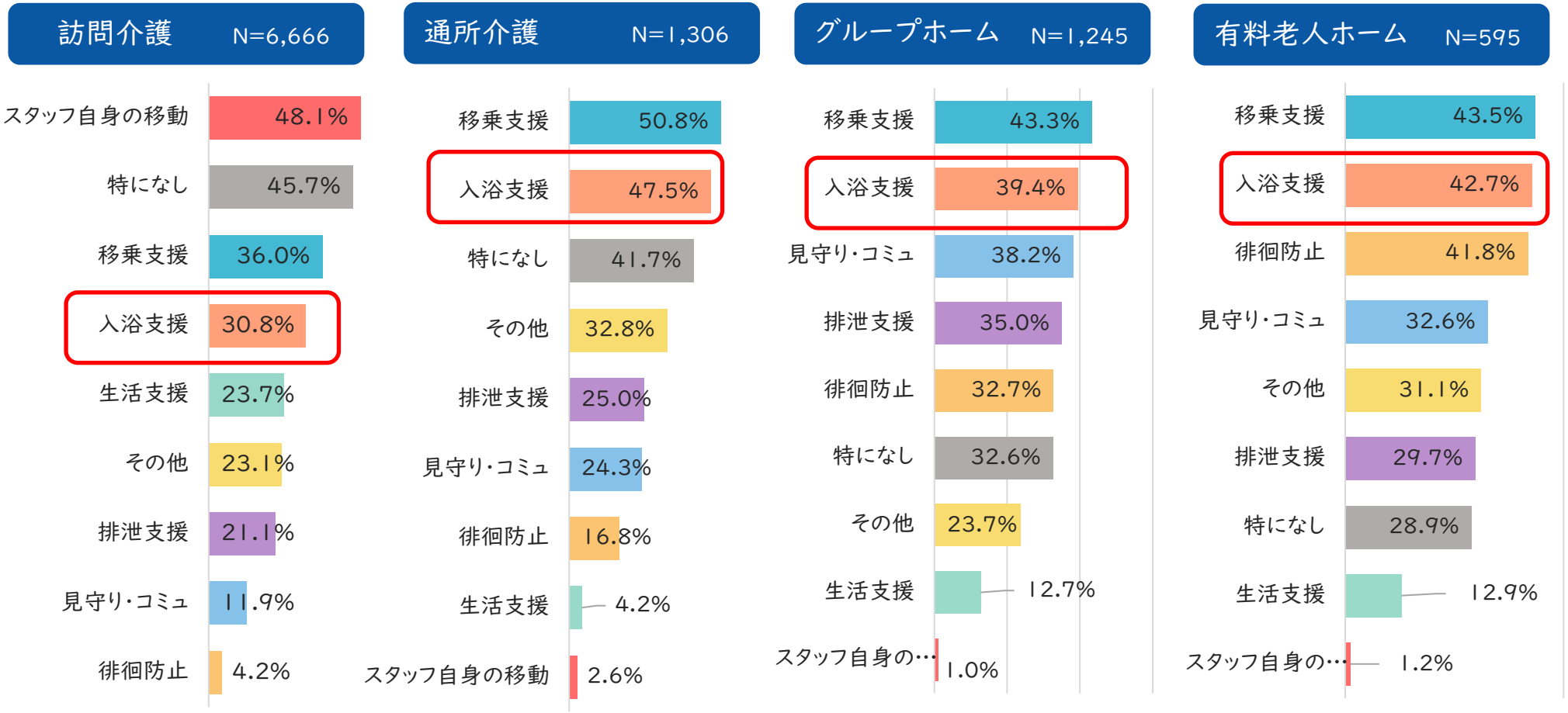


© 2026 NICHIIGAKKAN CO., LTD. All rights reserved.

2. 介護現場の課題　ニチイグループ全社アンケート結果より

質問：介護の仕事の中で、負担が大きいと感じる業務

※下記データは、業務負担1位～3位までの回答をすべて集計したものとなり、ニュースリリースのデータとは傾向は同じですが数値が異なります。



サービスで違いはあるものの、**移乗支援**と**入浴支援**が上位

【入浴支援の具体的な課題の内容】

身体的負担・体力消耗、暑さ、転倒などの事故リスク、設備・環境の課題　等

3. 2025年度AMED採択事業　①研究の実施概要

研究テーマ：入浴支援の生産性や介護の質の向上に関する研究開発
（対象サービス：通所介護・訪問入浴・訪問介護）

背景

通所介護

利用者と職員の双方にとって時間的・身体的な負担が大きく準備・入浴・ケアの各段階で多くの課題がある

- 準備段階では移動負担やバイタル測定
- 入浴中には洗いにくさや負担感
- 入浴後の乾燥や体温調整の問題等

訪問入浴 訪問介護

限られた住環境や限られた人数での対応が求められる中、
短時間かつ安全に支援を提供するための工夫と効率化が求められている

目的

介護現場が抱える以下の入浴関連業務の課題・ニーズを解決する
「**人員配置の効率化**」「**介助時間の削減**」「**教育コストの削減**」
「**皮膚トラブル防止**」「**介護職員の身体的負担軽減**」

実施内容

入浴支援の各フェーズにおけるこれらの課題を総合的に解決し、**介護の質の向上と介護職員の負担軽減を図る**ことを目的として、介護DXパッケージモデルの効果を検証

- 研究体制：（代表機関）アビームコンサルティング株式会社　（共同研究者）ニチイ学館
- 実証の実施期間：2025年11月～2026年2月
- 対象サービス：　通所介護（機械浴・個浴）・訪問入浴・訪問介護
- 実施地域・拠点数：8府県 40拠点
- 参加者：（職員）201名　（利用者）延べ767名

© 2026 NICHIIGAKKAN CO., LTD. All rights reserved.

3. 2025年度AMED採択事業　②研究パッケージの全体像

現状の入浴業務にバイタル計測機器・入浴支援機器・高性能ドライヤー・インカムを導入し、職員と利用者の負担軽減を目指した

ステップ	入浴前（事前準備）	入浴中（入浴支援）	入浴後（片付け）
業務内容	• バイタルチェック • 浴室誘導 • 脱衣介助 • 傷や発疹有無の確認 	• 洗体・洗髪介助 • 入浴中の安全確認 	• 着衣介助 • 整髪整容 • 水分補給の促し • デイルームへの移動介助
想定効果	計測データは**自動でクラウドに転送**（検証時は未実装） 職員はクラウドに管理されたデータを参照し、介護記録を作成することが可能	**洗体・洗髪を浴槽内で実施** **シャンプー・ボディソープ不要**	**素早い整髪を可能にし**、湯冷めを防ぐと同時に、全体的な時間短縮効果を狙う
導入機器	**バイタル計測機器（通所・訪問入浴のみ）** • 非接触で「血管情報」「心拍情報」「温度」を1人当たり最短３秒で一括測定 • 製品：**i-wellebe** 	**入浴支援機器** • こすり洗いせずに洗体・洗髪 • 製品：**ピュアット、ミラバスポータブル** 	**高性能ドライヤー（施設入浴のみ）** • 速乾性能の高いドライヤー 

インカム　（施設入浴のみ）

遠隔でデイルーム・洗い場・脱衣室 間の連携をとる

© 2026 NICHIIGAKKAN CO., LTD. All rights reserved.

4. 2025年度AMED採択事業　③研究結果詳細（一部抜粋）

KPIカテゴリ	当初目標・想定	実績・検証結果
■ **介助時間の削減**	□平均10分以上の短縮	• 職員ヒアリングでは、従来20分から10分で完了した旨の意見を確認。定量分析では、通所入浴の「事前準備時間」が減少。 • 一方、入浴支援・片付けでは有意差なし
■ **皮膚トラブル防止／十分な洗浄**	□こすり洗い・洗浄剤を前提としない洗浄により、皮膚トラブル防止および十分な洗浄につなげることを想定	• 乾燥肌等の皮膚トラブルの改善／拘縮のある利用者で汚れ落ちを実感したとの声が確認された • こすり洗い志向により満足感を得にくい場合あり
■ **介護職員の身体的負担軽減**	□NASA-TLX等での評価。 導入前後で平均スコア10%以上の改善を目標	• 定量分析では、 施設入浴では業務負荷に有意差なしの項目が多い一方、訪問系では機器の運搬・準備・片付けにより負担増加が確認された • 訪問系は利用者宅の住環境や機器搬入出のしやすさが負担に影響
■ **介護の質（利用者満足度）**	□平均0.5点以上の改善を目標	• 定量分析では、 通所、訪問入浴は有意差なし、訪問介護は減少 • 定性結果ではこすり洗いへのこだわりが満足度低下要因となる可能性あり
■ **介護の質（業務満足度）**	□職員満足度調査において、「入浴業務の負担感が軽減された」と回答する職員割合70%以上を目標	• 定量分析では、 通所：有意差なし、訪問入浴：増加、訪問介護：減少 • 定性では「より良い入浴支援サービスを提供できた実感」等の声がある一方、訪問介護では機器持ち運び・準備・片付けの負担が満足度低下要因となった可能性あり
■ **業務時間**	□介助時間短縮により業務効率が向上、職員の生産性が高まることを想定	• 定量分析では、 通所：入浴支援・片付け：有意差なし／事前準備：減少 訪問介護、訪問入浴：増加 • ドライヤーは定量で時短（7.5分→約4分）だが、業務時間全体の短縮としては有意差が確認できない項目あり

© 2026 NICHIIGAKKAN CO., LTD. All rights reserved.

4. 2025年度AMED採択事業　③研究結果サマリ

定量分析の結果、通所の入浴では準備時間の減少が確認された一方で、訪問系では負担増加の傾向がみられた

- 皮膚トラブル・拘縮の方への効果
  乾燥肌等の皮膚トラブル、手指のぬめりやにおいが改善されるなどの効果が確認できた

- こすり洗いへのこだわり
  利用者の中には、入浴とはこすり洗いをするものであるという考えを持っている方も多く、満足感を得られない方もいた

- バイタル計測機器や高性能ドライヤーの効果
  入浴介助の前後で使用した機器は、業務効率化・時間短縮の効果が確認された

- 訪問入浴、訪問介護での負担
  入浴支援機器は、移動時には重く運びづらい、また利用者の住環境のなかで扱いづらく、訪問領域における機器の使用は、職員の負担が大きい点が確認された

- 拠点間の差
  同じサービス種別や都道府県内の中でも、拠点間で利用者満足度や職員の満足度に差があった

© 2026 NICHIIGAKKAN CO., LTD. All rights reserved.

4. 2025年度AMED採択事業　④課題と改善の展望

- 利用者のこすり洗いに対するこだわりを尊重しつつ、これまでの入浴習慣を大切にしながら、機器の使用目的や利点を職員間で共有していくことが重要
- また、職員の負担軽減のためには、持ち運びが不要で使いやすい機器への改良が必要となる

課題	解決方針	具体例
✓ 利用者のこすり洗いへのこだわりが強い	➢ 機器利用が利用者にとって良い入浴体験であることを職員が正しく理解・納得し、利用者に案内する	■ こすり洗いが不要な理由を確認：泡による洗浄で皮脂汚れは落ちること、摩擦刺激は高齢者の皮膚に負担になること、衛生面の検査はクリア済みであること等 ■ 機器を使うことによるメリットの訴求：拘縮のある利用者様等の無理な身体操作が不要となること、肌/髪への美容効果があること、洗身時間が減り身体が冷えにくい等 ■ 利用者の気持ちの尊重：浴槽内でなで洗いする等、利用者に向き合う時間を作る ■ 成功体験の獲得：職員が効果を実感しやすい皮膚疾患がある方、拘縮のある利用者から導入することで効果を実感していただく
✓ 入浴支援機器の持ち運びや準備・片付けの負担が大きい	➢ 機器を「運ばずに済む」もしくは「運んでも負担にならない」利用・設計とする	■ **短期的な対応**：利用者が自費購入、または事業者が購入し利用者に貸与し、持ち運びが不要となるサービスを確立する ■ **中長期的な対応**：機器の軽量化および、コードレス化等、ポータブル性や扱いやすさを向上させる

➢ 入浴業務前後で使用したバイタル計測機器やドライヤーに関しては一定効果が確認できたため、バイタル計測機器で取得したバイタルデータの介護記録システムへの自動連携等が実現されると業務効率のさらなる向上が見込める

© 2026 NICHIIGAKKAN CO., LTD. All rights reserved.

5. 今期の継続取り組み

AMED研究を踏まえ、通所介護サービスにおける入浴支援機器・身体負荷軽減機器を組み合わせた入浴支援パッケージのブラッシュアップを実施中。

背景・課題

- 入浴介助は身体・暑さ・人員負荷が大きい
- 利用者満足度への影響が大きく、品質上重要な業務
- 通所介護の差別化に繋がる可能性あり
- FY25AMED研究で一定の可能性は確認されたが、
  - どの条件で有効か
  - どの組み合わせが良いか
  - どの運用なら定着するか　　の整理が不十分

本実証で確認すること

現場負荷軽減	身体的・暑さの負荷は軽減するか
業務負荷軽減	業務時間・工程負荷は変化するか
定着性	通常運用で継続利用できるか
実装性	業務へ組み込みやすいか
利用者反応	利用者満足へ繋がるか
差別化可能性	利用者獲得の訴求要素となるか

実証対象機器

❶バイタル測定機器

A：i-wellebe



❷入浴支援機器

B:ピュアット/C:ミラバス





❸身体負荷軽減機器

D:ワークベルト/E：冷却ベスト





追加

❹乾髪機器

F:ドライヤー＋スタンド

＋浴室内環境整備





追加

「機器導入」ではなく、「現場で継続運用できる入浴支援モデル構築」を目的として実施中

© 2026 NICHIGARAKAN CO., LTD. All rights reserved.

やさしさを、私たちの強さにしたい。

ニチイ

日本生命グループ

© 2026 NICHIIGAKKAN CO., LTD. All rights reserved.

「介護テクノロジー等活用ミーティング」

AI見守りカメラの活用による他職種連携と、

映像分析を通じた介護の質の向上

～転倒による、骨折OP入院ゼロ・稼働率向上

・職場環境改善の実践～



社会医療法人中山会　介護付きホーム　宝木荘

栃木県宇都宮市宝木町2丁目1090-27

施設長　大垣治彦

Profile



社会医療法人中山会
介護付き有料老人ホーム　宝木荘
施設長
大垣　治彦様

「ユニットケア施設管理者研修終了・職場衛生推進者養成講習修了 スマート介護・高齢者権利擁護推進員養成研修」・介護福祉士

栃木県有料老人ホーム連絡協議会　会長

略歴（抜粋）

- 2011年より、社会医療法人中山会　介護付き有料老人ホーム　宝木荘　施設長
- ケアミックス医療機関、大腸消化器専門医療機関　事務部長勤務（約20年医療機関）
- 公益財団法人　介護労働安定センター栃木支部　令和7年度　委嘱講師
- 令和7年度“介護職場働きやすい職場環境つくり”厚生労働大臣表彰　奨励賞受賞
- ユニットケア推進センター・ユニットケア管理者研修受講
- その他、福祉系雑誌、新聞、FMラジオ、TV等取材、インタビュー多数等

介護施設にAIを活用

“見える化から気づく介護へ”

AIカメラで変わる見守りの未来～AIカメラで見た転倒の事実

AIを活用した効果を
第一線の施設が
わかりやすく解説！



東電タウンプランニング株式会社
スマート介護士　営業担当部長
松村 史岳

×

社会医療法人 中山会
介護付き有料老人ホーム宝木荘施設長
大垣 治彦

Careテクノロジー東京'26

Ace care

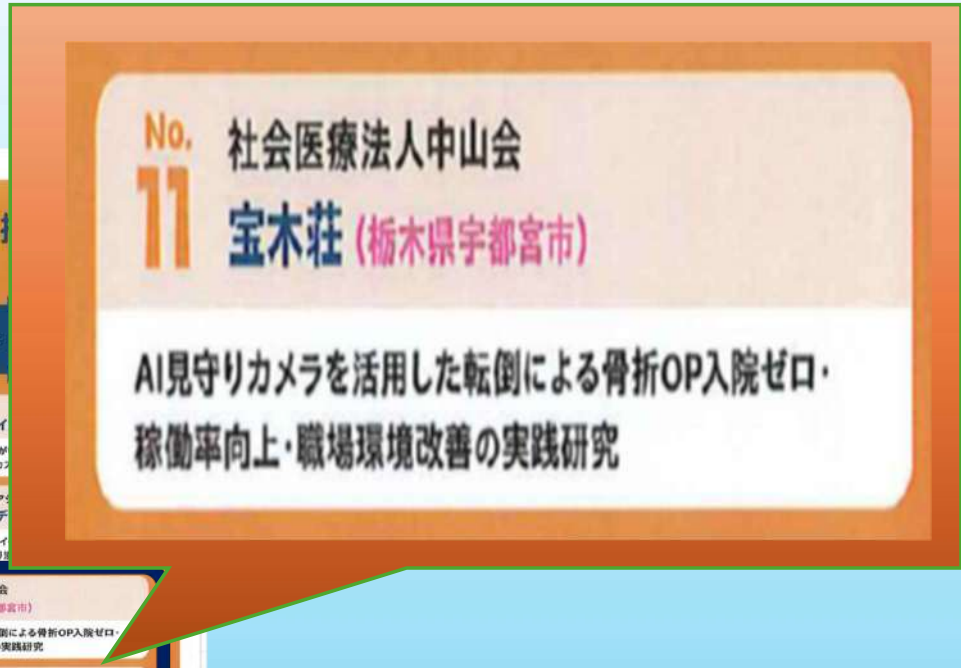
東電タウンプランニング株式会社

全国介護付きホーム協議会　優勝賞受賞

全国より１０７エントリーうち、１５組が選出







宝 木 荘 は、社会医療法人ならではの安心感を

・地域に根ざした、医療と介護の連携をテーマに・・・

・「社会医療法人中山会」が運営する、宇都宮市の介護付き有料老人ホーム。
すぐそばには信頼の医療ネットワークがあり、高い安心感のもとで質の高いケアを
提供を目指しています。



宇都宮記念病院・健診センター



鷲谷記念病院



介護付きホーム　宝木荘

社会医療法人中山会
介護付きホーム 宝木荘

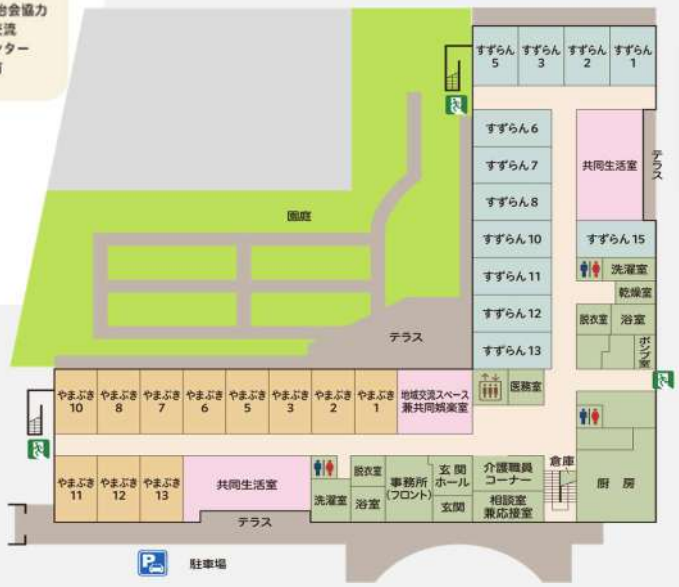
宝木荘の概要













Copyright©2026 TEPCO TOWNPLANNING CO.,LTD. All rights reserved

宝木荘　概要



R7年度　栃木県代表
“介護職場働きやすい職場環境つくり”厚生労働大臣表彰　奨励賞
受賞

「職員状況」

職員数：37名 介護職、ケアマネ、相談員、PT/ST、看護師、
栄養士、調理師、送迎員等
常勤換算数：33.9名

介護職員数：17名（海外人材6名うち、介護福祉士取得者2名）
介護福祉士充足率70.6％：介護職員比率2 .6： 1

「利用者状況」

入居者数：45名
平均介護度：3.1
平均年齢：90.8歳
介護度3～５割合　64.5％

○今後中重度利用者・認知症利用者増
◎介護職→技術力、観察力、判断力Up
◎DX化加速、生産性向上へ、海外人材教育支援など更に取り組まなければない！

1．介護職員等処遇改善加算（Ⅰ）初年度より取得
※「R8.6～（Ⅰロ：15.9％）上位加算取得」

2．科学的介護加算（life）初年度より取得

3．生産性向上推進体制加算（Ⅰ）取得「R7.2～宇都宮市で初取得」

社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘

“働きやすい職場環境つくり”
具体的な取組内容　生産性向上へ繋げるために

課題1.【人材育成】

・人員不足解消、3年～5年目職員の離職、職員定着率Up安定した職場環境に、接遇重要視
・介護ケアサービス向上、資格取得支援制度導入など

課題2.【海外人材採用・ケアアシスタント配置】

・直接業務と間接業務の洗出しより、適材適所による業務分担が必要であった
・常勤・臨時職員の役割明確に残業削減、有休取得率Up、公休、休暇時間の確実な取得へ

課題3.【生産性向上　ICT・テクノロジー・(AI)介護ロボット導入】

・介護記録の在り方、 リアルタイムな情報共有化、議事録・各種回覧の遅延、入居者直近の情報把握しにくい環境、オンコール対応看護職員の精神的負担、、16h夜勤介護職員の肉体的、精神的な負担、転倒事故等対策・分析

多数ある介護施設の中でも先進的な介護施設をめざす！

数値目標　テーマ別計画　スローガン

部　門	担当者	数値目標	テーマ別計画	スローガン
管理部	施設長	・介護 ・人件 ・一般	・各職種 ・介護職 ・業務改 チームを ・居室環境別のまる差別化 ・DX経営からの利便性の実績状況及び今後へ向けた状況確認	・利用者様 ・地域に根 す。 ・働きやすい職場環境つくり
	介護支援専門員	・事故報告書件数20%削減、ヒヤリハット件数20%アップ ・施設内研修内で3か月毎に接遇研修を取り入れる	・ご利用者、ご家族が安心して過ごすことができる環境を整える ・転倒、転落事故発生時にカメラ映像から原因を把握、分析し再発防止に努める ・ヒヤリハット報告書での気づきを増やすことで事故を防ぐことができる ・個々の背景や生活環境、心身状態に合わせたプランの策定	・信頼されるケアマネージャー ・ご利用者一人一人の個性を大切にしたケアプランの策定ができる
	生活相談員	・入居者平均43名以上維持 ・待機者15名以上 ・利用者様から相談件数10%増	・丁寧、真摯な態度での接遇 ・見学から申し込みへのスムーズなアプローチ 適宜適切な利用者様、ご家族様への情報提供 感染対策を行った上でのレクリエーション・地域交流の開催	・話やすい、相談しやすい顔なじみの相談員、窓口であるよう努める
	請求事務	・返戻0の維持 ・有給充足率の促進	職員の声かけを上に伝わりやすくし、公休や有休が平等所属長、責任者に働きかける	・コンプライアンスに則り職員が理不尽にならないようパワハラや差別のない職場環境にする ・事務員としてご利用者、ご家族からの信頼を得られるようにする
介護部	介護リーダー	職員の離職率0% 有給消化率20%増	日勤帯で利用者に安心、満足した生活を送れるように職員同士が協力し合い実行する。 ・働きやすい職場環境作り目指す。(効率の良い業務、職員への身体の負担軽減、人事確保、新入職員の指導強化、有給休暇取得率Up) ・AI見守りカメラ・インカムなど使用し日常の中で効率の良い業務を見直していく。	一人一人が職員と協力し合い、ご利用者様に満足をご家族様に安心を届けられ、働きやすい環境つくりを努める
看護部	看護職	・褥瘡発生率0件維持 ・感染クラスター発生率0%	・知識や手技をより高めご利用者、ご家族との信頼関係を深め心通う看護サービスを提供する ・連携医療機関の研修に参加することや施設内研修で知識の共有化を図り徹底した感染予防対策を行う	ご利用者様がその人らしくあるため生活を支え笑顔で明るい看護を実践できる
日常機能運動部	日常機能運動部	・個別機能訓練1000回/月以上	・他部門・他職種との情報共有・連携に努め、個々の状態に合ったプログラムの計画・実行し、定期的に評価や見直し行う。 ・ご利用者様の心身機能に寄り添った介入、ADL能力に応じた環境の整備をサポートする。 ・足浴利用や中庭散歩の誘導の推進	ご利用者様の個々のニーズに合わせた機能訓練を行い、QOLの向上につながるよう心掛けた介入をしていく
栄養科	栄養士科長	・食事事故0 ・毎月1回以上の有休取得	・「食べる喜び」を満喫していただけるよう心をこめて食事を提供する ・他職種と連携を取り、急な体調変化時にも迅速に対応する ・働きやすい職場環境作りを行う	・ご利用者様一人一人に寄り添い、安心安全な食事提供を行う
施設課	施設課　主任	・火災害0、人的災害0 ・送迎業務　交通事故0、交通違反0	・BCP対策を強化し、地域との連携をとる ・ご利用者様に安全、安心をしていただける送迎業務に努める　・ご利用者様に満足していただける環境作りを目指す(5S・3M)	・ご利用者様にご家族様に安心安全な環境作りを目指す ・安全・安心な送迎業務でご利用者様に不安を感じさせない運転業務をする

Classified as Microsoft Confidential

看護部活動概要

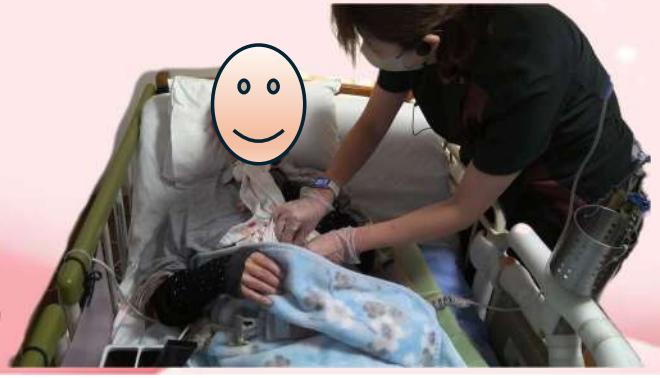


・健康管理：毎日のバイタルチェック、服薬管理、体調変化の早期発見、
皮膚トラブルの予防や創傷処置、吸引、経管栄養などの実施
夜間のオンコール対応

・医療連携：定期受診の付き添い、医師の指示に基づく医療処置及び
緊急時対応、訪問医診察介助や受診時のサポート、指示受け

・ご家族様対応：健康状況の報告、介護・医療相談の実施









介護部

スローガン

寄り添う心と効率化で届ける、最高の安心と笑顔

海外職員の活躍と24時間安心のチームづくり

これまでの研修や指導をしっかり活かし、現在は海外職員も夜勤を担当して頼もしく活躍しております。国籍を問わず助け合える体制を整え、24時間いつでも安心していただけるケアをお届けいたします。

ICT（AIカメラやインカム）の活用とケアの質アップ

すでに現場になじんでいるAIカメラやインカムをより有効に活用し、夜間も含めて素早く安全に対応できる力を高めてまいります。

介護部の取り組み

🌏 海外職員の夜勤での活躍とサポート

夜勤でも頼れる戦力として活躍している海外職員が、より安心して力を発揮できるよう、日頃のコミュニケーションやフォローを続けてまいります。チーム一丸となって、24時間しっかり寄り添うケアを行ってまいります。

📷 ICT機器をさらにスムーズに使いこなす

見守りカメラやインカムをスタッフ全員がより連携させて使いこなし、ご入居者様の状態確認やお声がけを早め早めに行えるようにいたします。

💬 生まれた「ゆとり」を皆さまとの時間に

業務がスムーズになったことでできた時間を、45名の皆さま一人ひとりとお話しする時間や、丁寧なケアの時間にしっかり使ってまいります。

日常機能運動部

機能維持 → 活動の広がり → QOL向上 → 意欲向上

QOL向上から意欲の向上につながるような関りを



主な支援内容

1. 残存機能を活かした日常生活動作の維持や自立度向上の支援



2. セラピスト個別介入プログラム



3. 体操・レクリエーション活動



4. 福祉用具の検討



5. 安全面や機能維持に配慮した環境整備















令和８年度 主な取り組み



交流スペース利用や中庭散歩等、ユニット以外での活動参加の推進や他ユニット入居者との交流



心身機能に合わせたプリントや工作等、巧緻動作や机上課題の取り組みの充実



他職種スタッフ間との情報共有に努め、個々に合ったプログラム作成



月２回の言語聴覚士による個別介入と評価、口腔体操の継続

栄養科

テーマ

【ご利用者様一人一人に寄り添い、安心安全な食事提供を行う

『食べる喜び』を満喫していただけるよう心をこめて食事提供を行う










他職種と連携を取り、利用者様の急な体調変化時も迅速に対応する





食品の温度管理、食材や器具の洗浄、手洗い等衛生面の徹底を行う





日々変わる利用者様一人ひとりの体調や食事量を観察し、ベストな食事形態で提供を行い、生活の質を高め、健康維持をサポートする



Classified as Microsoft Confidential

施設環境管理部より

〈スローガン〉
ご利用者様に満足をして頂ける環境作り

日常生活環境整備

ご利用者様の
居室の環境整備
保全の徹底

職場安全衛生委員会

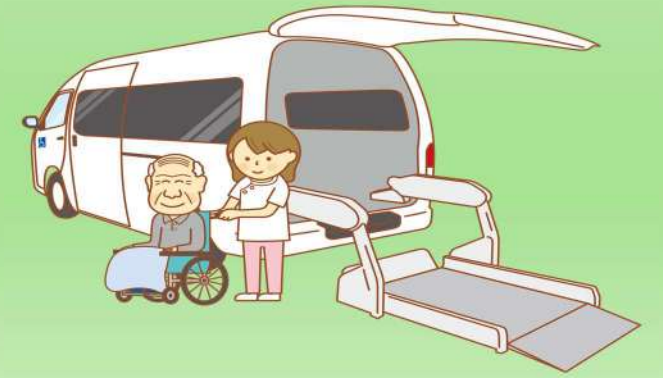
月に一度巡回、指導
５Ｓ活動の実施
働きやすい職場環境
り

送迎業務

２種免許保持
ご利用者様に安心して
いただける
送迎業務







施設環境管理部より

〈施設環境整備〉
・故障など敏速な対応毎月環境衛生面の巡回チェック
〈職場環境整備委員会〉
５Ｓ、３Ｍ活動
・ムリ・ムラ・ムダがない働きやすい職場を作るために、
・５Ｓに取り組み『実行』しています。
　目的…業務を安全かつ効率的に行い、職場環境整備と業務改善を行う５Ｓとは…
　　整理、整頓、清掃、清潔、躾
（習慣）３Ｍとは…日常業務において、ムリ、ムダ、ムラをなくし効率的業務

施設環境整備委員会　チェックシート（1F）

令和　7 年　11 月　30

場所	チェック項目			汚れ、破損・整理整頓	確認者
やなぶき フロア	椅子、テーブル キッチン クローゼット フロアの床 壁	椅子の破損	✓	5S活動のポスター標語の作成。	新井 奥村
		テーブルはぐらつき	✓		
		床にゴミ	✓		
		クローゼットの整理整頓	✓		
		壁の汚れ、破損	✓		
		キッチンの整理整頓	✓		
		レンジフードの上に物はないか	✓		
やまぶき 廊下	手すり クローゼット 床 壁	手すりのぐらつき	✓	特になし	新井 奥村
		電球が切れていないか	✓		
		ゴミ、汚れ	✓		
		クローゼットの整理整頓	✓		
		壁の汚れ、破損	✓		
やなぶき 洗濯室 汚物室	棚 乾燥機 洗濯機 床 壁	棚の整理整頓	✓	汚物室の棚の清掃	新井 奥村
		乾燥機、洗濯機の汚れ	✓		
		床のゴミ、汚れ	✓		
		パイプスペースの上に物はないか	✓		
			✓		
		壁の汚れ、破損	✓		
個浴	浴室 脱衣所 洗面台 椅子、床、壁	脱衣所、浴室の整理整頓	✓	特になし	新井 奥村
		洗面台の汚れ、整理整頓	✓		
		椅子の破損	✓		
		水垢の有無	✓		
		カビの有無	✓		
すずらん フロア	椅子、テーブル キッチン クローゼット フロアの床 壁	椅子の破損	✓	5S活動のポスター標語の作成　キッチン周りの道具を移動。 コップ類を利用者の見えない棚の中に移動。 冷蔵庫清掃	新井 奥村
		テーブルはぐらつき	✓		
			✓		
		床にゴミ	✓		
		クローゼットの整理整頓	✓		
		畳スペースの整理整頓	✓		
		壁の汚れ、破損	✓		
		キッチンの整理整頓	✓		
		レンジフードの上に物はないか	✓		
			✓		

Classified as Microsoft Confidential

宝木荘導入事例

1.情報共有システム化

・アイコム：イアホン・骨電型インカム
・ブルーオーシャン：記録システム、
電子サインシステム（ケアプラン・機能運動計画書）
・ワイズマン：請求ソフト、請求伝送システム
MELL+ファミリー
・アルコンEX：レコ楽くん
・クロノス：勤怠管理システム
・協力医療機関電子カルテ連動

2.海外人材の記録指導・知識学習支援

・ブルーオーシャン：AI機能付き 音声入力
・多言語変換入力・文章校正システム

・日本クリエイト：eラーニング

3.移乗機器

・フジ：ハグ
・OG技研　臥床型入浴機器



4.見守りシステム

・東電タウンプランニング
AI見守りカメラ（AceCare）

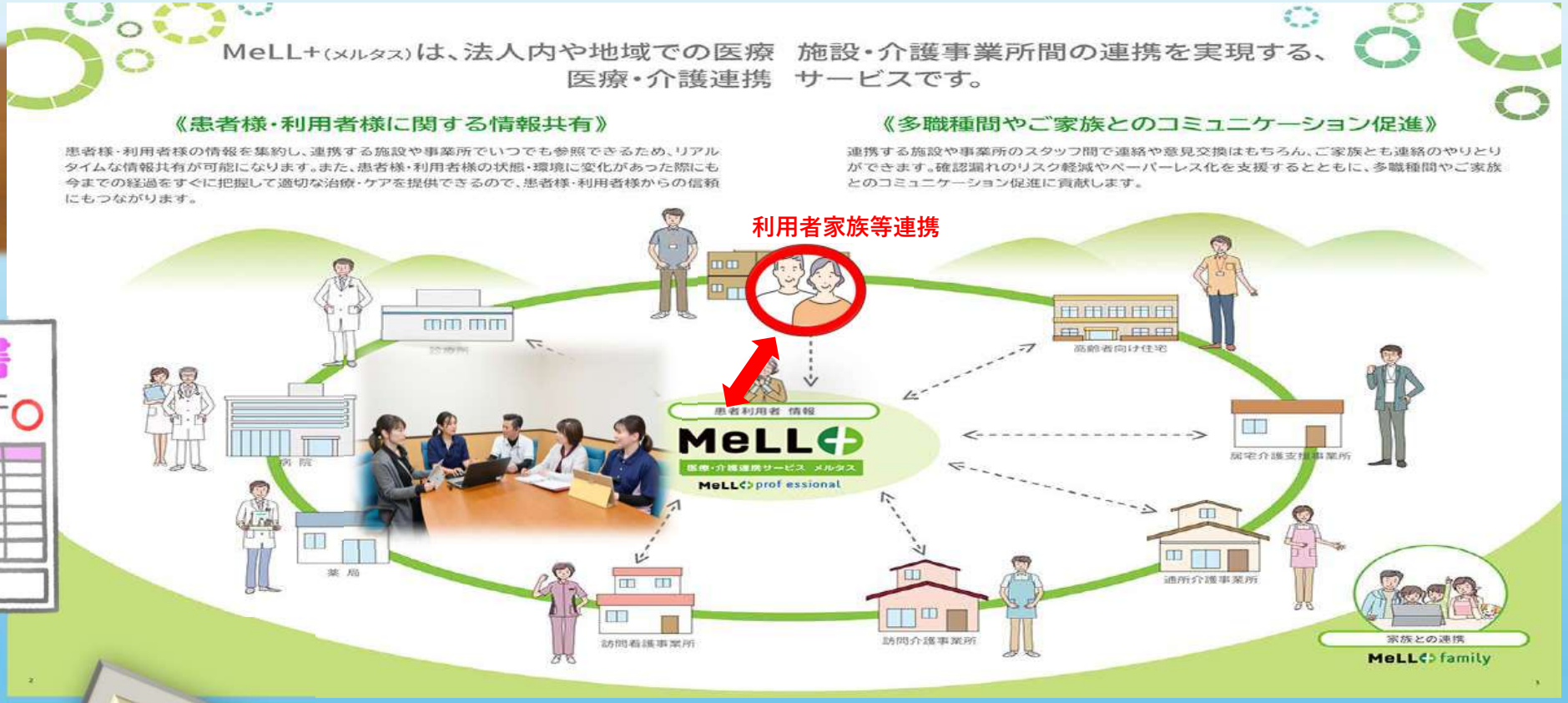
・デバイスアンリミテッドジャパン
見守りカメラ付センサー（RX-5)
・ペーシェントウォッチャー
・バイオネクスト：センサーマット
・ブルーオーシャン：自動記録血圧測定、
体温測定

takaragisou

社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘

職員、利用者ご家族、協力医療機関、協力機関との情報共有システム











食事ツアー
photo

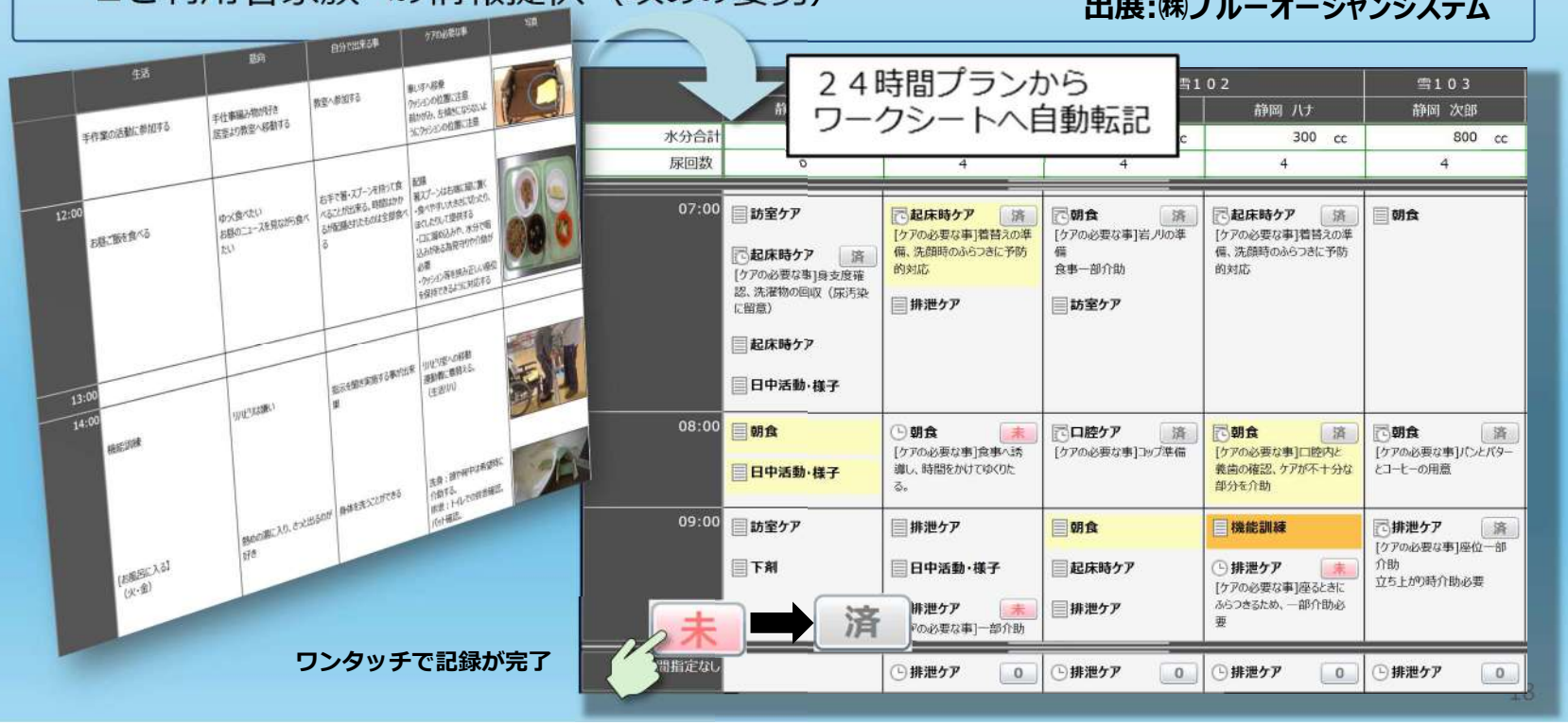
- 医療・介護関係者、利用者、家族との情報連携を目的に、SNS型の情報連携コミュニケーションアプリを活用。これも、地域包括ケアシステムを念頭に置いた仕組み作りの一環と、当時は考えました。

介護記録ソフトの導入

【24時間プランへのこだわり】

- ■PCが苦手な職員でも対応できる直観性
- ■実施記録とプランとの連動性
- ■情報の集約（業務日誌、温度板）
- ■ご利用者家族への情報提供（攻めの姿勢）

出展:㈱ブルーオーシャンシステム

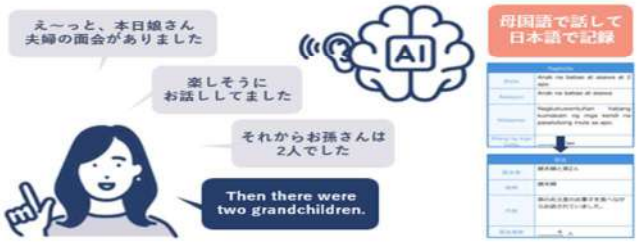


AIシリーズ

特許取得

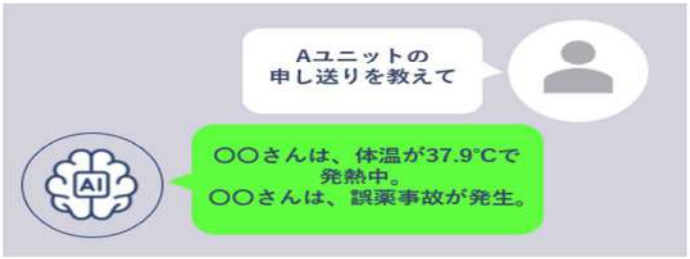
いつも通りに話すだけで記録完了！「AI音声入力」

発話ルールはいっさいありません。
自然な話し言葉のまま、喋るだけで記録が作成されます。
母国語での発話内容も日本語で記録できます。



聞くだけで欲しい情報がすぐ手に入る「AI申し送りチャット」

日々の記録をAIが自動で集計・分析。必要な情報を
すぐに検索・確認でき、情報共有やケア・支援の質の向上に
役立ちます。



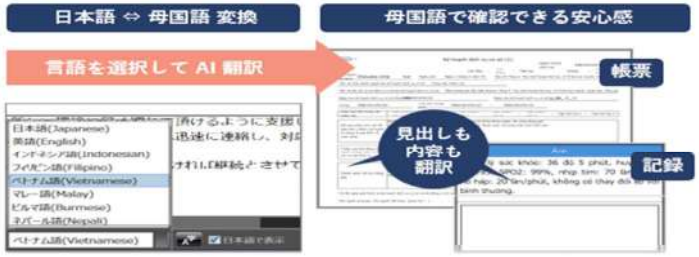
膨大な記録の要点をまとめて自動作成「AI文章作成」、「AI誤字脱字チェック」

蓄積された記録を、事故報告書やサマリー、モニタリング、
ご家族へのお便りなど用途別に自動要約します。



外国人スタッフの採用・定着を支援「AI多言語翻訳」

記録も帳票も、110言語に対応。日本語に不慣れな外国籍
スタッフでも母国語で記録内容を確認でき、安心して
業務に取り組めます。



出展:㈱ブルーオーシャンシステム

バイタル機器連携

【コロナ禍でのニーズ】

- **■血圧、体温測定時に連動して、ﾌﾞﾙｰオーシャン記録システムに自動記録される**
- ■衛生管理の更なる業務負担
- ■日々、バイタルチェックにかなりの時間を要する
- ■いままで1時間以上かかっていたのが、4分の１に軽減！

バイタル機器連携の写真



ブルーオーシャン
電子サインシステム導入
帳票類：①施設ケアプラン第１表
②個別機能訓練計画表
③身体拘束に関する説明書など

・家族説明による認めサイン（電子化）
⇒ワイズマン　メルタスｆａｍｉｌｙ連動し、家族へ電子保存送信へ

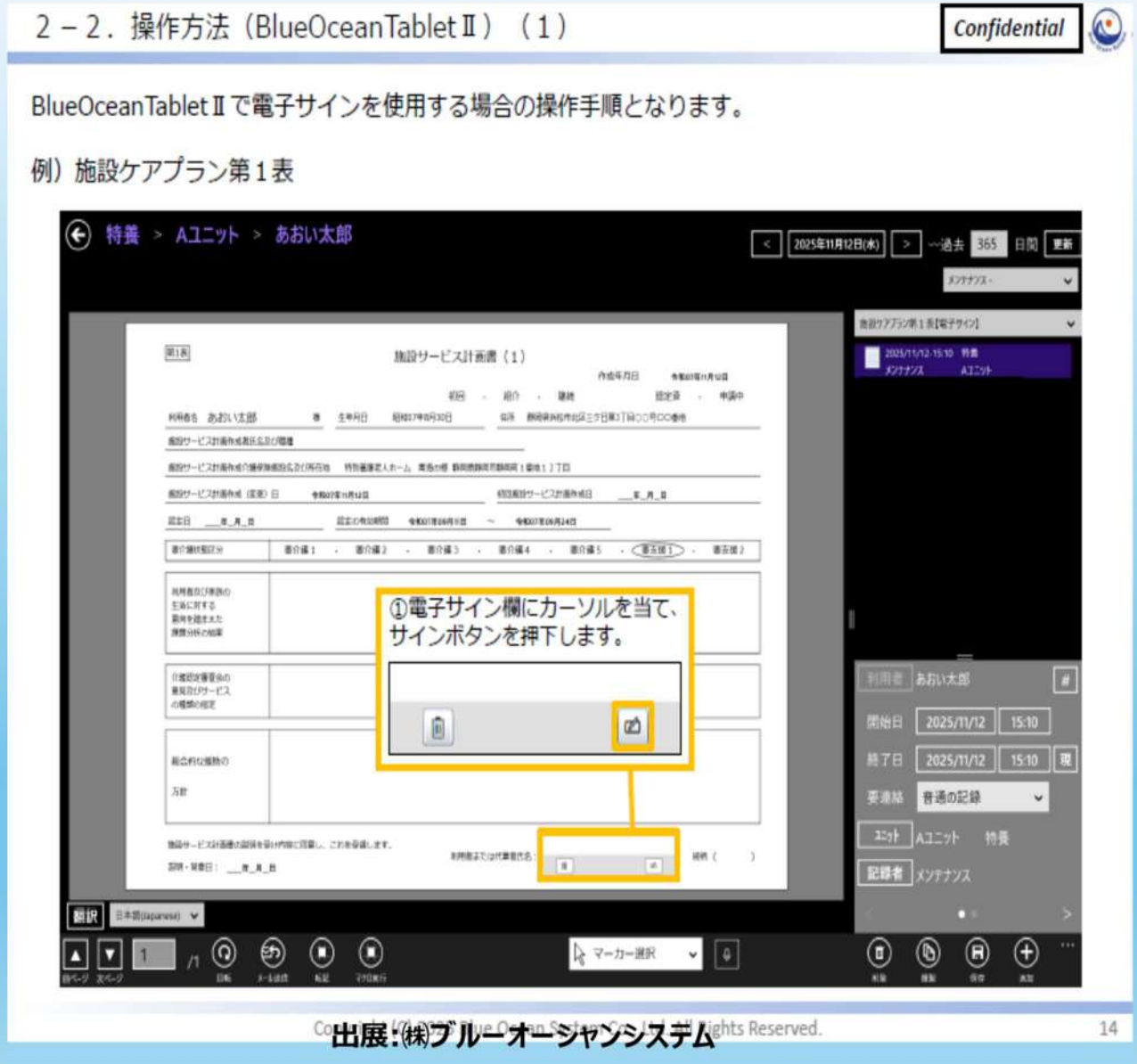
※ペーパーレス化へ

電子サインが可能な**「標準版電子サイン対応帳票」**をリリースいたします。

【対象】
・BlueOceanNoteⅡ　（パソコン）
・BlueOceanTabletⅡ　（Windowsタブレット）
・BlueOceanPadⅡ　（iPad、iPhone、android）

【イメージ】





出展：㈱ブルーオーシャンシステム

AI見守りカメラを活用した

転倒による骨折OP入院ゼロ・稼働率向上・職場改善の実践研究

1.背景と課題

～早期リスクの把握、先回り介護ケアへ～











Acecare®

社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘

背景：介護現場の見えないリスク

転倒・ずり落ち・離床・夜間の急変など



従来は・・・「起きてから対応する介護」・・
「見えないリスク」にどう向き合うか？



事故発生時の状況把握が難しい・・・
家族への説明に必要な情報が少ない！
医療機関・救急隊への情報共有に時間がかかる
夜勤職員・オンコール看護職員の負担が大きい

「事故が起きてから対応する介護」から、
リスクを早期に把握し、先回りして対応する介護へ

社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘

AI見守りカメラの導入へ

「見る」から「気づく」へ

→全居室・全フロアーへ設置
（５４台）



＜**AI**が気づく＞

→　職員が映像確認

→　人が判断する

→　必要なケアにつなげる





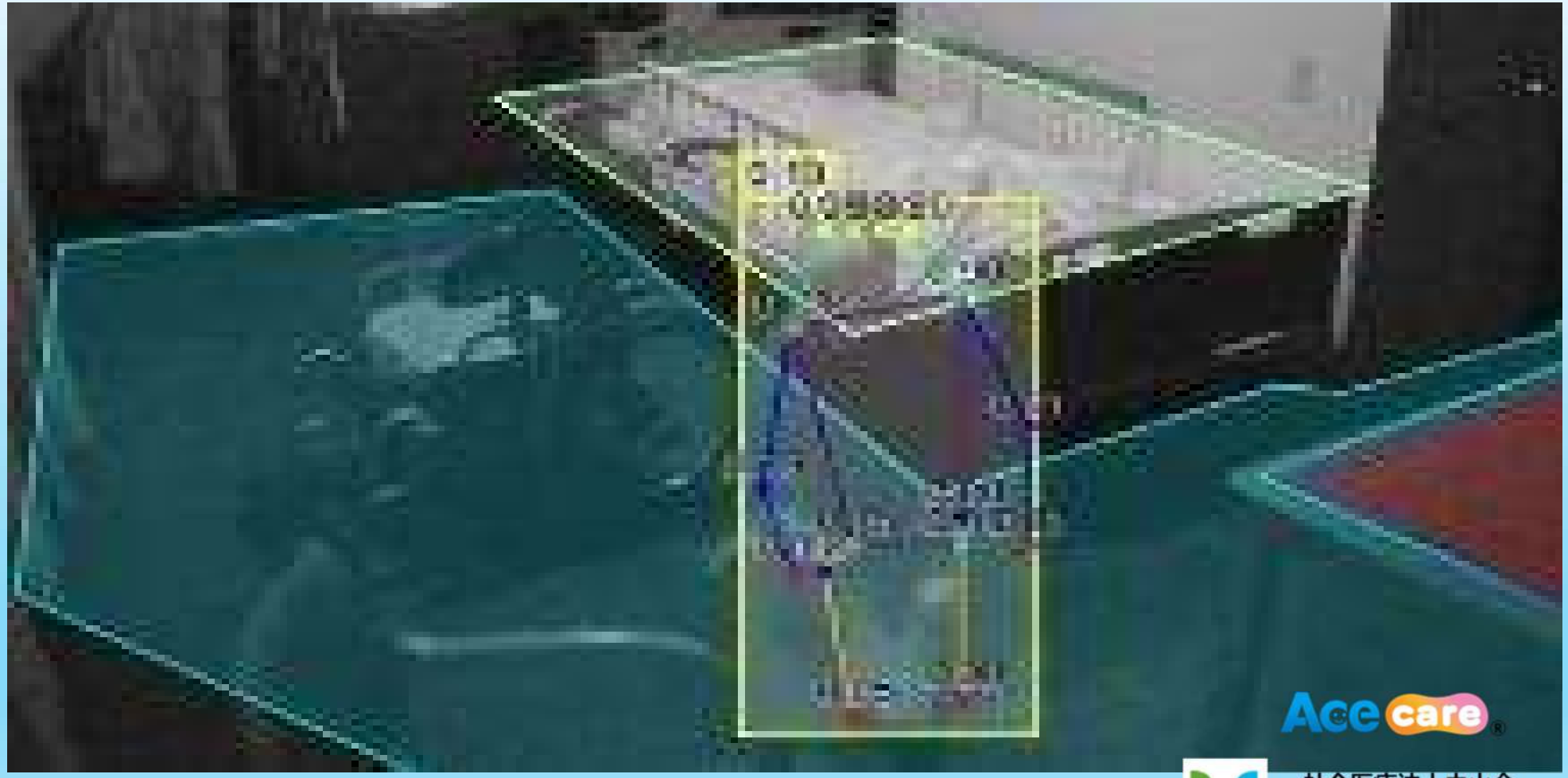
社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘

ベッドからずり落ち転倒



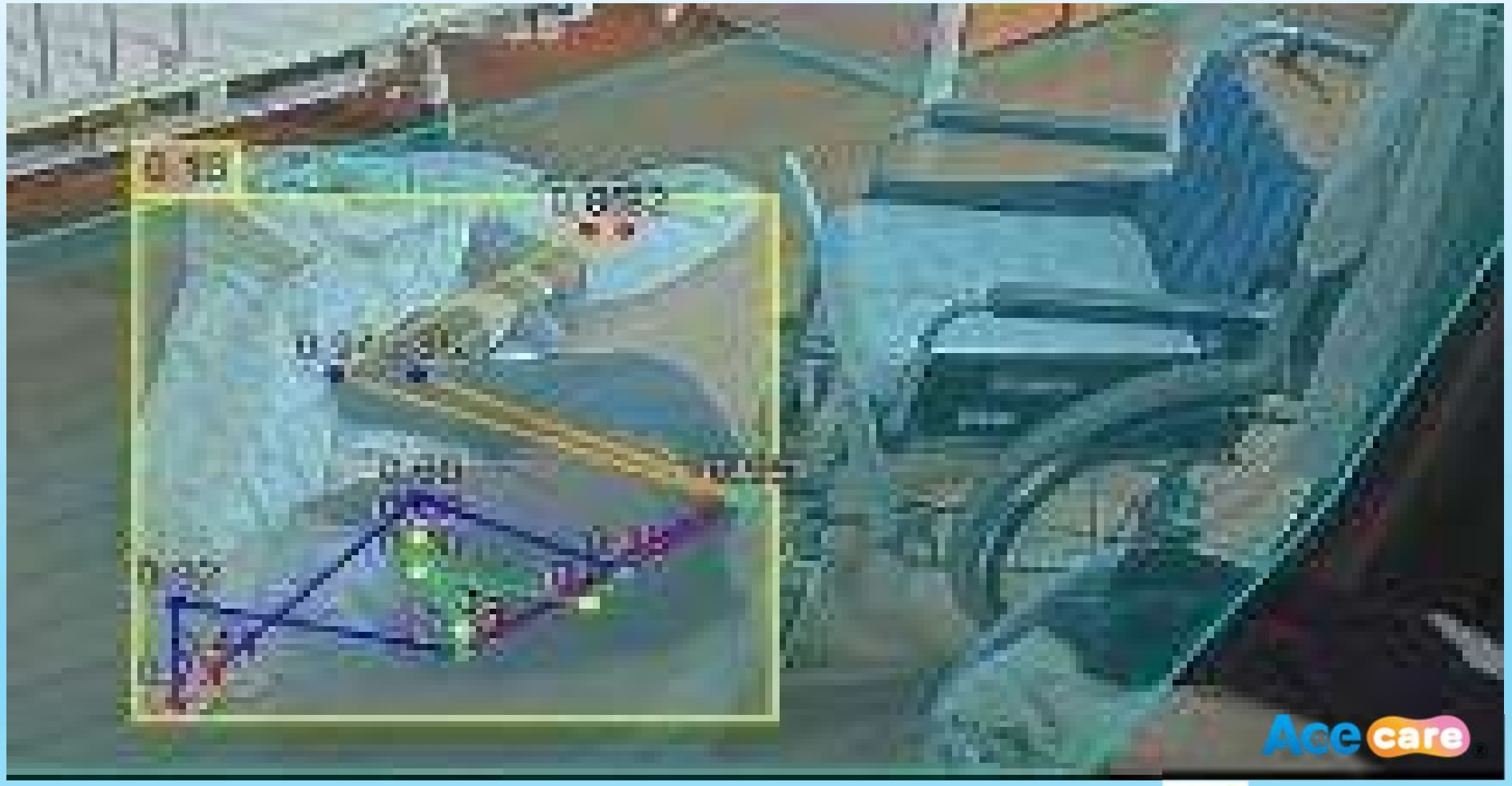
社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘

夜中に車いすから転倒



社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘

夜中に車いすから転倒



社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘

ベット上から転倒



社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘

AI 映像からの分析・・・

～AI映像から見ていることは～

◎転倒したという、事実だけではなく

◎その前に、何が起きていたのか？

◎なぜ起きたのか？

◎そして、どう防ぐのか？





社会医療法人中山会
介護付きホーム 宝木荘

映像から「次のケア」へ

映像

原因分析

ケアの見直し

施設外での転倒映像共有化
（クラウド型モバイルPC）→
救急隊・医師・家族





職員間の共有

再評価

～新規 委員会を設置～
・生産性向上推進委員会
・テクノロジー委員会
・職場環境安全衛生委員会

社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘



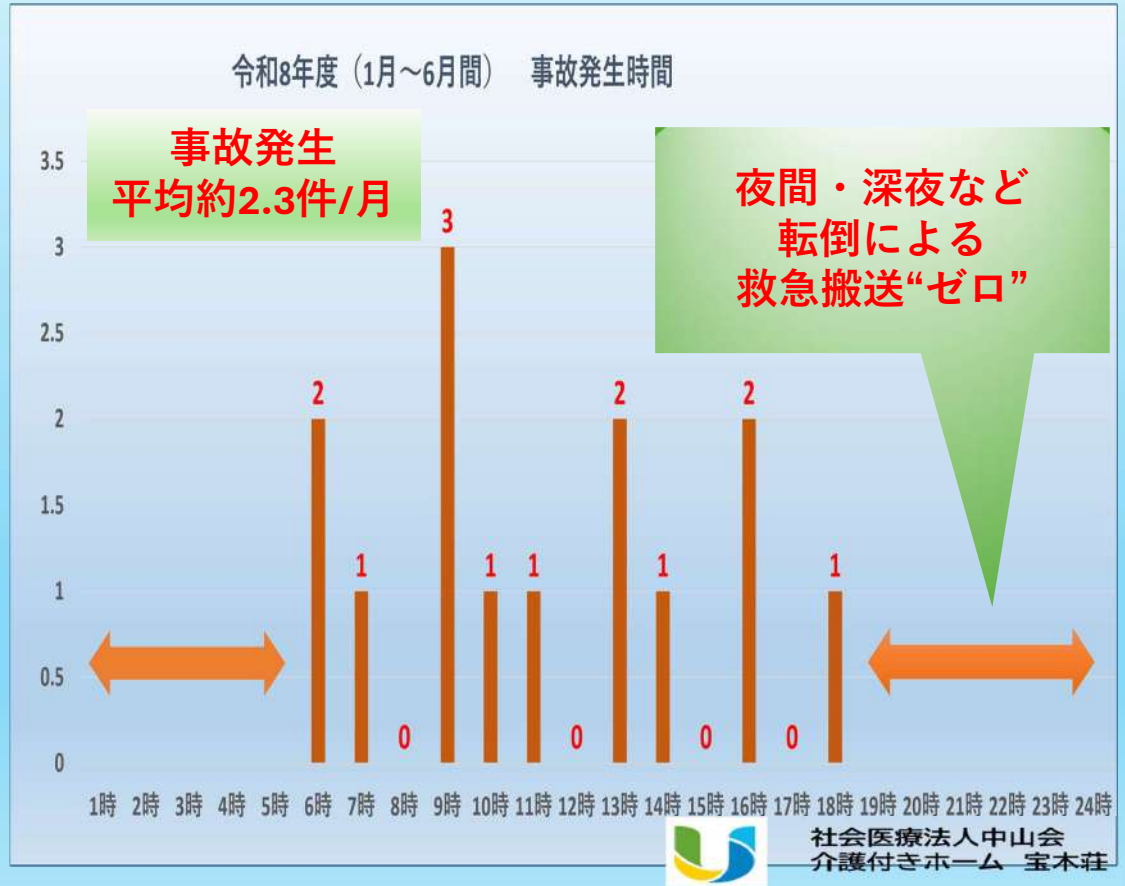
事故発生時間



”AI による端座位アラートの効果”

※R7.1から6月現在転倒による、骨折・OP入院　救急搬送 “ゼロ”

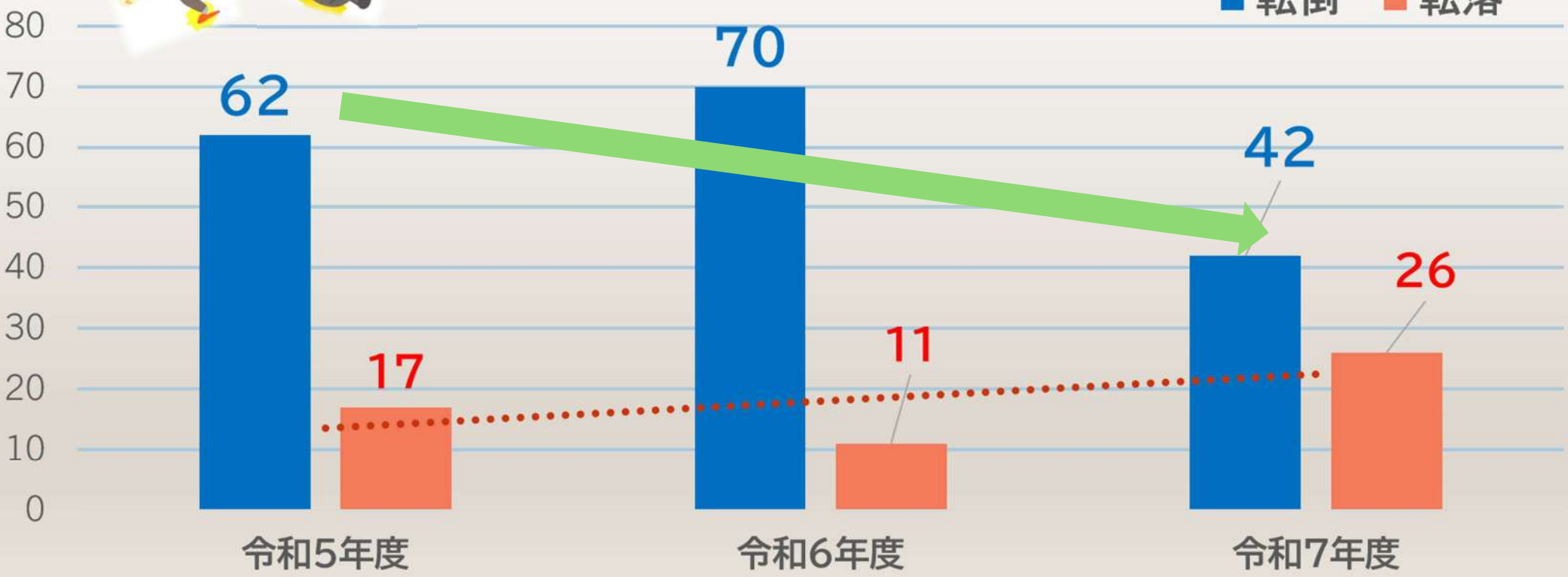




社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘



転倒・転落件数（年度別）



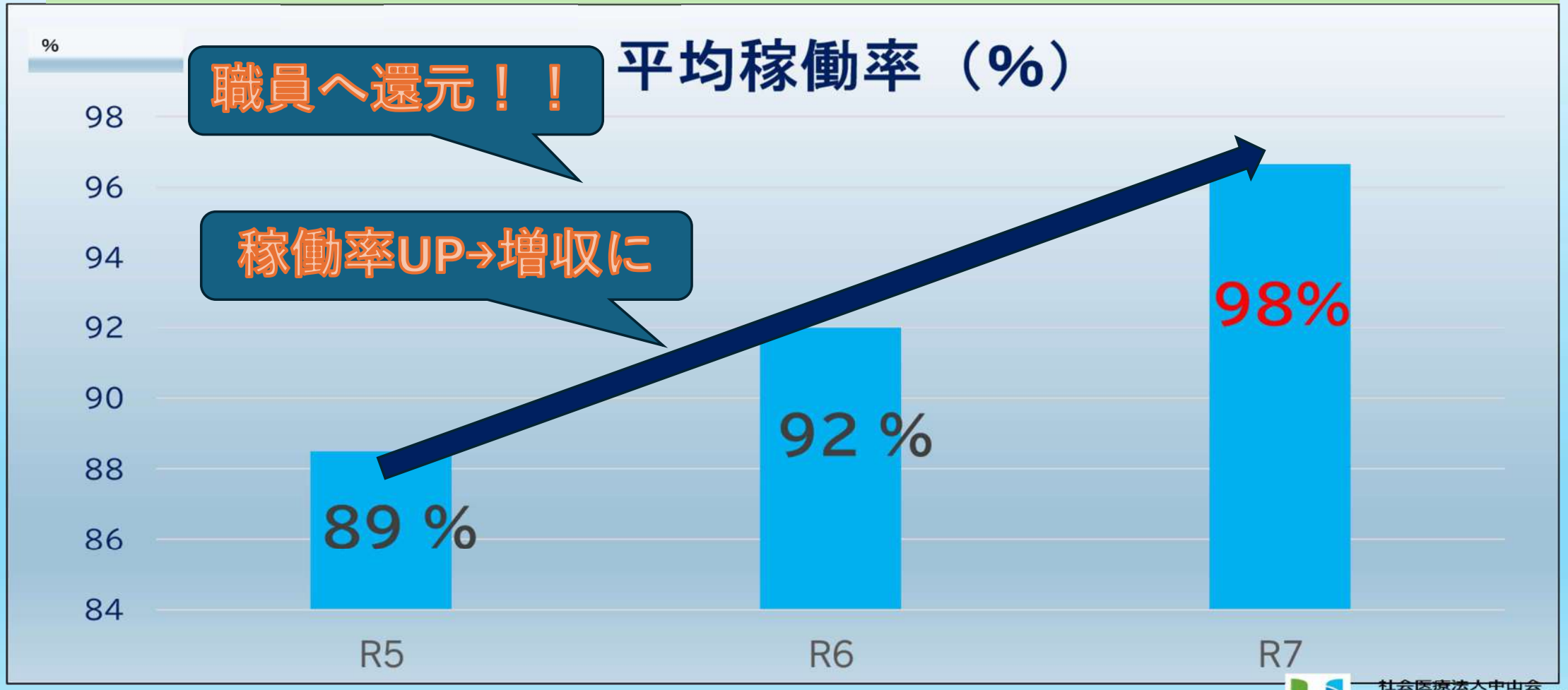
※転倒・転落事故対策に映像より、的確・迅速な対応ができる

※職員のメンタル的・精神的負担軽減とリスク回避へと、利用者、ご家族への信頼度UP

社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘

入居者稼働率(年度別)

稼働率UP …▶ 収益性Up …▶ 介護職員等処遇改善加算(1) 15.9%の上位加算



社会医療法人中山会
介護付きホーム 宝木荘

数字から分かった成果＜R7.1～R8.8.31間＞

夜間・深夜救急搬送	0件
転倒による骨折・OP・長期入院	0件＜R7.1～R8.8＞
入居稼働率Up	98％維持
夜間巡視数４５居室（１６ｈ2名体制） 平均巡視数：225回/日	2名夜勤者：50回以下 1名夜勤者：25回以下
残業削減 有給取得率Up	1時間以下 10日以上

社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘

更に、経営面では

介護処遇改善加算（Ⅰ）	上位加算：15.9％
生産性推進体制加算（Ⅰ）	令和7年2月取得算定
賃上げ補助金	上位％：21％
①入居希望見学・問合せ②待機者数	①150件以上②10名以上
職員採用（R7度求人票無しの状況化）	**介福士8名面接希望：4名採用**

社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘

「AIが記録する」から「記録を作る」

転倒映像 → AIが解析 → 事故前の状況 → 事故発生時の状況 → 考えられる要因 → 再発防止対策 → 事故報告書作成

AIが映像を見る → AIが情報を整理する → AIが記録作成を支援する → 人が確認・判断する → 次のケアにつなげる

事故発生状況	【O】（客観的情報） ・13:25:15～：利用者がベッド上で起き上がり動作を試みる。 ・13:26:45頃：起き上がり、足元側（柵のない部分）に移動して端座位になる。 ・13:27:07頃：ベッドから降りようとしてバランスを崩し、ベッドと車椅子の間の床へ転落。 ・13:28:07：職員2名が入室し、床に倒れている利用者を発見。状態確認を実施。 ・13:28:12～13:28:22：車椅子を移動させ、頭側のベッド柵を外して介助スペースを確保。 ・13:28:27～13:28:35：職員2名で利用者を抱え起こし、車椅子へ移乗させる。 ・13:28:36～動画終了：利用者が車椅子に座った状態で、状態確認を継続している状態で映像終了。
再発予防策 （具体的に）	【P】（計画） 1. 【アセスメント】利用者の日中の活動ニーズ（車椅子に乗りたい等）および、自力での移乗能力について再アセスメントを実施する。 2. 【環境調整】足元側の柵を外した標準環境は維持しつつ、自力で移乗しようとする際のリスクを軽減するため、車椅子の配置場所の再検討やナースコールの位置を確認・再周知する。 3. 【テクノロジー活用】見守りAIカメラを活用し、利用者の活動が活発になる日中帯（例：13:00～17:00 等）に「端座位アラート」を設定する。臥床から端座位になった時点で早期に検知し、自力で移乗を試みる前に職員が訪室・介助できる体制を整える。



社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘

事故発生前の利用者の状況	ベッド上で仰臥位にて臥床していた。ベッドは乗り降りができるよう、足元側にはベッド柵が設置されていない標準的な環境であった。ベッドの傍には車椅子が配置されていた。
事故発生状況	【O】（客観的情報） ・13:25:15～：利用者がベッド上で起き上がり動作を試みる。 ・13:26:45頃：起き上がり、足元側（柵のない部分）に移動して端座位になる。 ・13:27:07頃：ベッドから降りようとしてバランスを崩し、ベッドと車椅子の間の床へ転落。 ・13:28:07：職員2名が入室し、床に倒れている利用者を発見。状態確認を実施。 ・13:28:12～13:28:22：車椅子を移動させ、頭側のベッド柵を外して介助スペースを確保。 ・13:28:27～13:28:35：職員2名で利用者を抱え起こし、車椅子へ移乗させる。 ・13:28:36～動画終了：利用者が車椅子に座った状態で、状態確認を継続している状態で映像終了。
再発予防策（具体的に）	【P】（計画） 1. 【アセスメント】利用者の日中の活動ニーズ（車椅子に乗りたい等）および、自力での移乗能力について再アセスメントを実施する。 2. 【環境調整】足元側の柵を外した標準環境は維持しつつ、自力で移乗しようとする際のリスクを軽減するため、車椅子の配置場所の再検討やナースコールの位置を確認・再周知する。 3. 【テクノロジー活用】見守りAIカメラを活用し、利用者の活動が活発になる日中帯（例：13:00～17:00 等）に「端座位アラート」を設定する。臥床から端座位になった時点で早期に検知し、自力で移乗を試みる前に職員が訪室・介助できる体制を整える。

社会医療法人中山会
介護付きホーム 宝木荘

Copyright©2026 TEPCO TOWNPLANNING CO.,LTD. All rights reserved



◎記録システムにAIが自動記録をAIカメラによる報告書及び対策案まで記載

◎SOAP(ソープ)方式でのAIが判断記録

◎施設ごとのフォーマットに適応

S(主観的情報):
O(客観的情報):
A(評価):
P(計画):

事故報告書

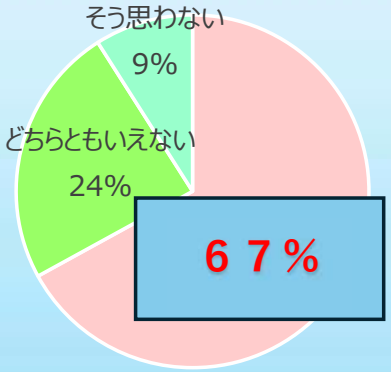
報告者	報告日	令和　年　月　日（　）曜日
	氏名	職名　　氏名　　印
対象者	利用者氏名	氏名［映像から確認不可］様　　年齢　才　☑女　（介護度　・認知 有・無 ）
	既往歴および身体機能状況	高血圧 ・ 高脂血症 ・ 糖尿病 ・ 肝疾患 ・ 脳梗塞 ・ 脳内出血 ・ 心疾患 膵臓疾患 ・ 骨折（　） 腰痛 ・ 膝関節症 ・ 頸椎症 その他（　）
日時等	発生日	令和 8 年 4 月 3 日（ 金 ）曜日　13時 27分頃　分類
	発生場所	☑居室 □リビング □トイレ □脱衣所 □浴室 □廊下 □階段 □談話ルーム □施設外（　） □その他（　）
	事故種別	転落（ずり落ち）
内容	事故発生前の利用者の状況	ベッド上で仰臥位にて臥床していた。ベッドは乗り降りができるよう、足元側にはベッド柵が設置されていない標準的な環境であった。ベッドの傍には車椅子が配置されていた。
	事故発生状況	□介助中 / 見守り ・ 歩行 ・ 移乗 ・ 食事 ・ 排泄 ・ 入浴 ・ その他 / ☑自立動作中 / 歩行 ・ 移乗 ・ 食事 ・ 排泄 ・ 入浴 ・ 就寝 ・ その他（ 起床・端座位・移乗動作 ） （具体的状況） 【S】（主観的情報） 映像からは音声が確認できないため、現場での聴取事項として以下を確認する。 ・「どこか打ったところ、痛いところはないか」（床に転落しているため、頭部・背部・腰部等の痛みの確認） ・「なぜ起き上がろうとしたのか」という離床・移乗の目的と理由の聴取。 【O】（客観的情報） ・13:25:15～：利用者がベッド上で起き上がり動作を試みる。 ・13:26:45頃：起き上がり、足元側（柵のない部分）に移動して端座位になる。 ・13:27:07頃：ベッドから降りようとしてバランスを崩し、ベッドと車椅子の間の床へ転落。 ・13:28:07：職員2名が入室し、床に倒れている利用者を発見。状態確認を実施。 ・13:28:12～13:28:22：車椅子を移動させ、頭側のベッド柵を外して介助スペースを確保。 ・13:28:27～13:28:35：職員2名で利用者を抱え起こし、車椅子へ移乗させる。 ・13:28:36～動画終了：利用者が車椅子に座った状態で、状態確認を継続している状態で映像終了。
	事故原因	【A】（評価） ベッド足元側の柵がない標準的な環境において、利用者が日中に自力で起き上がり、ベッドから降りる動作を試みた際、バランスを崩して床へ転落した。自力での安全な立ち上がりや移乗能力が低下している可能性がある。
	原因として該当するものにチェック	本人要因⇒ ☑生活活動 □低血圧・低血糖・脱水 □薬物処方状況 ☑機能低下 介護者要因⇒ □介助動作 □介護手順 □意思確認 □アセスメント不足 環境要因⇒ □動作環境　□設備・用具の不備
対応 対策	応急処置の内容	入室した職員2名が直ちに利用者の状態を確認し、安全を確保した上で車椅子への移乗介助を実施した。その後、車椅子に座った状態で頭部等に外傷や痛みがないかの確認を行っている（映像終了時点）。 （受傷部位） ［映像から確認不可］ ※仰向けに転落しているため頭部や背部打撲の可能性があるが、明確な外傷は映像から判定不可
	受診状況及び診察内容	［映像から確認不可］
	家族への連絡	□無　□有　　月　日 午前 / 午後　：　分頃（連絡者　） 家族氏名　（本人との関係　）
	再発予防策（具体的に）	【P】（計画） 1. 【アセスメント】利用者の日中の活動ニーズ（車椅子に乗りたい等）および、自力での移乗能力について再アセスメントを実施する。 2. 【環境調整】足元側の柵を外した標準環境は維持しつつ、自力で移乗しようとする際のリスクを軽減するため、車椅子の配置場所の再検討やナースコールの位置を確認・再周知する。 3. 【テクノロジー活用】見守りAIカメラを活用し、利用者の活動が活発になる日中帯（例：13:00～17:00 等）に「端座位アラート」を設定する。臥床から端座位になった時点で早期に検知し、自力で移乗を試みる前に職員が訪室・介助できる体制を整える。

社会医療法人中山会
介護付きホーム 宝木荘

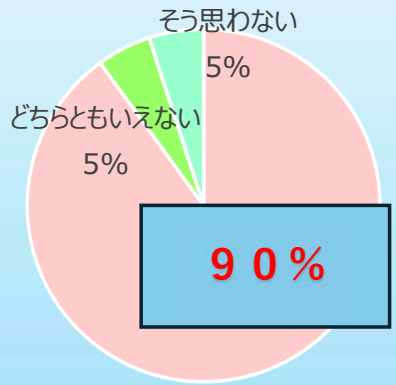
AI見守りカメラ導入後の職員アンケート結果（n＝24人）

（2025年11月）

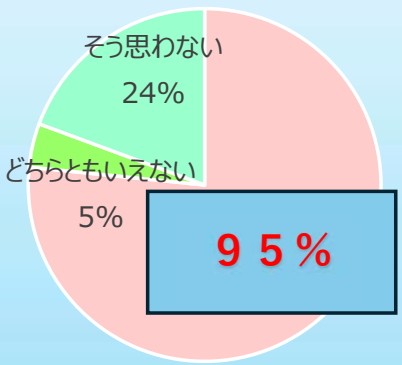
総アンケート
“そう思う” 平均７５％



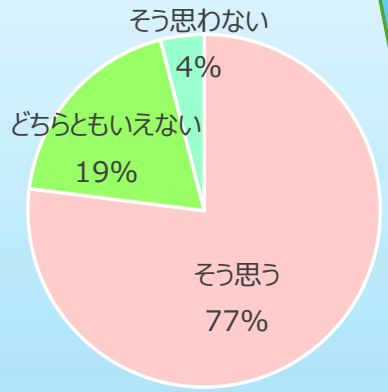
気持ちに余裕ができる



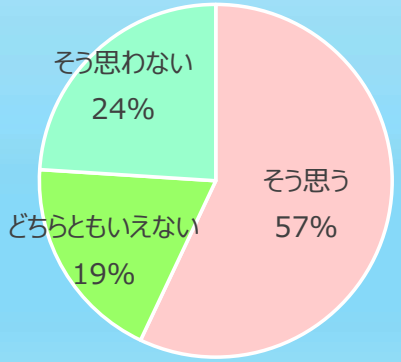
訪室せずとも利用者の状況がわかる



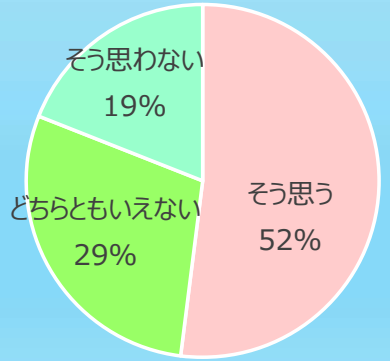
事故分析の参考情報にできる



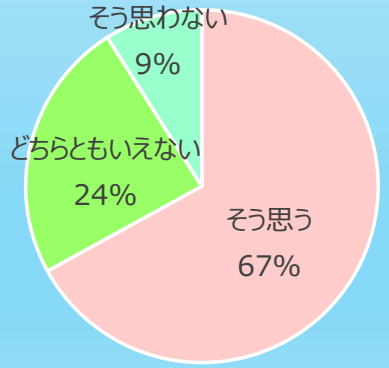
優先順位の判断ができる



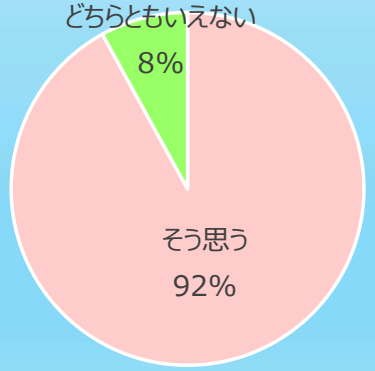
必要以上に利用者
を見に行くことがない



自分の専門性を発揮
する時間ができる



利用者により良いケアを提供できる



引き続きAcecareを利用したい

社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘

特に、AI見守りカメラ導入による効果（私の感想）

1．AI見守りカメラを活用で、全職員の業務効率化がはかれる。
2．オンコール看護師のモバイルPCなど、自宅でリアルタイムに、
　　映像確認ができる。
3．職員の身体的・精神的に余裕、負担軽減に。
4．事故原因分析の参考情報が大いにわかる。
5．残業・有給取得・休憩など効果があらわれる。
6．安定した職場環境、働きやすい職場環境につながる。
7．地域からの施設評価が高まり、見学者等増。
8．安全対策として始めたAIが、働き方と経営にも波及。



社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘

宝木荘では、
介護職員等処遇改善加算額は
人事考課による、不公平感無く
評価配分したいと思い。

５０％を固定給に
残額５０％を、3回賞与に

春・夏・冬

（介護処遇加算手当）

処遇加算手当は別表１０のとおり支給する。

２　前項の処遇加算手当は、介護保険処遇改善加算制度に準ずる制度による加算額を各職員に配分するものであり、介護保険処遇改善加算制度に準じる制度の改廃に伴い、額改定もしくは不支給となることがある。

別表１０

介護職員処遇改善手当（新規）

対象	評価区分	支　給　額	例）基準額46,666円	例）支給額
介護職	貢献度１	当年度加算の1月見込額×55％÷基準人員数（3:1=15名）	×30％	14,000円
	貢献度２		×40％	18,666円
	貢献度３		×50％	23,333円
	貢献度４		×80％	37,333円
	貢献度５		×100％	46,666円

対象	評価区分	支　給　額	例）基準額33,333円	例）支給額
その他職	貢献度１	当年度加算の1月見込額×45％÷人員数	×30％	10,000円
	貢献度２		×40％	13,333円
	貢献度３		×50％	16,666円
	貢献度４		×80％	26,666円
	貢献度５		×100％	33,333円

※分配額及び支給率には、介護保険処遇改善加算制度による当期加算見込額を基準として毎期決定（変更）する。

（根拠例）前年度の加算実質額
10,000,000 円/年間（仮例）

・10,000,000÷12か月＝1,000,000円
・1,000,000×50％＝500,000円/毎月の手当支給総額（目安）

（介護部）
○500,000×55％＝275,000円⇒30万　30万÷15名＝平均23,333円（５０％）⇒46,666円（１００％の基準額）

（その他職）
○500,000×45％＝225,000円⇒25万　25万÷15名＝平均16,666円（５０％）⇒33,333円（１００％の基準額）

（約500万円見込残額においては、賞与支給。）

※手当支給には、法定福利費も手当額から支払っており、介護保険法に準じます。

社会医療法人中山会
介護付きホーム 宝木荘

費用対効果～コストについて



【コストについて～業務改善例】

■“たった30分”、業務改善・残業削減できると、これだけのコスト削減

例)・ICT・テクノロジー・介護ロボット導入　生産性向上へ

◎日経ヘルスケア情報より、関東地区(常勤)平均257,622円(介護職員)

160h　≒　1,610円/h

◎仮に、毎日常勤職員15名×時間単価1,610円×30分×20日(出勤日数)×12か月

≒　2,898,000円　削減に！

社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘

【宝木荘での業務改善例】

◎生産性向上加算(Ⅰ)を取得　人員配置基準　3:1　→　3:0.9　にできる想定

介護職員配置：入居者45名÷3＝15名　(常勤配置基準)

→　14名　(人件費:約400万削減)



◎2025年4月　常勤換算数:21名　→　◎2026年7月現在　常勤換算数:17名

(▲常勤1名 、▲パート4名)

※介護部人件費　常勤400万＋(パート職員約55万×12か月　≒　660万)

≒約1,000万円人件費削減も可能となる

社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘

施設の要望や課題に対しAIを活用した機能を拡充し続ける

拡張性・高機能な精度へ期待

ケアデータコネクト連携でつながり拡大

主要な介護記録ソフト、インカム、ナースコールなどとつながり、通知や自動記録が可能に
今後は直接連携も予定

新機能

安価な赤外線見守りカメラを追加



暗闇でもクリアーな映像で遠隔から確認、記録ができる安価なカメラをラインナップ

新機能

オンコール対応端末で看護師も安心



AI

セキュリティを担保して自宅で待機しているオンコールスタッフが遠隔で看取りの方を確認可能

新機能

複数画面ライブ映像表示を追加

AI



要注視の入居者を常時映像表示し訪室回数を軽減するとともに入居者の安心安全を確保

新機能

通常とは異なる動作を検知し通知

AI

特に職員の少ない夜間に異なる動作や長時間不在の時、トイレや物陰で倒れていないか注意喚起の通知をします

新機能

転倒予防の個別発報機能を追加

AI

転倒しやすい方の端坐位の状態を検知した場合に注意喚起の通知をします
転倒警戒に役立ちます

新機能

暗闇でも転倒を検知するAIカメラ

AI



独自AIを載せた赤外線AIカメラは暗闇も状態検知
更に双方向のスピーカー機能も兼ね備えておりAIによる音声解析も検討中

AIによる転倒履歴の分析を実現

AI

開発中

転倒履歴や転倒動画より、AIが分析を行い、転倒の再発防止策を講じます。

インシデント報告書を自動生成

AI

開発中



転倒動画より、AIが分析を行い、現象、原因、対策などのインシデント報告書の自動生成を行います

上記は一部の機能紹介であり、AIを活用して、まだまだ機能拡充をし続けます。

Copyrightⓒ2026 TEPCO TOWNPLANNING CO.,LTD. All rights reserved

当施設見学、いつでもWELCOMEです

ご清聴ありがとうございました。！

※厚生労働省ホームページ「宝木荘」掲載
「介護テクノロジー等による生産性向上の取組に関する調査・効果測定事業





社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘
大垣　治彦

ホームページ

資料・データphoto・イラスト引用
東電タウンプランニング（株）
ブルーオーシャン資料、ワイズマン資料

takaragisou

社会医療法人中山会
介護付きホーム　宝木荘

令和8年度 介護テクノロジー等活用ミーティング

2026 / 11 / 11

ICTを活用した見守りによる転倒防止と業務負担の軽減

～システムに業務をあわせて、好循環の波に乗る～

SPEAKER

施設長 西井 健太

社会福祉法人 洗心福祉会

ふたみ介護老人保健施設 シルバーケア豊壽園

sensin 洗心福祉会

三重県津市に本部を構え、4つの福祉を広域に。

洗心福祉会の、すべて。

THE ORGANIZATION

本　部	〒514-0831 三重県津市本町 26-13
設　立	1978年 10月 — 昭和53年
従業員数	1,046 名 — 2026.10 時点
広がり	三重県内6市 ＋ 滋賀県甲賀市

AREA ／ 事業所エリア

三重県 —— 滋賀県に広がる、拠点。



MIE ／ 三重県

津市 ・ 鈴鹿市 ・ 松阪市
伊勢市 ・ 伊賀市 ・ 志摩市

SHIGA ／ 滋賀県

甲賀市

児童福祉 | こどもに寄り添う支援を。

高齢者福祉 | 安心できる毎日の、お手伝い。

障がい者福祉 | 一人ひとりに、合った支援。

医療
訪問診療と、地域医療。

sensin 洗心福祉会

温かく、まっすぐ —— 現場で動く、施設長の自己紹介。

現場の、人と、場所。

SELF ／ ABOUT ME

西井 健太

昭和60年生まれ —— 三重県鳥羽市出身（鳥羽水族館のあるまちです）

HOBBIES

コーヒー（焙煎）
筋トレ

ふたみ介護老人保健施設
シルバーケア豊壽園 —— 施設長（管理者）

CAREER —— 経歴

- 特別養護老人ホーム —— 介護職員／生活相談員／介護支援専門員
- 小規模多機能居宅介護 —— 介護支援専門員
- 居宅介護支援事業所 —— 介護支援専門員
- 介護老人保健施設 —— 介護支援専門／介護職員
- 認知症対応型共同生活介護 —— 管理者／介護支援専門

— 現在に至る



FACILITY —— ふたみ介護老人保健施設 シルバーケア豊壽園

所在地
三重県伊勢市
二見町三津855番地

種別
介護老人保健施設
（老健）

定員
100 名 —全室個室（従来型個室）

オープン
平成15年 4月 21日

sensin 浄心福祉会

「効率化のその先、職員を守るゴール」

体力原因の退職者、ゼロにする。

介護は、とてもやりがいのある仕事である。
だがその一方で、**夜間の過酷な巡視・腰痛・精神的ストレス**によって、
志半ばで現場を去る仲間を、私は何度も見てきた。

「業務効率化して加算を取りましょう」
—— だけでは、現場の心は動かない。



ZERO ／ 職員全員のベクトル

大切な職員を、
体力を壊さない職場

sensin

老朽化という崖の手前で ——

1台で3役の、圧倒的にお買い得。

THE PROBLEM

部品生産終了、老朽化が急務。

ナースコール単体の改修だけでも
膨大な費用がかかる。
単発更新では、経営インパクト大。

- ナースコール機能
- カメラ見守り
- インカム代替

THE CHOICE

HitomeQ ケアサポート

1台3役の一元化で、
改修・見守り・インカムの
単独整備より**圧倒的にお買い得。**

FINANCING

補助金をフル活用

COVERAGE

100床

全室への導入を決断。

国の補正予算・自治体の補助金を組み合わせ、提示される支払総額ではなく**総合コスト**で判断。

行動分析 × LIVE動画 × エビデンス録画 —— 1セットが、現場で動く。

3つの瞬間、1セットが軸になる。



出所: © KONICA MINOLTA —— HitomeQケアサポート資料より

THE / 3 FUNCTIONS

兆候を、確認し、残す。

01 / NOTIFY

起床・離床・輾転などの兆候を検知

02 / LIVE

行動をその場で、確認できる

03 / RECORD

転倒時は、1分前から記録

—— 1台3役、夜勤帯を、根本から軽くする。

THE KEY RULE

システムに、業務をあわせていく。

PROCESS **発散** ——→ **収束**　従来の当たり前をゼロベースで見直し、現場に**本当のあたり前**を再構築する。

FAILURE ／ 失敗の罠

業務に、システムを合わせようとする。

- カスタマイズと手作業が膨張
- 運用が煩雑化、現場が混乱
- **やがて形骸化し、ICT推進最大の阻害要因に。**

VS

SUCCESS ／ 成功の鉄則

システムを軸に、「発散」へと動く。

- 業務改革プロジェクトとして正式発足
- 従来の当たり前をゼロベースで見直し、収束へ
- **期日とゴールを定め、全社で貫く。**

テクノロジーを活かす、その前の準備。

5Sで、爆速の土台を創る。

1

SEIRI

整理

要るものと
要らないものを
はっきり分ける。

2

SEITON

整頓

探す・迷うを
ゼロにする
動線と配置の整理。

3

SEISO

清掃

物理的な
環境整備、
きれいな現場へ。

4

SEIKETSU

清潔

美しさを
維持し、
標準化する。

5

SHITSUKE

躾

習慣化 / 仕組み化

5つのSを標準とし、
現場の意識に根づかせる。

動線整理と無駄の排除 —— 新しいテクノロジーを、現場が**スムーズに受け入れる土台**を完成させる。

ICT と外国人雇用を、加速させる前提として。

5Sの前に、「仲間づくり」を据えた。

BACKGROUND

背景

ICT導入と外国人雇用、これらを効果的かつスピードを加速させて進めるためにも、**5Sが重要**であると考えました。

外国人技能実習生を受け入れる時期とも重なりました。
リクルート、ICT化、**介護DX**を進める上で、環境設定は前提条件です。

5Sで「感じ方」の統一を図る —— それを狙いとした。

FUNDING ／ FRAMING

仲間づくり

補助金は**介護テクノロジー導入支援事業**。
財源は**介護従事者確保分**を活用しています。

当法人はこれを、「仲間づくり」と捉えました。

ICT化・介護DXに後ろ向きな職員もいました。
全職員へ、マインドセットを行いました。

環境を整える、その先にあるもの。

5Sが目指す、4つのねらい。

01 ／ EFFICIENCY ／ SAFETY

業務の効率化と、安全性向上。

環境を整え、無駄な動きや危険の芽を取り除く。

02 ／ MOTIVATION

働きやすい職場。モチベーションを高める。

居心地の良さが、働きたい気持ちを育てる。

03 ／ STANDARDIZATION

業務の標準化。誰でもスムーズに。

属人化しない、引き継ぎやすい職場 —— 標準を共通言語にする。

04 ／ CUSTOMER ／ SATISFACTION

ご利用者様の満足度向上。

「自分の家族を入れたいか」 ——
「はい」と答えられる職場へ。

推進体制・視覚管理・ルール —— 3つを、設計する。

5Sを、仕組みとして設計する。

01

推進体制

5Sを進めるために、
プロジェクトを立ち上げました。

管理職からパート職員まで、
責任を持って実施してくれる人材を起用。

02

視覚管理

統一感と**掲示物**の在り方を工夫しました。

—— なぜなら、
外国人技能実習生も
受け入れるためです。

03

明確な職場ルール

法人内で作成した5S活動の
ルールブック。
「おもてなし TO DO リスト」を参考に、
ルールを明文化しました。

全職員に周知 —— 共通言語としてのルールを、現場の手に。

やりっぱなしにしない —— 仕組み化する。

定着化と、精神的報酬。

RITUALS

2つの仕掛け

DETAIL ／ SLIDE 13

おほめコンテスト で、
褒める習慣を、仕組みに。

DETAIL ／ SLIDE 14

5S コンテストで、
散らかりを、御法度に。

職員へ、「精神的報酬」 を ——

表彰状を、玄関に近い場所に掲示し、
次の習慣へつなげる。

RITUALS

習慣を、仕組みに変える。

やりっぱなしにならないよう、
定期的にコンテスト等を実施。
習慣を、仕組み化できるように。

躾

SHITSUKE ／ 習慣化 ／ 仕組み化

他者をほめる力を、讃える —— 賞状という形にして、現場に残す。

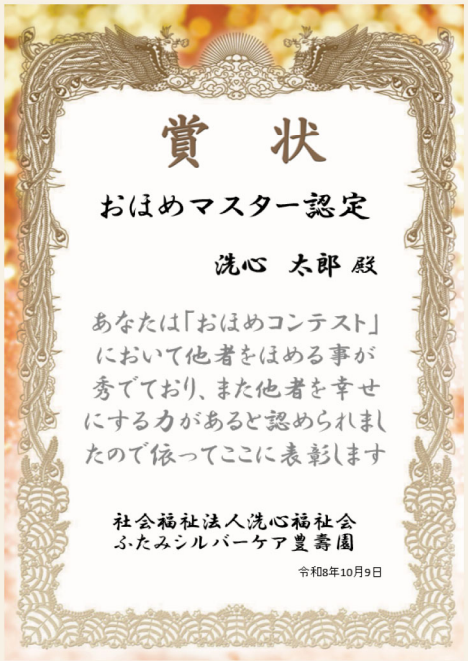
おほめマスター認定 —— 賞状。

CERTIFICATE ／ RECOGNITION

賞状を、
手に取れる場所に。

あなたの長所を、見える化 ——
もらった側が、また誰かを、ほめる。
笑顔の循環は、賞状から生まれる。

—— 令和8年 10月 9日 —— ふたみシルバーケア豊壽園 —— 主催 ふたみCSC


賞　状

おほめマスター認定

洗心　太郎 殿

あなたは「おほめコンテスト」
において他者をほめる事が
秀でており、また他者を幸せ
にする力があると認められまし
たので依ってここに表彰します

社会福祉法人洗心福祉会
ふたみシルバーケア豊壽園

令和8年10月9日

WHY ／ なぜ 賞状か

**「褒められた記憶」が、
次の、5Sを支える。**

—— 賞状は、玄関に近い場所に。

NEXT ／ 続いていくもの

**5S コンテスト
—— これも、次の一手。**

—— SLIDE 14 へ

散らかし・お汚し —— 御法度 —— 片付けを、相撲にたとえて面白く。

5S コンテスト、忍耐相撲大会。

CERTIFICATE ／ 表彰



WINNER ／ 受賞チーム

二階職員の皆様、優勝。

社内の整理整頓を、積極的に。
「5S 活動」の二階チーム、見事。

RITUAL ／ やりっぱなしにしない

賞状を、玄関に近い場所に掲示 —— 次の、相撲のための意識に。

主催 ふたみシルバーケア豊壽園 —— 令和7年 10月 10日 第1回

sensin 洗心福祉会

稼働初日、3つのしかけ。

初日から、爆速で定着させる。

DAY 1

01

使用可能初日から運用開始。

5Sで整えた土台に、
躊躇なく乗る。

PHASE 2

02

リーダー職限定 × 夜間帯のみ。

スモールスタートで
短期間に特性把握。

FINAL

03

全員展開

現場の
フローチャート
は自分たちで
作成。

VOICE —— メーカー担当者

まるで既に**3か月以上**使い込んでいる
施設かのよう、
との驚嘆。

—— 製品メーカー担当者より

sensin

外部の支え × 多職種の共通言語。

ダブルの伴走、客観データで議論する。

MENTOR ／ 01

01

みえ介護生産性向上支援センター

モデル事業所に指定。
定着・運用から加算取得までの**具体的なプロセス**を正しく設計。

MENTOR ／ 02

02

アズメド株式会社 西氏

直接指導による伴走。
専門家を味方に付けることの、大きな力。

MULTI-DISCIPLINE ／ 共通言語はデータ

医師	看護	介護	リハビリ	相談員	ケアマネジャー

sensin 清心福祉会

現場に伴走する、「現場を知る」パートナー。

コニカミノルタ HitomeQケアサポート を選んだ決め手。

01 手厚い導入支援
立ち上げから伴走する、施設の現場を知った支援。

02 24時間対応 × 連絡
夜間帯も止まらない。担当とも
いつでも連絡が取れる —— フルに活用できています。

03 仕様変更も、聞いてもらえる
現場の声を、そのままプロダクトへ反映。

04 品質向上へ、日々取り組む
日々進化するプロダクトに、肌で触れる私たちもうれしい。

THE PARTNER ／ OUR REASON

担当とも いつでも連絡が 取れる ——

それが、現場にとっての
「本当に助かっている」の
中身でした。

OUR COMMITMENT

現場とともに、夜勤帯を変える。

sensin 清心福祉会

現場と、座学 —— 同じ話を、ふたつの型で届けた。

スタッフ研修、現場と座学。

導入支援の様子



現場でのスタッフ研修



座学でのスタッフ研修

現場での実機タッチ研修 —— **触って確かめる**を重視。

職種・雇用形態問わず —— ベッドまで、現場で触れて確かめた。

全職員で、ベッドまで。

導入支援の様子



職種雇用形態問わず、全職員研修スタッフ研修に参加



ベット位置調整も多くの職員で体験

WHO ／ 参加した職員

職種・雇用形態を、問わず。

全職員の研修参加 ——
正規・非正規の壁を越える。

初期メンバー以外も、ベッド位置や通知設定など現場で触れて確かめる。
実務で**触れて体感**するから、現場のものになる。

HANDS ON ／ 体感から始める

—— 「説明を聞く」より、
「触って確かめる」を優先した。

グループ別にも活用状況をチェックできる —— 2026/7 —— 9月、3か月の動き。

施設の、活用を、数字で見える化。

FACILITY ／ DASHBOARD

訪室 × 3か月

区分	7月	8月	9月
通知起点（日）	2,834	2,768	2,831
様子見（日）	4,352	4,308	4,540
介助（日）	5,993	6,067	6,176
通知起点（夜）	1,688	1,695	1,627
様子見（夜）	1,082	927	796
介助（夜）	1,924	1,814	1,839

期間: 2026/7月 —— 9月 各月 1〜28日集計 ／ day: 6-21時（15h） ／ night: 21-6時（9h）

CARE GROUPS

7つのグループ別に、活用を可視化。

英虞 ｜ 安乗 ｜ 的矢 ｜ 神島

二見浦 ｜ 伊勢 ｜ 志摩

※ **二見浦** は、豊壽園の所在グループ —— 重症度・観察項目 ともに高い水準で運用。

TOTAL TRAFFIC ／ 3か月合計　延べ件数

約 53,000 件

期間: 2026/7月 —— 9月 ／ 夜勤帯の様子見訪室が大きく減少傾向

個別に把握 —— 適切な評価を、適切な指導へ、業務の標準化へ。

スタッフ別の、活用を見る。

職員（職種）	対応数 ／ 月	LIVE 使用率	30秒未満対応率	訪室率
職員A 介護	1,242	87%	87%	16%
職員B 看護	981	91%	66%	18%
職員C 介護	879	73%	73%	25%
職員D 看護	828	83%	83%	14%
職員E 介護	752	57%	77%	24%
職員F リハビリ	729	51%	74%	24%
職員G 介護	624	54%	82%	21%
職員H 看護	557	13%	78%	30%

※ 個人情報保護のため、氏名は **職員A〜H** と表記／一部抜粋（出典: 2026/9月時点データ）。

INSIGHT ／ 読み解き

LIVE 使用率と 30秒対応率の 組み合わせで見る。

高 LIVE × 高 30秒 —— 即応
低 LIVE × 高 30秒 —— 注意深い運用
低 30秒 —— 個別フォローの対象

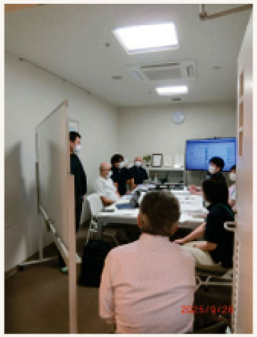
期間: 2026/9月度

個別活用を、評価 → 指導 → 標準化 —— 3段階で、全体の底上げへ。

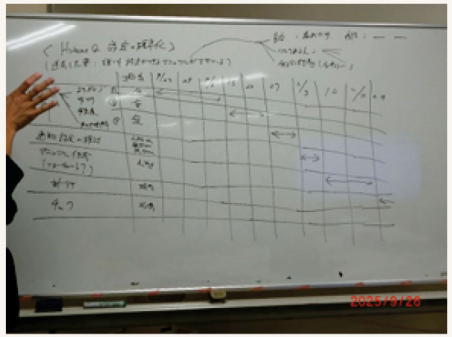
外部メンター —— もう一方の、伴走支援。

モデル事業所に、選定されて。

みえ介護生産性向上支援センターモデル事業所伴奏支援



HitomeQケアサポートの通知設定の標準化



生産性向上推進体制加算Ⅰの算定準備

通知設定の標準化 —— 生産性向上推進体制加算 Ⅰ の算定準備

SUPPORT ／ もう一方の伴走

伴奏支援を、受ける。

業界全体の正解を、現場に連れてくる。

通知設定の型化、加算算定の段取り ——
法人内で定めにくいものを、外から整える。

ACCOMPANIMENT ／ 受けられる支援

通知設定の標準化 —— 型に落とす力
生産性向上推進体制加算 Ⅰ —— 算定の段取り

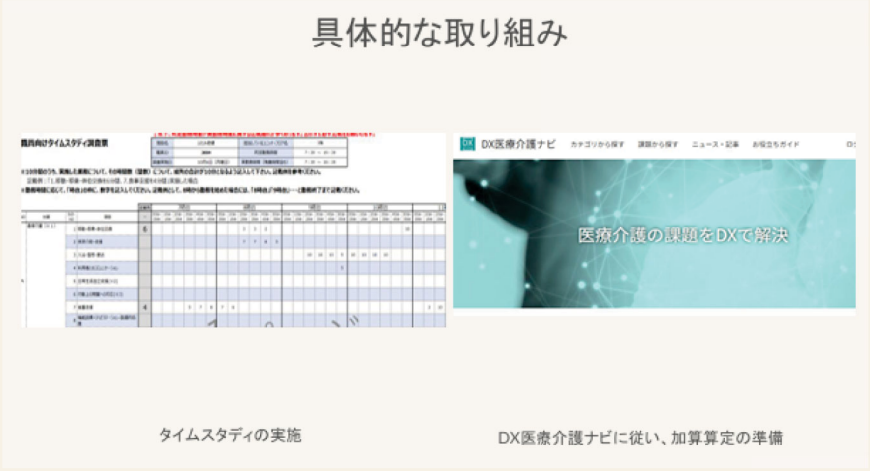
sensin 浄心福祉会

計測し、設計する —— 現場と制度を、線でつなぐ。

数値 × DX —— 具体的な、取り組み。

PRACTICE ／ 01

タイムスタディの実施



—— *業務ごとの所要時間を、**見える化**。*

PRACTICE ／ 02

DX 医療介護ナビに従い、加算算定の準備。

厚生労働省のナビと、現場の取組みを、
同じ尺度で照らし合わせる。

投資を、ケアと経営に、確実につなぐ ——

EVIDENCE ／ 数字で、設計する。

sensin 浄心福祉会

見えてきた、現場の２つの壁。

個別最適化 と、２度目のゼロへ。

TODAY

２つの壁

01 ／ INDIVIDUALIZE

スクリーニングツール —— 誰もが適切な HitomeQ 通知設定を。

みえ介護生産性向上支援センター+アズメド株式会社 西氏の伴走支援をもとに、
ご利用者様一人ひとりに、最適な通知を。

02 ／ SECOND-FALL ZERO

居室内で起きる、２回目の転倒 —— ゼロへ。

１回目は兆候で掴み、２回目は起こさない。
再発防止を、データと観察眼で。

NEXT PARADIGM

兆候を、１回目で掴み、２回目を起こさない。

予測型ケア ——
再発ゼロへ。

通知設定 + 録画 + 検知を
介護・看護・リハの共通語に ——
事後の対処から、起こさないケアへ。

「事後対応」から、
「兆候を捉える」ケアへ。

sensin

転倒事故の評価について、ひとつ補足させてください。

件数より兆候を、大切にしたい。

PRINCIPLE ／ 評価の前提

見える化された件数の増加と、
実際の安全性の変化は、分けて考える必要があります。

見守り機器を導入すると、これまで職員が把握できなかった転倒や、
その前後の動きにも気づけるようになります。
そのため、導入後に記録された件数が増えたとしても、
それだけで「転倒が増えた」「取り組みがうまくいかなかった」
とは言えません。

大切なのは、起きたことを見逃さず、通知や映像、介護記録をもとに、
何が起きていたのかを振り返ること。

本人の行動や生活リズムに合わせて、通知の設定や介助のタイミング、
環境を見直し、次のケアにつなげる —— これが予測型ケアの出発です。

OUR METRIC ／ 大切にしているもの

大切にしているのは、
3つの問い。

① 兆候に気づけたか

② 発見後の対応を改善できたか

③ 同じ状況での
再発防止につなげられたか

見守り機器の役割は、
件数を少なく見せることではありません。

sensin
洗心福祉会

数値で示す、夜間業務負担の変革。

夜間の負担、60%削減。

METRIC 01 —— 夜勤者1人あたり 巡視回数

BEFORE —— 5回

AFTER —— 2回

60%
CUT

5回 → **2回** —— 身体的・精神的ストレスを大きく軽くした。

METRIC 02 —— 巡視時間 ／ 1人あたり

1時間 20分 → 50分

1人あたり **30分短縮**。

RIPPLE —— ご利用者様へ

不要な訪室がなくなり、
朝までぐっすり安眠。

生活リズムの向上も、確実に。

現場と、制度と、公の場で ——

4つの実が、結実した。

SYSTEM ／ 02

生産性向上推進体制加算 Ⅰ

稼働率 95% 以上

——（地域貢献率）として継続評価。

PREFECTURAL ／ 03

令和8年度
三重県介護技術コンテスト

第1位

三重県知事賞

NATIONAL HONOR ／ 01

令和8年度 厚生労働大臣表彰 奨励賞

介護職員の働きやすい職場環境づくり
— 日々の取り組みが、
国の評価として結実。

RETENTION ／ 04

職員の定着 × 経営の安定。

HitomeQ導入後、常勤・非常勤 合わせて
+10名 の新規採用 —— 体力原因の退職は、同期間中ゼロ。

OPERATIONAL STABILITY

ムダ削減 × ゆとり × 本質的な介護技術。

取り組みの結果 —— 仲間は、確実に増えている。

新規採用、常勤・非常勤 合わせて10名。

HITOMEQ AFTER ／ CUMULATIVE

HitomeQケアサポート導入後、**現在まで**の新規採用累計。

＋10名

常勤・非常勤 合わせて

MEANING

何人もの仲間が

A ／ IMAGE

「働きやすい職場」への取り組みが、採用の求心力に。

B ／ ENVIRONMENT

5Sで整えられた現場環境は、新規職員の初期不安を軽くする。

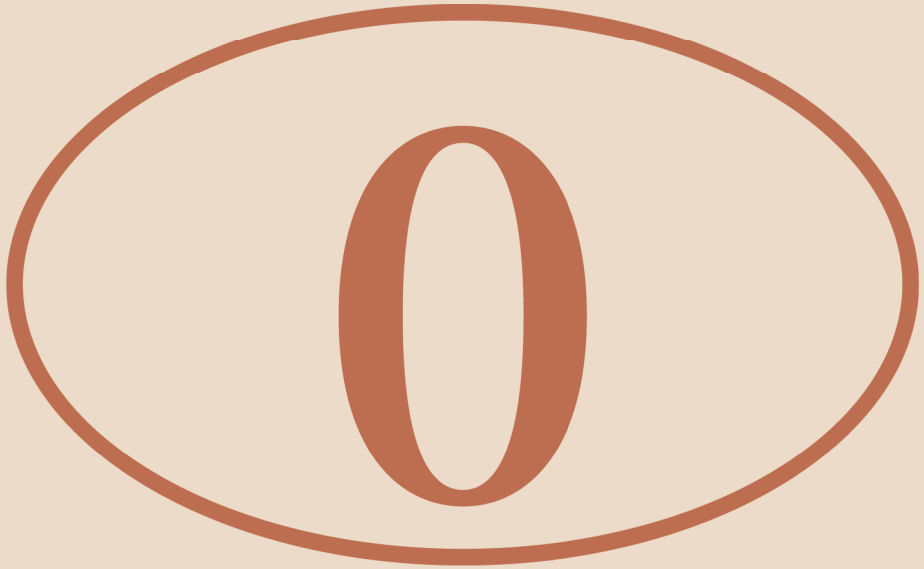
C ／ CIRCULATION

仲間が増えることが、次の仲間を呼ぶ好循環を生む。

残された3名は、やむを得ない事情だけ。

体力原因の退職は、ゼロのまま。

ZERO ／ 体力原因退職



体力原因の退職 —— 今も、ゼロです。

UNAVOIDABLE CASES

退職3名は、いずれも、やむを得ない事由のみ。

令和7年度 → 8年度

2名 —— 結婚・出産 等

他県への引っ越しのため、やむを得ない事情。

今年度

1名 —— 健康状態の悪化

やむを得ない健康上の事由。

ZERO TOLL ／ POLICY HOLD

過酷な労働環境や体力原因からの退職は一切なし。

sensin 清心福祉会

現場を変えられるのは、システムでもメーカーでもない。

覚悟をもって、決断する。

NEXT INNOVATION

現場の次の一手を、ともに。

01

**「システムに業務を
あわせる」覚悟を、持つ。**

02

**手厚い伴走支援を、
課題と連動させる。**

03

**投資は、必ずケアと
経営となって戻る。**

職員の身体と心を守る投資は、必ず質の高いケアと安定経営として戻ってくる ——

ご清聴、誠にありがとうございました。

sensin
清心福祉会

小規模事業者でも実践できる看多機運営モデル

人材・設備・ICTを活かした業務改善

ないものを数えず、あるものを活かす。



一般社団法人LIB｜看多機ほーむかろん
山下 友香

私たちが守りたいのは、こんな時間です。



笑い合う時間





おいしく食べる時間



人にしかできないことに、人の時間を戻したい。

看多機ほーむかろんのある町、枕崎。



鹿児島県
薩摩半島の南端

人口が減っていく地域で、
暮らしを支える人や仕事を
どう組み合わせていくか。

「人がいない」を、
出発点にしない。

暮らしの「いつも」をつなぎ続ける看多機。



2023年8月 開設

看多機ほーむかろん
登録定員29名・通い18名・お泊り9名

通い・泊まり・訪問介護・訪問看護・ケアマネ
利用者さんの暮らしに合わせ、
柔軟に組み合わせるサービス。

公式HP lib-makurazaki.com

@MAKULIB2023



その選択は、未来の仲間へのプレゼントになるか？

毎日「予定どおり」にはいかない。

通い・泊まり

突然の利用変更

訪問介護・訪問看護

状態や家族の状況が変化

記録・勤務・連携

そのたびに調整が必要

「誰かが頑張る看多機」から
「仕組みが人を支える看多機」へ。

私たちの業務改善は、今ある道具の組み合わせから。

導入したものを使い続けることより、現場で使いやすい方法を選ぶ。

Slack
情報共有・申し送り

Google Workspace
共同編集・共有

freee
勤怠・事務管理

ChatGPT
情報整理・下書き

ナーシングネット
記録・請求

紙・ホワイトボード
現場での確認・共有

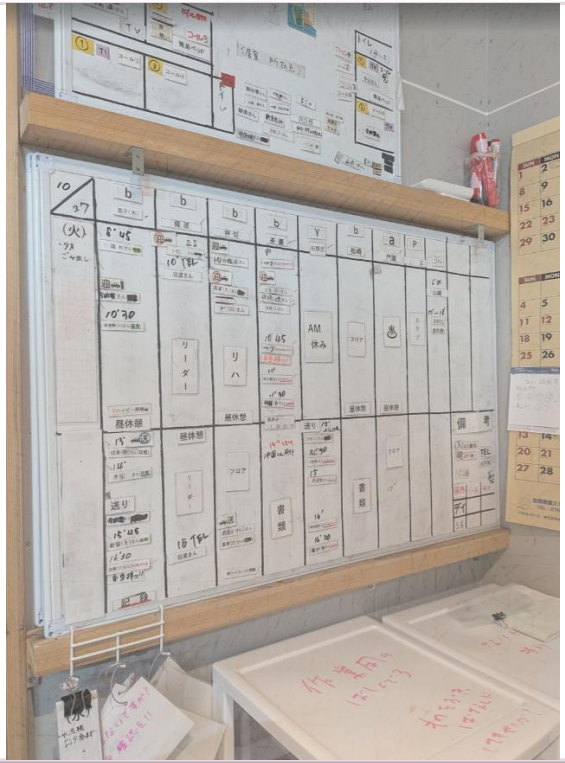
高額な設備投資ありきではない。

紙に戻ることも含めて、「今の正解」を更新し続ける。

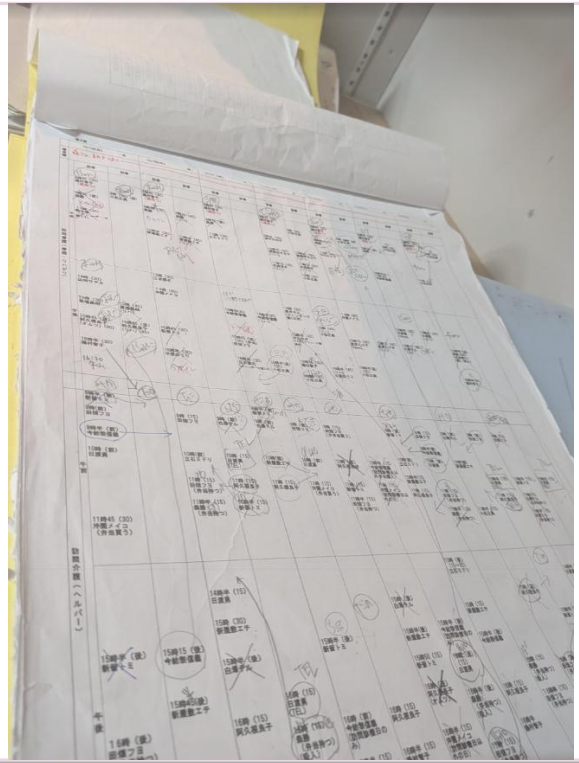
大切なのは、何を導入したかではなく、何のために、どう使うか。

ないものを数えず、あるものを活かす。

紙・ホワイトボードへ戻したものもあります。



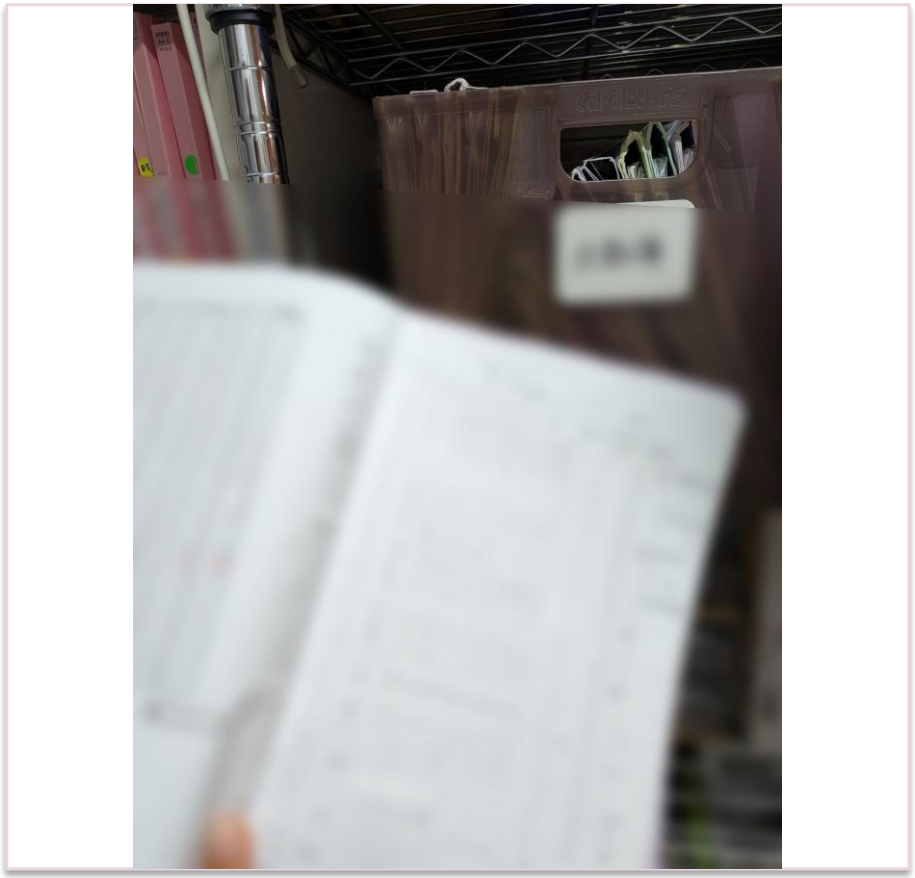




一目で分かる。誰でも直せる。次の人へ伝わる。

「全員が使いやすい」が技術選定の基準。

17歳の高校生から
78歳が働く　かろん



紙の出勤簿 × Slack × freee

① 各自が紙に記入
② 10日ごとに写真を投稿
③ オンライン事務が確認
④ freeeへ入力し給与計算につなぐ

人をアプリに合わせず、
働く人に合わせて仕組みを変える。

Slackは、ご利用者さん別 × 業務目的別。

① ご利用者さん別チャンネル

暮らしの変化・次の訪問者への申し送り・ご家族との連絡など

② 業務・目的別チャンネル（一部を紹介）

申し送り・勤務

#事業所申し送り　#出勤簿

記録・安全

#事故報告-ヒヤリハット
#指示書-介護保険証等

組織・学び

#全体会議　#研修

外部専門家・請求

#税理士社労士チャンネル
#レセプト

運営・調整

#ご利用者さんスケジュール変更
#お知らせ

活動・文化

#イベントチャンネル
#看多機ごはん

判断の経緯も「みんなに見える場所」に残す。

必要な人だけに閲覧権限を設定。　【重要】は3回読んで 👍 で確認。

「報告書をつくる」を5つの工程に分けた。

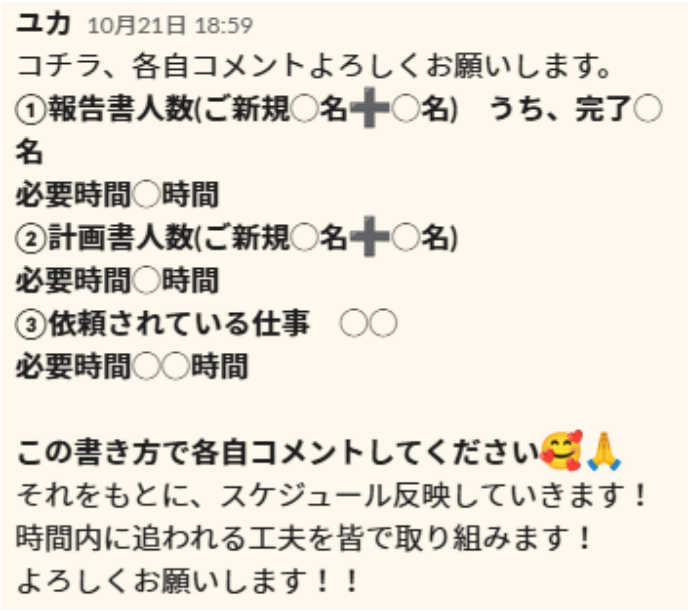
1	2	3	4	5
Slack情報 集約	AIで 下書き	オンライン事務 土台づくり	看護師が 確認・判断	現地事務 印刷・封入

専門職にしかできない工程を、専門職へ。

※AIには適切な情報管理を行い、最終的な専門的判断は看護職が実施します。

報告書＋計画書の作成時間、30分 → 15分。

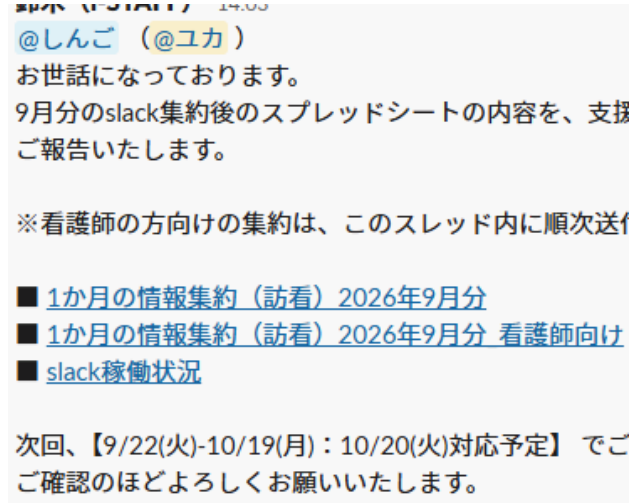
30分 → **15分**



現場スタッフの作業時間 50%短縮

看多機 約20名 ＋ 訪問看護 約30名 ＝ 約50名

月25時間 → 月12.5時間（12.5時間の削減）



現場の時間は減った。オンラインの作業も数える。

委託法人

575分／月（9時間35分）
集約・下書き作業

県内オンライン事務

315分／月（5時間15分）
集約・下書き作業

オンラインの集約作業：計890分／月

「現場スタッフの時間50％短縮」と
「法人全体の総労働時間削減」は分けて評価します。

プロの仕事を、3年かけて自社の仕組みに変える。

開業当初

専門業務を外部委託
秘書業務：月30時間の契約枠

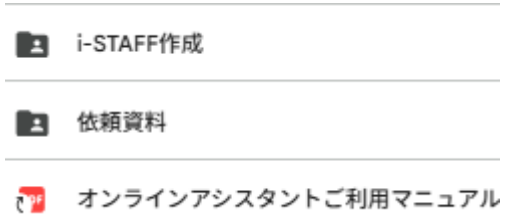
約3年間

内容・工程・必要時間を整理
録画→AI→やり方シート

現在進行中

自社の県外オンライン社員を育成
できる工程から内製化

業務内容	業務内容（詳細）	分
日次ルーティン	slack要約/管理表更新(7/24~7/26)	55
日次ルーティン	メールチェック(7/24~7/26)	5
データ入力	山下様コメントおまとめ	5
データ入力	山下様コメントおまとめ	15
日次ルーティン	slack要約/管理表更新	10
日次ルーティン	メールチェック(7/27)	5
データ入力	訪問看護医療保険加入者_実績	15
日次ルーティン	slack要約/管理表更新	20
日次ルーティン	メールチェック(7/28)	5
週次ルーティン	写真・動画アップロード	10
週次ルーティン	写真・コメントアップロード	5
月次ルーティン	利用者様引落状況確認	10
リマインド	リマインドの設定	5
日次ルーティン	slack要約/管理表更新	15
日次ルーティン	メールチェック(7/29)	5
フロント対応	事務員さん増員について	5
日次ルーティン	slack要約/管理表更新	15
日次ルーティン	メールチェック(7/30)	5
月次ルーティン	利用者一覧出力	10
データ入力	訪問看護医療保険加入者_実績	20
データ入力	山下様コメントおまとめ	65
日次ルーティン	slack要約/管理表更新(7/31~8/2)	45
日次ルーティン	メールチェック(7/31~8/2)	5
データ入力	訪問看護医療保険加入者_実績	10
日次ルーティン	slack要約/管理表更新	15
日次ルーティン	メールチェック(8/3)	5
日次ルーティン	slack要約/管理表更新	15
日次ルーティン	メールチェック(8/4)	5
週次ルーティン	写真・動画アップロード	20







仕事を整えて、できる人を増やす。

高い単価の仕事を、そのまま自社へ移さない。

外部委託｜秘書業務

月30時間の契約枠（開業当初から）
時給換算：約2,500円

自社オンライン業務

県内：8月18時間／9月18時間
県外：9月10時間（育成開始）
自社単価：委託先の約半分

AI・手順書で「自社でもできる仕事」に変えてから移す。

枕崎にいなくても、同じチームになれる。

枕崎の現場

看護・介護の直接支援
現地でしかできない事務
必要な最終確認

県内外のオンライン・専門家

大阪の訪問看護請求のプロ
オンライン事務・社労士・税理士
Slack／Zoomで日常的に協働





@ユカ
@ようへい(株式会社 ヒトツムギ)
今月支給のお給与のスケジュールをお送りさせていただきます。

【給与計算スケジュールについて】
10月の給与計算スケジュールについて、下記の予定で考えております。
下記日程にてご都合がつかない場合などございましたら、
ご連絡いただけますと幸いです。

①打刻修正・手当額連絡：10/13頃
②給与データ送付（はた楽から御社へ）10/16
③給与支給日：10/23

1
11 件の返信

森内勢子 15:38
@れな さん、入力が終わりましたら教えてください。
・保険証情報入力時に高額療養費の金額注意
・他院利用額の確認
・管理療養費の数注意

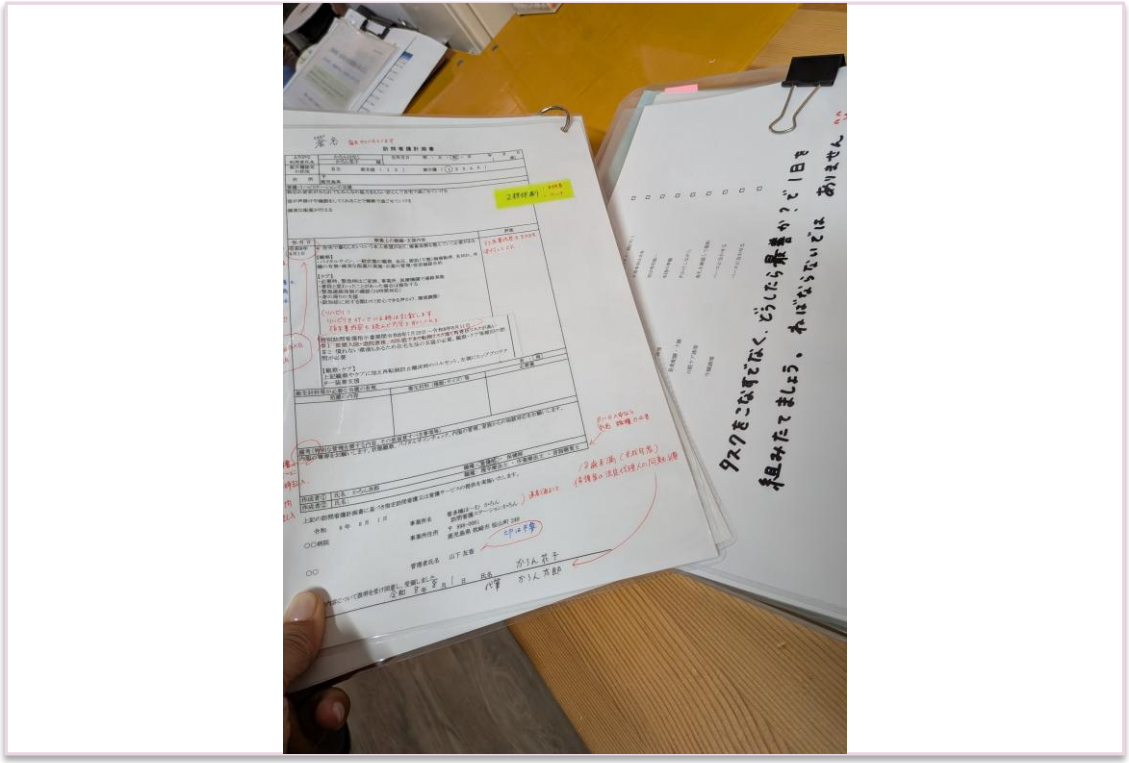
よろしくお願いします。

1

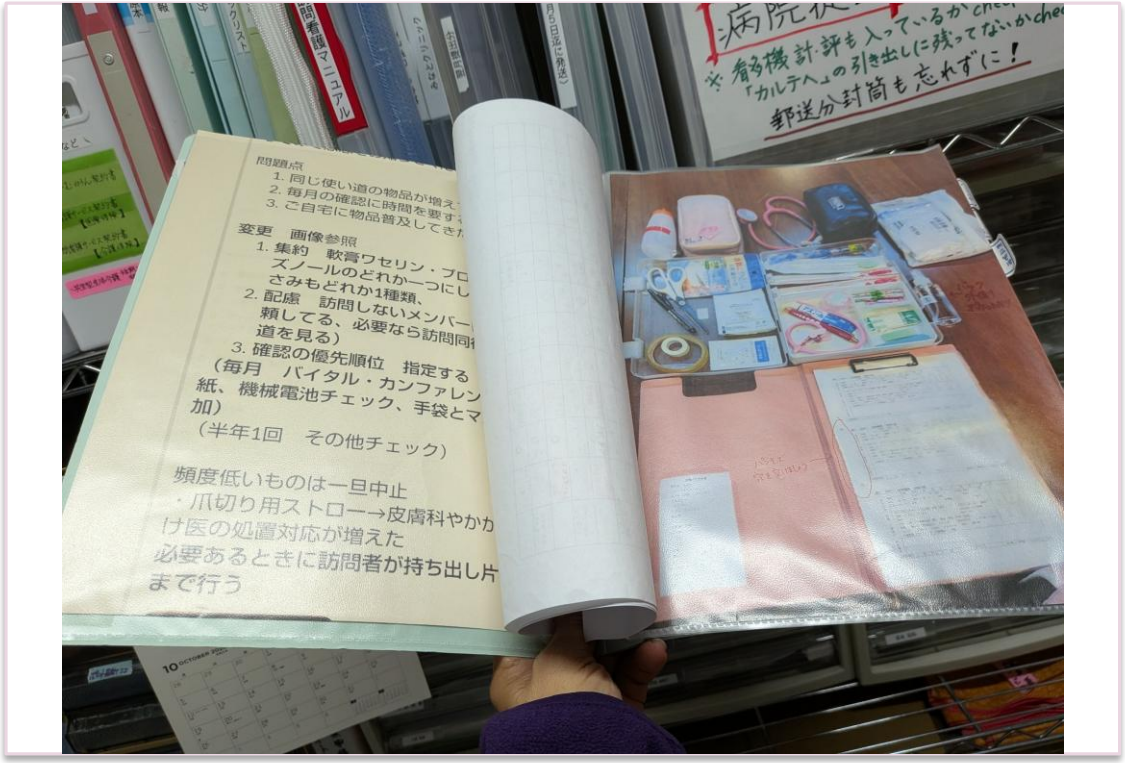
れな 10:14
@ユカ さん、 @森内勢子 さん
9月分のレセプト入力完了しました。
ご確認宜しくお願いいたします。

人材を「囲う」のではなく、専門性を「つなぐ」。

「誰でもできる」ための、お手本を残す。



書き方のお手本



写真つきの訪問バッグ管理表

写真・録画 → AIで整理 → ラミネート → 変更時に更新

書類から、その人の暮らしへ。











効率化は目的ではない。
一分一秒でも多く、幸せに向き合うための手段。

代表が現場を離れても営業できる組織へ。



実現できていること

開設約1年後から代表が現場を離れ
県内外で学び、他事業所の支援へ。

次に検証すること

全体作業時間・費用・品質
業務の属人化と引継ぎ
人材や業務のさらなる共有





成功したことも、足りないことも、再現できる仕組みに。

あなたの職場の仕事を、ひとつだけ分解する。

1　毎月繰り返す仕事をひとつ選ぶ

2　どの工程は、その場所・その人でなくてもよい？

3　紙でもICTでも小さく試して、一週間後に見直す

小さく試す。　合わなければ戻す。　今の正解を更新する。

お金がなくても、明日から「順番」は変えられる。

その選択は、未来の誰かへのプレゼントになるか？

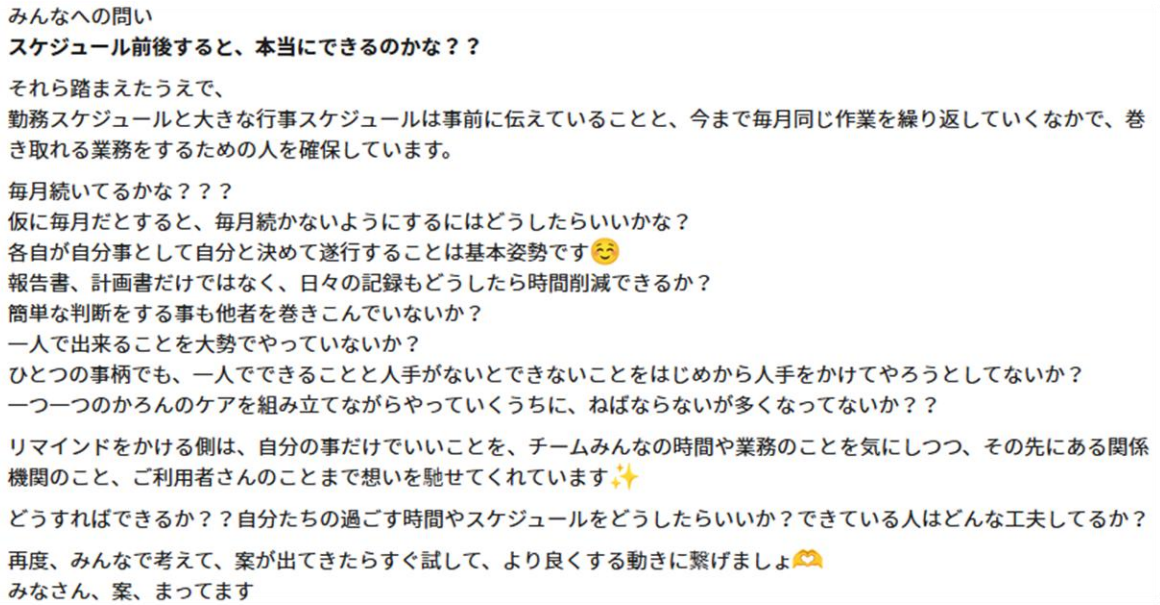
現場で、繰り返している問い

「本当に、毎月同じ作業が必要？」
「自分一人で抱えていない？」
「ほかにできる方法はない？」
「次の人が迷わずできる？」

気づいたら、小さく試す。
続ける。合わなければ変える。

問いをくりかえす。

まいにちこつこつ、
ふつうのことを。



みんなへの問い
スケジュール前後すると、本当にできるのかな？？

それら踏まえたうえで、
勤務スケジュールと大きな行事スケジュールは事前に伝えていることと、今まで毎月同じ作業を繰り返していくなかで、巻き取れる業務をするための人を確保しています。

毎月続いてるかな？？？
仮に毎月だとすると、毎月続かないようにするにはどうしたらいいかな？
各自が自分事として自分と決めて遂行することは基本姿勢です☺️
報告書、計画書だけではなく、日々の記録もどうしたら時間削減できるか？
簡単な判断をする事も他者を巻きこんでいないか？
一人で出来ることを大勢でやっていないか？
ひとつの事柄でも、一人でできることと人手がないとできないことをはじめから人手をかけてやろうとしてないか？
一つ一つのかろんのケアを組み立てながらやっていくうちに、ねばならないが多くなってないか？？

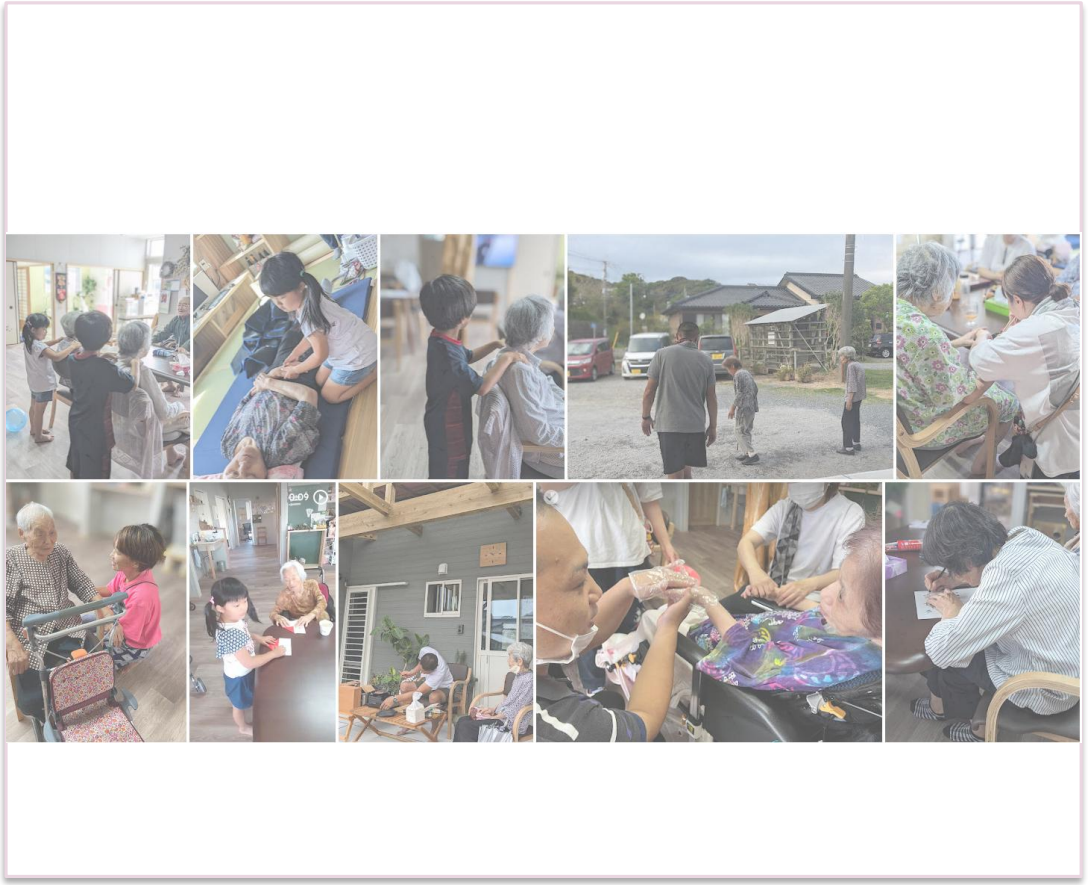
リマインドをかける側は、自分の事だけでいいことを、チームみんなの時間や業務のことを気にしつつ、その先にある関係機関のこと、ご利用者さんのことまで想いを馳せてくれています✨

どうすればできるか？？自分たちの過ごす時間やスケジュールをどうしたらいいか？できている人はどんな工夫してるか？

再度、みんなで考えて、案が出てきたらすぐ試して、より良くする動きに繋げましょ🫶
みなさん、案、まってます

今日のひと工夫が、
未来の仲間の時間と、ご利用者さんの幸せにつながる。

人を取り合う地域から、力を分け合える地域へ。



人口が減っても、
故郷で暮らし続けられる。

そのために、今ある力を
つなぎ直す。

その選択は、未来の自分や
チームへのプレゼントになるか？

https://lib-makurazaki.com/

@YUKA.8321.LOVE

ご清聴ありがとうございました

令和8年度 介護テクノロジー等活用ミーティング

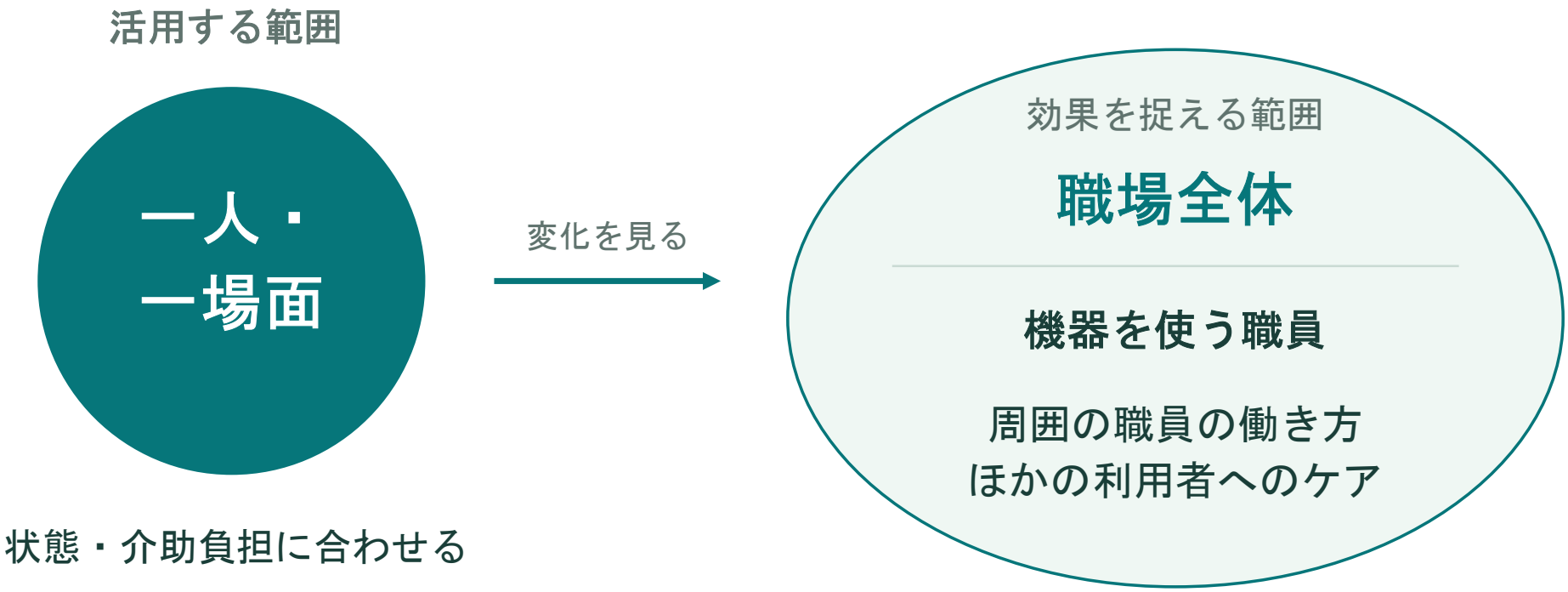
個別の活用を、
職場全体の改善につなげる

介護DXの社会実装に向けて

2026年11月12日

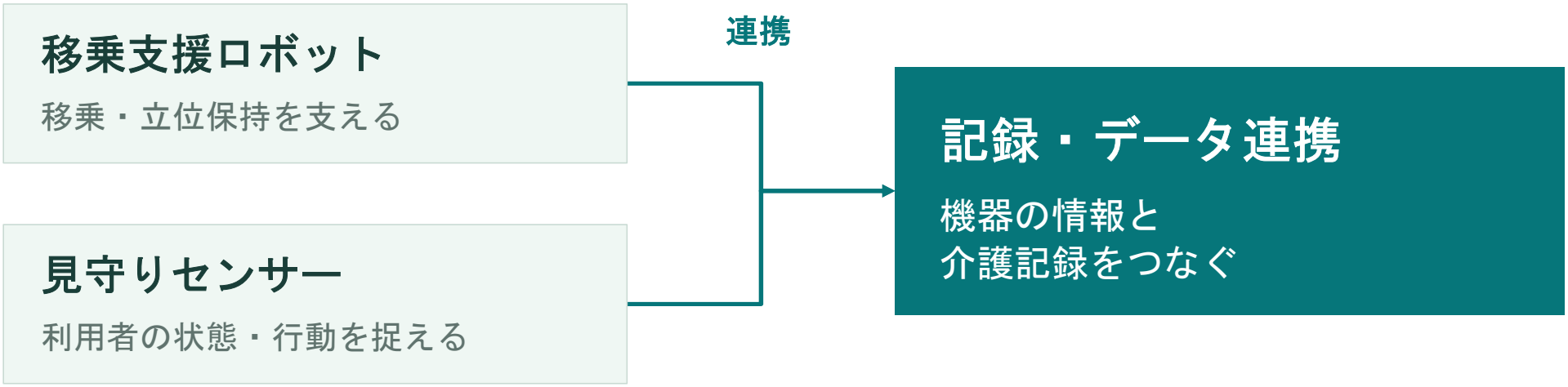
株式会社ノバケア　研究員　峰松 恵里（保健師）

個別の活用と、職場全体への波及



日常業務に組み込んだ介護DXパッケージ

AMED実証の概要



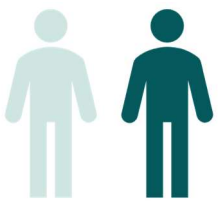
2法人　約3か月

通所・短期入所・グループホーム・小規模多機能・訪問介護等

下衣の着脱で、2人介助が1人介助になった例

当該場面の介助人数と役割

導入前



2人

立位を支える職員　1名
下衣を操作する職員　1名

機器の活用後



1人

機器が立位保持を支え、
職員1名が下衣を操作

一部の活用でも、ケアや業務に変化が生まれる



機器を使う職員

小柄で、移乗時の
身体負荷を強く実感

一部の利用者で
移乗支援機器
を活用

→

身体負担と
安全への不安が和らぐ

→

心にゆとりが生まれ、
他の利用者にも
穏やかに対応できる

安全に移乗できるかというプレッシャー

**介助から離れる
職員**

他の業務を
担当

→

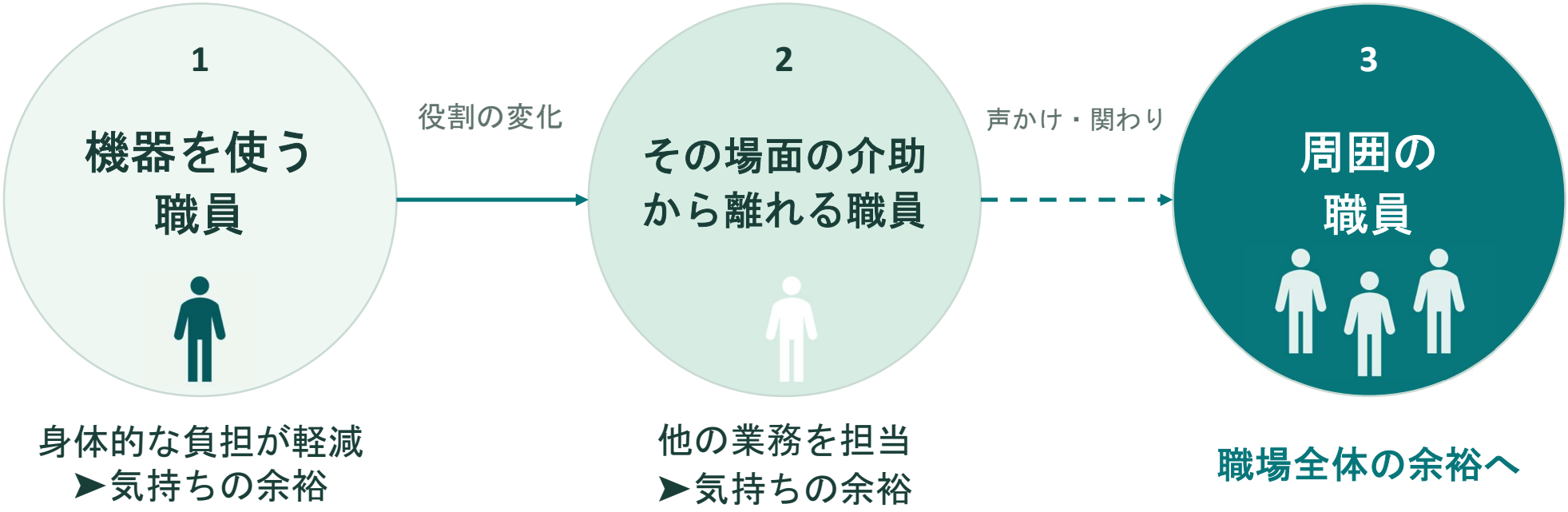
時間的な余裕が
生まれる

→

気持ちの余裕

周囲の職員への波及

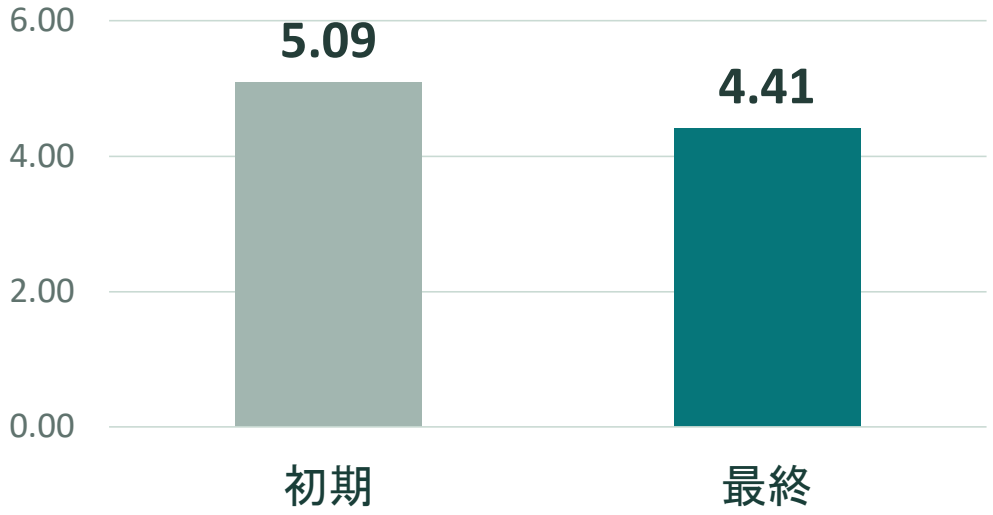
現場ヒアリングによる所見



ヒアリングに基づく模式図。3者への波及の程度・経路は定量的には未検証

職員130名の前後比較で、負担感が低下

主観的作業負荷（低いほど負担が軽い）



13.5%

主観的作業負荷の低下

$p < 0.001$



63.8%

83／130名で
負担が軽減

初期・最終とも回答した130名／主観的作業負荷：6項目平均（0〜10点）

利用者のADL・QOLへの効果は、中長期で検証する

今回のAMED実証（約3か月）

職員

負担軽減を確認

主観的な業務負担：13.5%改善

NASA-TLX ／ 初期・最終の両時点に回答した130名

利用者

ADL・QOLの目標は未達

全体として改善効果を示すには至らず

BI・FIM・EQ-5D-5Lの設定KPI

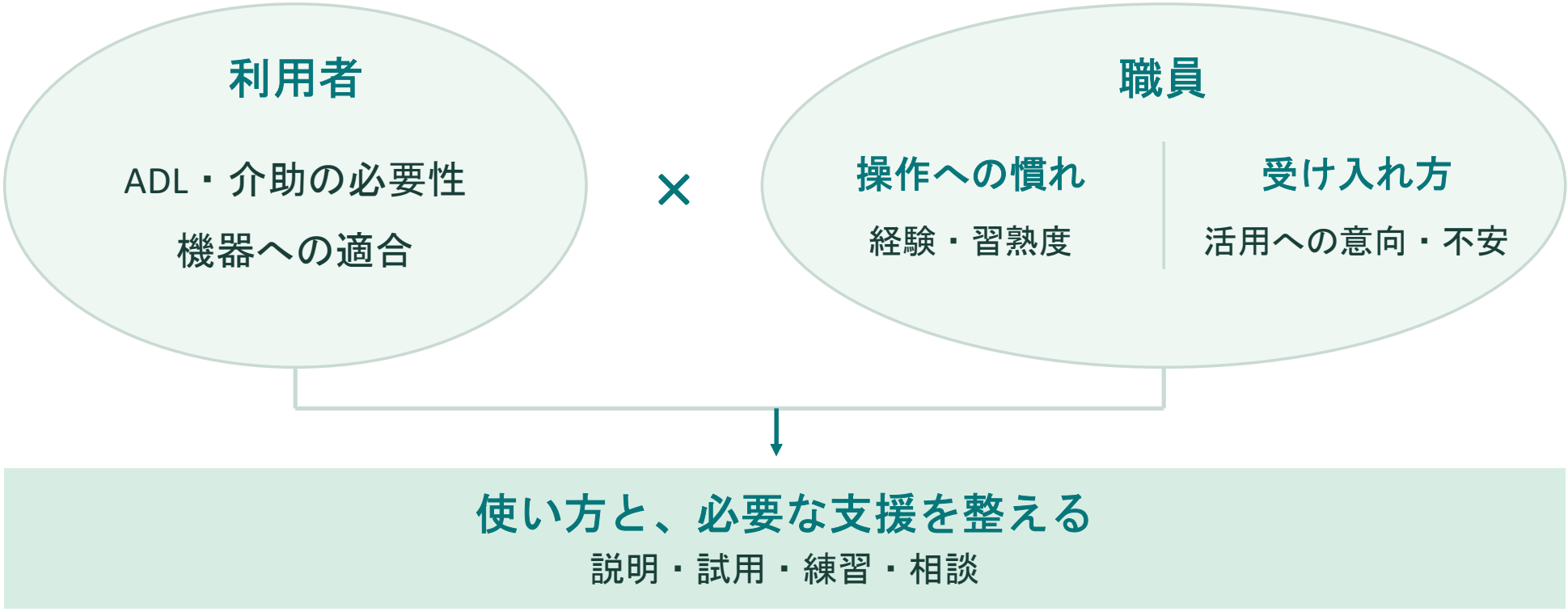
今後の検証

職員の負担軽減が、利用者の生活にどうつながるか

ADLの維持・改善　　**QOLの向上**

約3か月の実証であり、中長期の影響を確かめるには継続した評価が必要

利用者と職員の組み合わせから、使い方を考える



場面：負担の大きい業務　／　環境：配置・動線・使う時間

職員と利用者の組み合わせで、適合度を考える

適合度（検討例）

利用者の状態（ADL等）

職員のDXリテラシー

	自立度が高い	一部介助が必要	介助量が多い
高い	×	○	◎
低い	×	×	△

組み合わせに応じて、使い方と必要な支援を整える

※適合度は検討例であり、本実証で検証した判定基準ではない。

機器を使わない職員も含めて、役割を整える



機器を使う職員

適合する介助を担当

準備・操作の負担を確認

ほかのケアを担う職員

周囲のケアを継続

仕事の偏りを確認

配置

置き場・動線

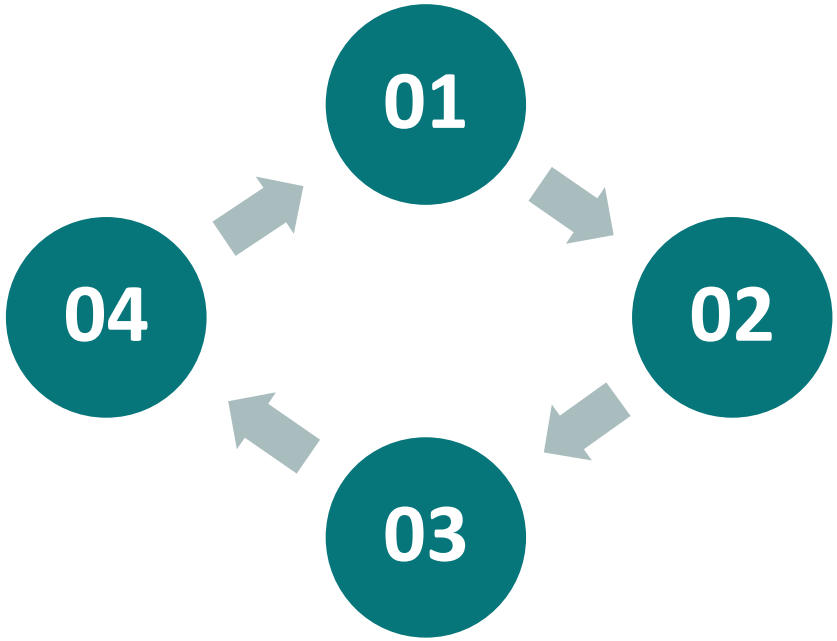
支援

相談・練習の機会

記録

重なる入力を減らす

小さく試し、現場と一緒に使い方を整える



01 場面を選ぶ

負担の大きい業務

02 組み合わせを決める

誰に・誰が
どこで・どう使うか

03 試用・練習

日常の介助で使って確かめる

04 使い方を見直す

負担と安全を見て
運用を調整

パッケージごとに、適合度表を整える

適合度表の検討例

利用者の状態

職員のDXリテラシー

	自立度が高い	一部介助が必要	介助量が多い
高い	×	○	◎
低い	×	×	△

評価軸の例

移乗支援

身体機能・介助場面

見守り

状態・生活リズム

コミュニケーション支援

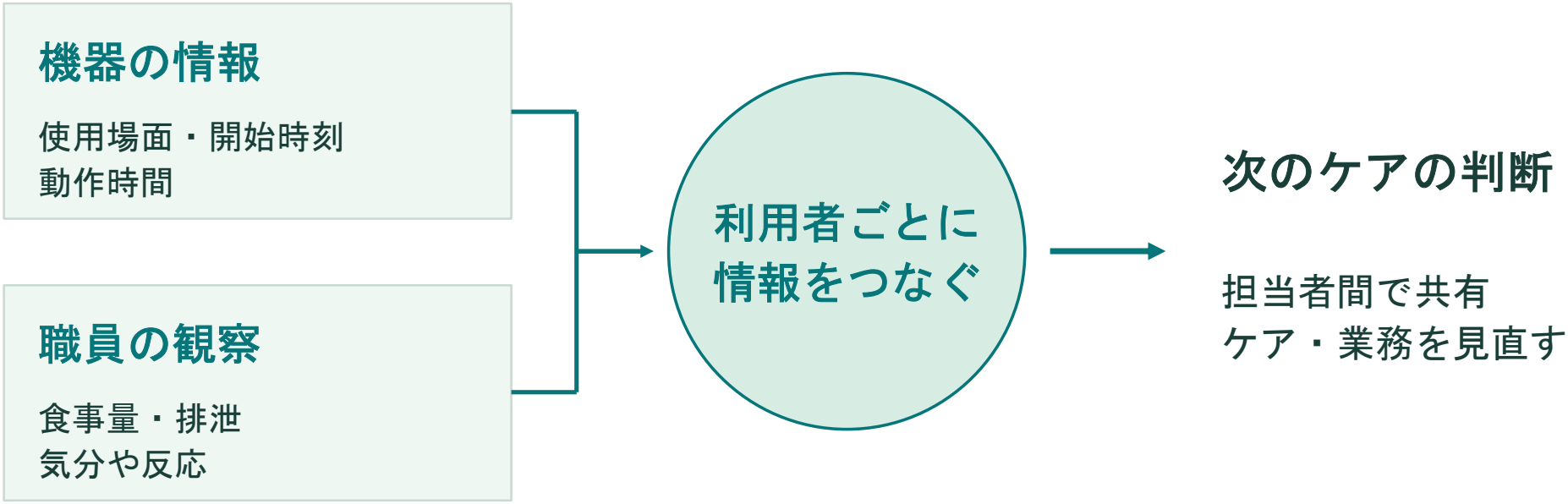
意思疎通・反応

目的に合わせて評価軸と適合度を具体化する

※表は検討例。実証済み・パッケージ共通の基準ではない。

記録を、日々のケアの判断につなげる

今後の整備方針



記録項目・入力ルール・利用者情報をそろえる

記録項目を絞り、追加入力の負担にも配慮する。

社会実装に向けて、整えること

今後の提案



皆さんの職場で考えること

一つの介助の変化を、
誰の仕事やケアにつなげるか。

負担を軽くしたい場面と、必要な支援を考える

ICTを活用した
送迎業務の効率化

属人化した送迎を、
誰もが対応できる業務へ

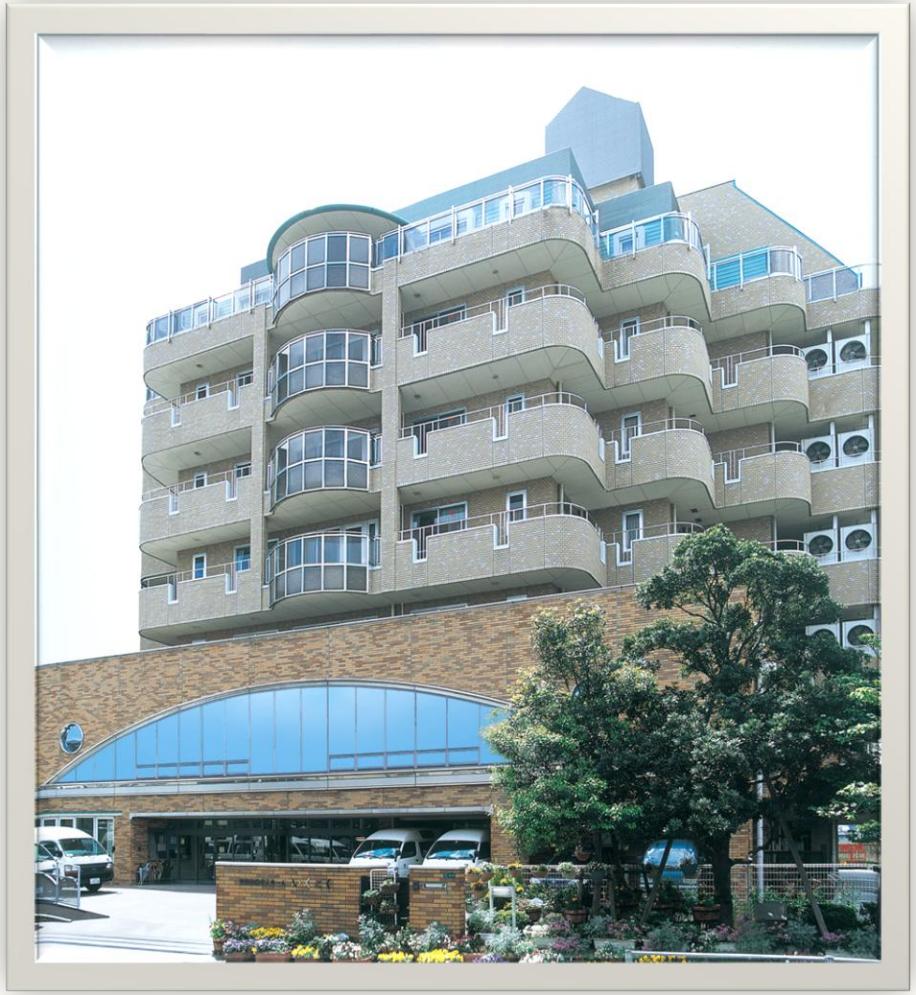


テクノエイド協会 ロールモデル発表
社会福祉法人 育徳園
高齢者デイサービスセンターいくとくⅡ

藤原智宏　廣谷直樹

社会福祉法人 育徳園の紹介

シャープ創業者 早川徳次氏の思いを受け継ぎ、阿倍野区で多角的に事業を展開



創設者　早川徳次が目指した「人々の幸せな居場所」を、時代に応じて形にしてきた法人

高齢事業
特養・デイ・包括・居宅

子ども事業
保育所・学童

障がい事業
就労B・地活

地域デザイン
地域の居場所づくり

今回の事例対象

「高齢者デイサービスセンター いくとくⅡ」

定員４２名規模の通所介護で、
複数車両・ピストン送迎を運用

出典：育徳園公式ホームページ（法人概要・事業紹介・育徳園の特徴）

今回 皆様に 伝えたいこと

「送迎にもICTを入れる意味がある」と、導入から定着までの道筋

よくある誤解

ICTを入れれば、
翌日から送迎が
自動で楽になる

→ **実際には違う**

今回伝える本質

ICT導入は「業務の棚卸し」から始まる

① 現状把握
② 初期登録
③ 紙との併用
④ 操作・判断の標準化
⑤ 複数職員で扱える状態へ

“システム導入”ではなく、
“送迎業務の再設計”

導入前：送迎は「一部の職員の頭の中」で成立していた

通常規模型デイサービスで複数車両・ピストン送迎を組む負担は大きい

当時の前提

・利用者は30～40名規模
・複数車両で朝夕を運行
・ピストン送迎が必要
・到着時間や滞在時間も意識
・ヘルパー時間、乗降条件、道路事情も考慮

**送迎計画は、
「ルート」だけではなく
サービス提供時間や
勤務配置にも影響する。**

利用者追加・欠席・
体験利用の判断も、
担当者に確認しないと
分からない状態。

典型的なリスク

・担当者不在時に判断できない
・2名しか乗らない車両が出る
・急な欠席で最適化し直せない
・ルート変更が現場感覚に依存
・新規職員の育成に時間がかかる

送迎計画には、見えにくい業務が積み重なっている

「ルートを作る」だけではなく、周辺・関連業務まで含めてICT化の対象になる

1

送迎ルート作成

住所・道路・時間・乗降条件を踏まえて便を組む

2

車両・職員配置

車種、運転者、添乗、勤務表との整合を取る

3

変更連絡・共有

欠席・追加・遅延を職員、ドライバー、家族へ共有

4

実績・記録

出発・到着、バイタル持ち物、連絡事項を確認

担当者の「暗黙知」が多いほど、
ICT導入時の初期登録・運用整理が重要になる。

らくぴた送迎とは？

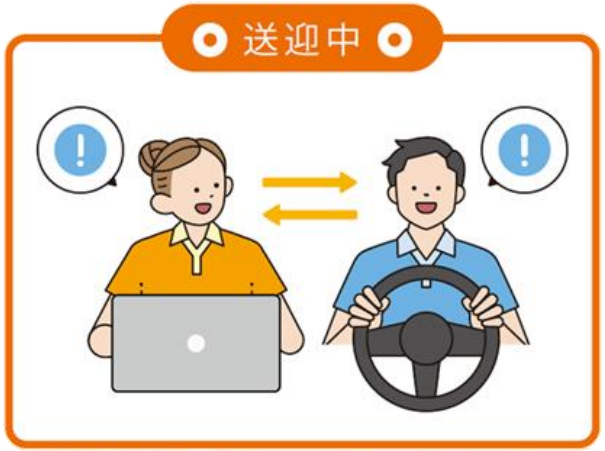
通所介護施設や送迎業務を担うさまざまな団体で導入いただける運行管理システムです



毎日の送迎計画の作成から、運行中の連絡・報告、送迎後の記録までをまとめて管理！
送迎現場の負担を軽減し、安心で快適な送迎をサポートします。



計画作成や日々の調整を
もっと効率的に



送迎状況がひと目でわかり、
ドライバーとの連携もスムーズに



実績の見える化で
さらなる生産性向上へ

送迎前のおすすめ機能

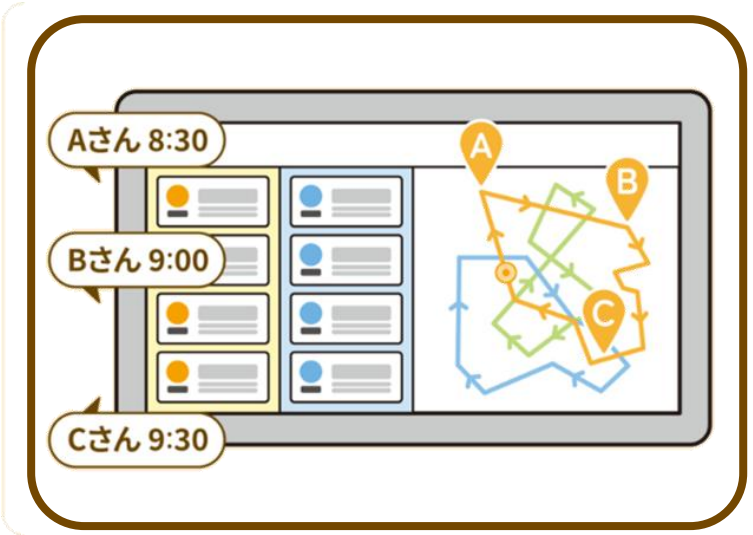
送迎計画の作成や、**日々の連絡・調整**を、効率的に行うことができます

情報の一元管理



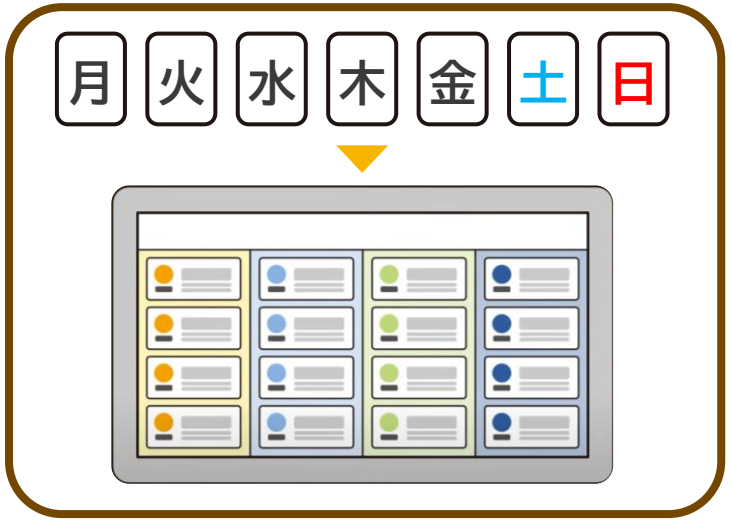
利用者様・車両・職員情報など、
計画作成に必要な情報を**まとめて管理**
でき、欲しい情報がすぐに見つかります

送迎計画の作成



地図上での位置や**送迎の所要時間**を
ひと目で確認できるので、急な変更
でも**誰でも簡単に操作**ができます。

計画の呼び出し

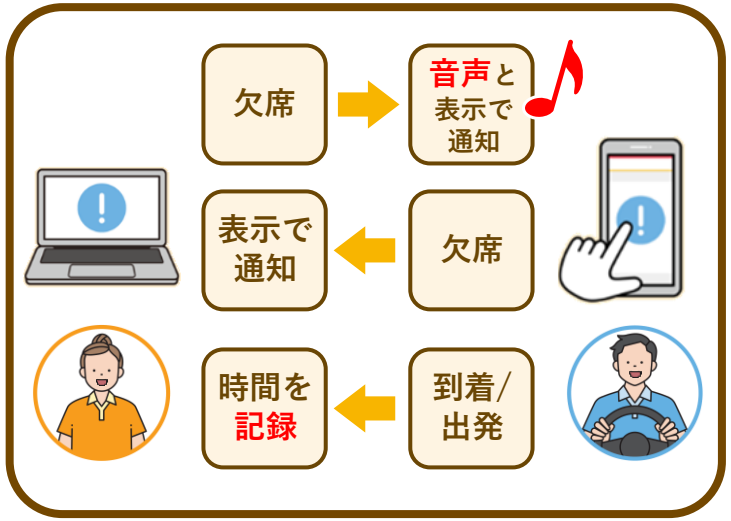


あらかじめ**各曜日の送迎パターン**を
登録しておき、**曜日ごとのパターンを
呼び出して調整するだけ**で、日々の
計画作成ができます。

送迎中のおすすめ機能

送迎中のドライバーや利用者様とのスムーズな情報連携が可能です

ドライバー連携



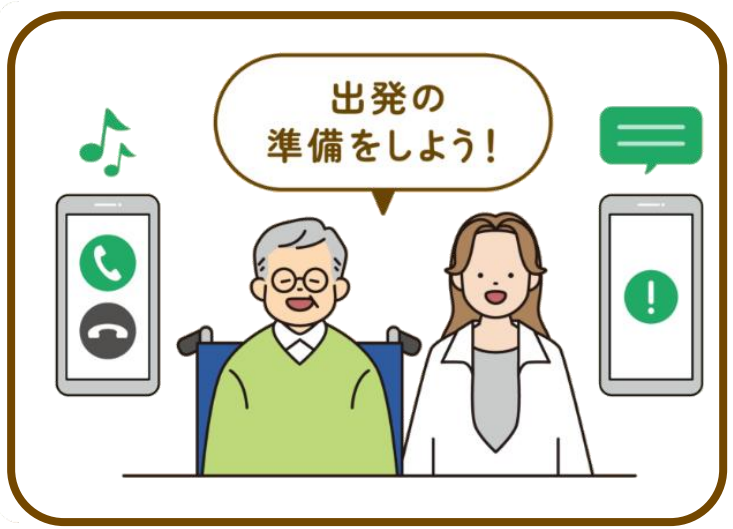
スマートフォン連携機能により、計画変更や申し送りもアプリで共有可能。出発・到着ボタンを押すだけで進捗共有と実績記録が完結します。

ナビ機能



地図アプリ連携で目的地までのルート確認も簡単にできます。

事前通知機能



予め登録された利用者様またはご家族へご自宅到着前に自動メッセージを送信できます。必要に応じて電話連絡もワンタップで可能です。

送迎後のおすすめ機能

送迎実績の見える化で、さらなる生産性の向上につながります

実績の見える化で改善促進



乗降時間の実績が比較できるので、
利用者様の身体状況の変化に気づく
きっかけになります。
車両台数の見直しにも役立ちます。

ペーパーレスで記録管理



実績は5年間保存が可能です。
システムでの一括管理により、
ペーパーレス化を実現します。

第一段階：らくぴた送迎で「単独事業所の送迎」をICT化

デイサービスセンター　いくとくⅡでの送迎計画・情報共有の改善

Before

紙
地図
電話
担当者の記憶

→

ICT化

→

After

利用者情報
ルート
車両・職員
変更内容

一元化
見える化
共有化

導入プロセス：入れる前後の「移行期間」が最も大切

ICTは入れるだけでは定着しない



導入直後は「同じことを紙でもICTでも行う」ため、
むしろ負担が増える。ここを越える設計が必要。

いくとくⅡでは、2022年10月導入後、2～3か月程度の移行・試行期間を経て定着へ。

導入時の苦労①：初期登録と操作習熟

システムに情報を入れなければ、担当者の頭の中は見える化されない

初期登録が重い負担

住所・電話番号・
乗降場所・身体状況・
ヘルパー時間・車いす・
階段・持ち物など、

送迎ルート作成に必要な
情報を**整理**して入力する
必要があった。

ログインからつまずく

スマートフォンや
パスワードに慣れて
いない職員もおり、

出発前に自分の**携帯**や
乗車する車を確認するだ
けでも**支援**が必要だった。

操作と現場判断のズレ

ボタンを押す、
地図を見る、
電話をかける、
到着記録を残す。

紙なら書き直せたことも
システムでは**手順の
理解**が必要になった。

導入時の苦労②：紙との併用期間

大切な送迎だからこそ、すぐに「明日からICTだけ」とはならない



ICT側の作業

スマホ確認／出発・到着操作／ルート確認／欠席反映／車両変更の確認

移行期の負担

同じ情報を二重で確認。職員ごとの不安や使い方の違いも出る。管理者はここが一番しんどい。

紙側の安心感

電話番号、利用者名、順番、到着予定などを書きたい／手元に置きたいという声。

定着の鍵：いきなり切り替えず、併用期間を前提に設計する。

重要：全自動化ではなく、現場情報を入れて初めて使える

「最短距離」だけでは、福祉送迎の最適解にならない

機械が苦手なこと

・この人は階段下まで迎えに行く
・ヘルパーが9時に来る
・車いす対応が必要
・荷物が多い
・この道は時間帯で混む
・この組み合わせは避けたい

未入力なら、最適ルートが“現場では使えないルート”になる。

ICT化で必要なこと

利用者ごとの条件を「担当者の記憶」から「システムに入る情報」へ変換する

ここができると、他の職員も同じ条件で判断できる。

ICT化で見えてきた効果

担当者の頭の中にあった送迎情報が、少しずつチームで扱える情報へ

前回データを活用

前週・前月のベースプランを呼び出し、欠席・追加を反映しやすくなった。

地図・ルート共有

スマートフォンのナビで、新しい職員でも一定程度対応しやすくなった。

複数職員で確認

担当者以外も前回ルートを見ながら最低限の組み立てが可能に。

急な変更の共有

欠席や変更情報を反映し、他車両の状況も見えやすくなった。

「藤原さんに聞かないと分からない」から、
“チームで送迎を考えられる状態”へ。

効果は「時間短縮」だけでなく、育成と標準化にも出る

短縮できた時間・扱える職員・情報共有の質を分けて説明する

1〜3h
導入前：送迎計画作成に要した時間

10min〜1h
現在：状況により変動するが短縮

2〜3か月
紙併用から定着までの移行期間

※数値は運行規模・利用者変更・当日の条件により変動。
「測るべき指標」を全体で共有する。

時間

送迎計画作成時
変更対応時間
送迎時間

人

送迎計画を扱える職員数／担当者不在時の対応力

質

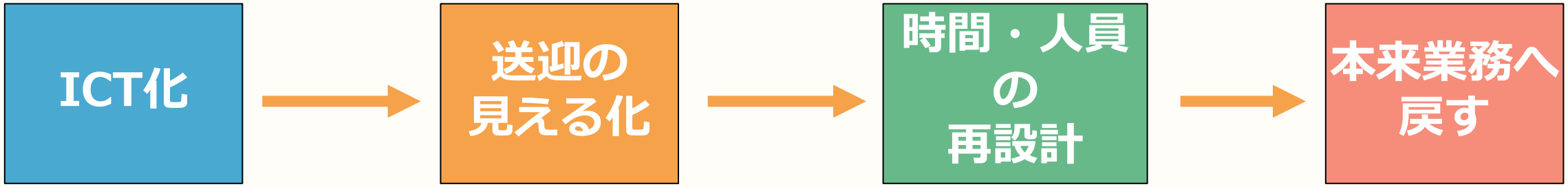
ミス・確認漏れ／急な変更時の共有スピード

余力

記録・支援・家族対応に戻せた時間

ICT化の先で生まれた「サービス改善」の余地

送迎が整うと、利用者支援・滞在時間・リハビリにも波及する



例：早く迎えられる／滞在時間を確保できる／
リハビリや記録、家族対応の時間を持てる

ただし、これはシステム単独の効果ではなく、勤務時間・運行ルール・職員配置の見直しと組み合わせた応用効果

ICT化と共同送迎の発展事例

ロールモデルの中心

単独通所事業所の送迎ICT化

・属人化していた送迎計画
・紙、地図、電話による共有
・急な欠席や追加への対応
・複数職員で扱える状態づくり

送迎業務の効率化

育徳園の発展事例

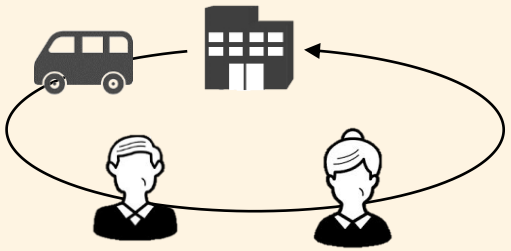
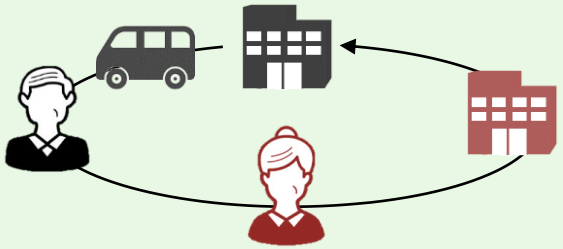
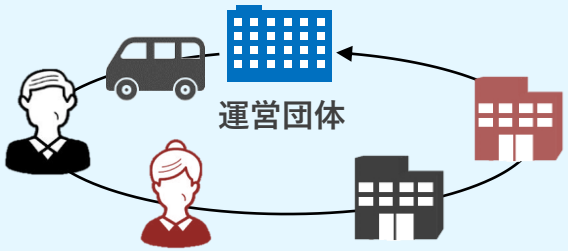
法人内共同送迎・ゴイッショ

・同一法人内の事業所連携
・空便・空車の活用
・勤務時間や運行ルールの再設計
・地域共同送迎への展開

ICT基盤があったから進められた
応用部分

らくぴた送迎とゴイッショについて

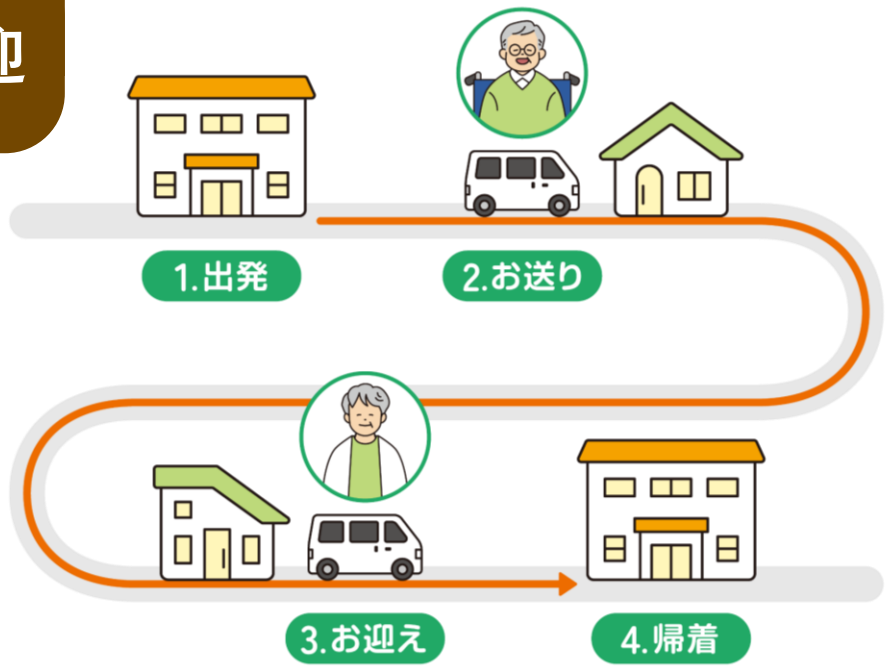
課題やニーズに合わせて、様々な用途でご活用いただけます

	STEP 01 単一施設の送迎の効率化	STEP 02 法人内の送迎を共同化	STEP 03 地域内の送迎を共同化
対象	全ての通所介護施設	2施設以上の通所介護施設を保有する法人	介護分野に課題のある地域（介護人材不足・送迎員の確保難 等）
課題/ニーズ	✓ 送迎計画作成に時間がかかる ✓ 計画作成が俗人化している	✓ 複数施設で送迎経路が被っている（車両・送迎ドライバーの削減）	✓ 地域全体で送迎の効率化を図り、持続可能な介護を実現したい
改善イメージ	計画作成・運行管理のDX化 	車両・人員配置の効率化 	介護人材不足の解消 
提供サービス	らくぴた送迎のご提供	らくぴた送迎のご提供 ＋法人内共同送迎ノウハウのご提供	らくぴた送迎のご提供 ＋ゴイッショ事業立ち上げ支援

様々な送迎形態への対応

「通し送迎」や「複数施設の送迎の共同化」等、複雑化する様々な送迎スタイルにも対応しています

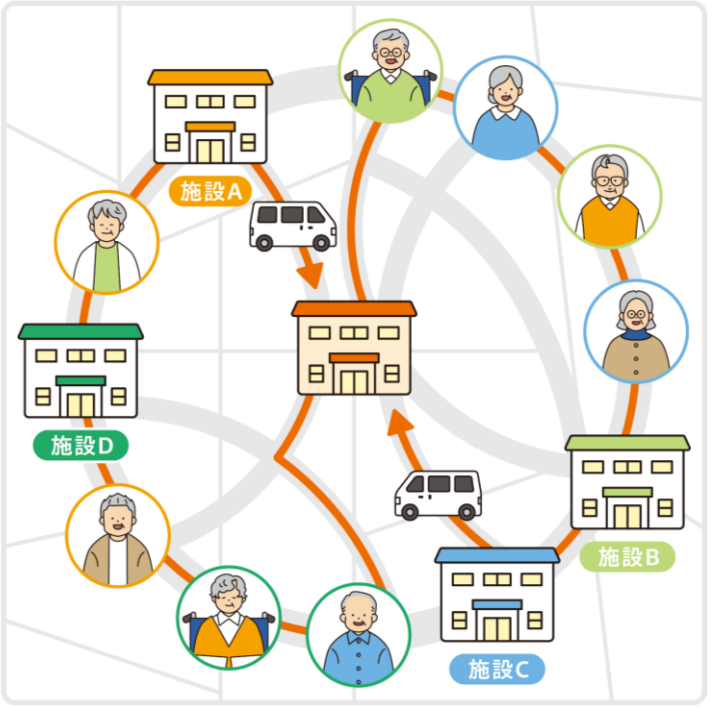
通し送迎



利用者様をお送りした後、施設に戻らずそのまま次の利用者様をお迎えに行く送迎形態（＝通し送迎）にも対応しています。

短時間型サービスの施設にもご導入いただけます

送迎の共同化



複数施設が個別で行っている送迎を集約して一元管理できます。

同じ法人内の施設でも、異なる法人間の施設でも、施設同士の連携をシステムがサポートし、効率的な送迎を実現します。

応用編：ICT化があったから共同送迎へ発展できた

育徳園では、同一法人内の事業所連携により空便・空車の活用へ進んだ

1人目を迎えに行くまでの“空便”

15分走っても、車内は空

↓

近くの事業所利用者を
同じ便に乗せる

→

共同送迎で見えた効果

- 空便を減らす
- 2便目を減らす可能性
- 利用者到着時間を前倒し
- 滞在時間、リハビリ、
  区分取得へ波及
- 車両・人員の活用幅が広がる

※ 共同送迎は育徳園の応用であり「ICT化の発展可能性」

いくとく高齢者
デイサービスセンター単独送迎





高齢者デイサービスセンター
いくとくⅡ　単独送迎

共同送迎



他事業所に伝えたいチェックポイント

まずは「事業所の送迎課題」を見える化することから始める

- ☑ 送迎計画に2時間以上かかっていないか
- ☑ 急な欠席・追加判断が特定職員だけになっていないか
- ☑ ルート情報が担当者の頭の中だけにないか
- ☑ 乗降時の注意点・家族連絡先が共有されているか
- ☑ 前回ルートやベースプランをすぐ呼び出せるか
- ☑ 送迎を扱える職員を育成できているか

ツールを入れる前に、送迎業務のどこに負担があるのかを細分化する。

再現可能な導入モデル

育徳園でなければできないことではなく、できることから始める

1

課題を測る

時間・人・車・ミス
どこが重いか
確認

2

情報を整理する

利用者条件
ルート
紙情報を洗い出す

3

小さく試す

一部ルート
一部職員
紙併用で試す

4

手順を揃える

欠席・追加・
事故時の
操作と判断を
決める

5

効果を見える化

短縮時間
扱える職員
戻せた業務を示す

成功の条件は「システム選定」だけではなく、導入後の運用設計と職員育成。

送迎DXの目的は、
送迎を“楽にする”だけではない。

属人化を減らし、チームで扱える業務に変え、
職員の時間を利用者支援へ。

育徳園では、そのICT基盤の上に、共同送迎という次の挑戦が生まれた。

社会福祉法人 育徳園

令和8年度「介護テクノロジー等活用ミーティング」

送迎表づくりを、パズルから仕組みへ

AI送迎表作成システムで属人化をほどき、
利用者さんと向き合う時間をつくる



［氏名］生活相談員　池田　真一朗

社会福祉法人水光会　しらぬい荘デイサービスセンター

法人・事業所の紹介

開設60年目の法人が運営する、宇城市の通所介護



法人

社会福祉法人

水光会

法人理念「人間愛」

1965年認可・宇城市

特養・デイサービス・
ケアハウスなどを運営

「介護×テクノロジー」
の実現を掲げる

事業所

しらぬい荘デイサービスセンター

通所介護｜特別養護老人ホーム しらぬい荘に併設

定員	事業開始	営業日
40名/日	1988年	月～土

導入している介護テクノロジー一覧

- ・モーリフト　スマート150N　・ケアパレット
- ・KINUAMI care　・生成AI活用したアセスメント自動化

今日お話しすること

当通所介護の送迎表づくりが変わるまでを、4つの章でお話しします

01 送迎表づくりは「パズル」だった

02 選んだのは、送迎に特化した仕組み

03 変わったこと

04 これから

01

送迎表づくりは「パズル」だった

札を並べ替え、手書きで写し、変更のたびに組み直す毎日

取り組む前の送迎表づくり

札を並べ替えて手で写す作業に、2名で1.5時間かかっていた

手順1

名前札をボードの上で並べ替える



手順2

手書きで紙に写す



しらぬい荘デイサービスセンター　送迎表

令和　年　月　日　曜日　（車輌名：

午前				午後			
運転手：				助手：			
利用者／特記事項							
①							
②							
③							
④							
⑤							
⑥							
⑦							
⑧							
				走行距離（			）km

担当2名で

1.5時間

送迎計画1回分の作成にかかる時間

急な変更

変更やキャンセルが入るたびに、計画を組み直していた

いつもの変更

その都度、組み替える

時間をかけて組んだ計画も、利用者さんの急な変更やキャンセルで組み直しになる

お迎え直前の変更

現場の対応と、計画の修正が重なる

現場で対応しながら、同時に計画も直さなければならず、大きな負担になっていた

なかでも、組み替えの調整に最も苦労していた

属人化

送迎表を作れるのは、ベテラン職員2名だけだった

2名

送迎計画を担当できる職員

送迎対象の利用者

60〜70名

送迎車両

8〜10台

02

選んだのは、送迎に特化した仕組み

選んだ基準と、AI送迎表作成システムの使い方

DRIVEBOSSとは

効率的な送迎計画を、AIが自動で作るシステム

複雑な条件を考えに入れて、短い時間で送迎計画を作れる

- 職員の負担を軽くする
- サービスの質を高める

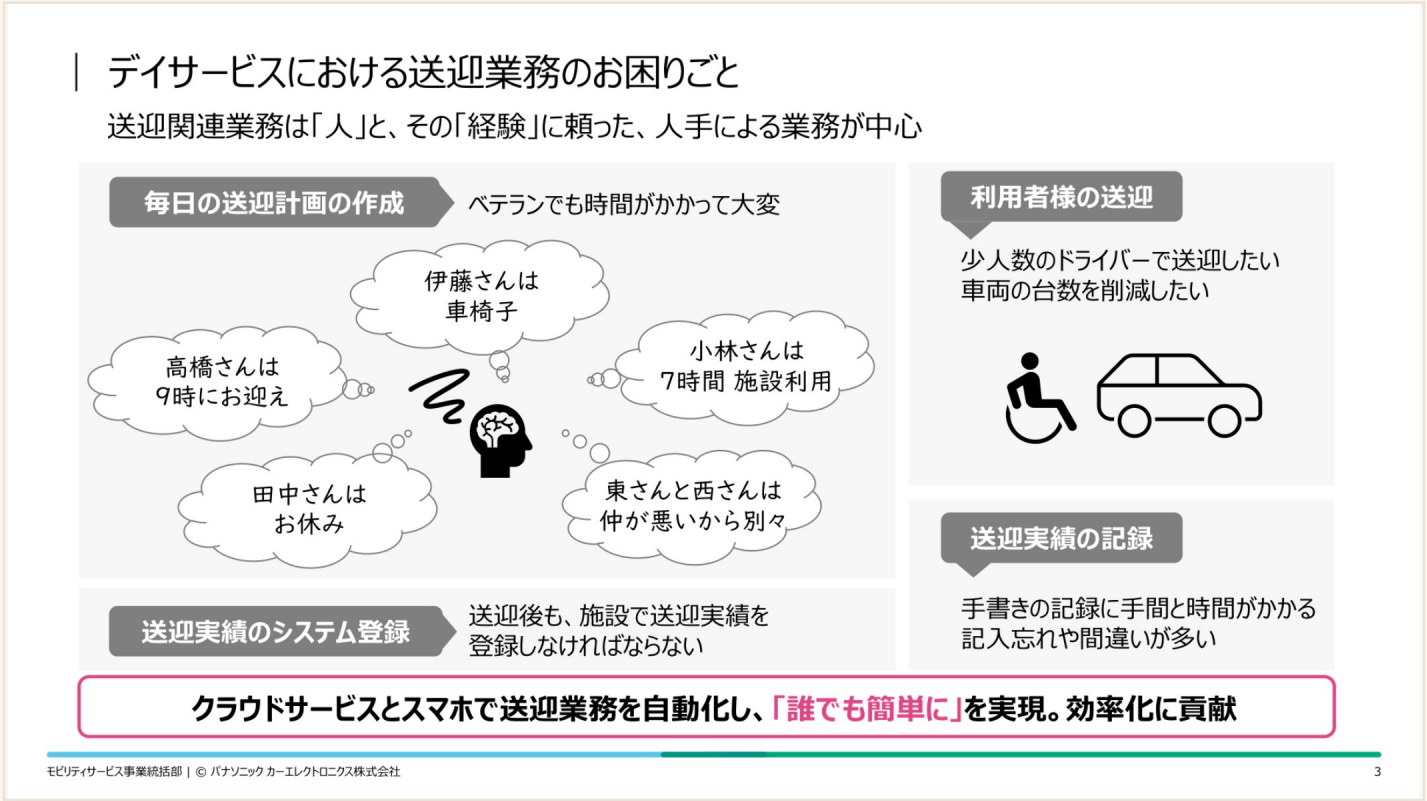
パソコンで作った計画は、ドライバーのスマートフォンにも届く



出典：DRIVEBOSS 送迎計画自動作成システム 紹介資料

メーカーが示す送迎業務の困りごと

送迎の仕事は、「人」と「経験」に頼った手作業が中心



メーカー資料より

デイサービスの送迎業務でよくある
困りごととして、
メーカーが紹介しているもの

出典：DRIVEBOSS 紹介資料（パナソニック カーエレクトロニクス株式会社）

選んだ基準

「送迎に特化していること」と「急な変更に強いこと」で選んだ

基準1

送迎計画に特化していること

説明を受けて、送迎業務の効率化に
つながると感じた

基準2

急な変更にも簡単に対応できること

急な休みなどの変更は、該当箇所の修正だけで済む。
全部を組み直す必要がない

後押しになったこと：営業担当の丁寧なサポートで、導入後の運用イメージを事前につかめた

DRIVEBOSSの特長

時間・人・コスト、3つの面から送迎計画を助ける



時間

短時間で効率的な送迎計画を作成



人

経験がなくても簡単に送迎計画の作成が可能



コスト

効率的な送迎計画の提案で送迎コストを削減

出典：DRIVEBOSS 送迎計画自動作成システム 紹介資料

導入したもの

AIが送迎計画を作り、送迎表として現場へ

パナソニック「DRIVEBOSS（ドライブボス）」｜クラウド・スマートフォン連携型のAI送迎表作成システム

入力

利用者情報を入れる

送迎に必要な利用者さんの情報を登録する

→

自動作成

AIが送迎計画を作る

制約条件を考えて計画を自動で作る。
使うほど学習し、精度が上がる

→

送迎（現在）

紙に出して持参する

作った送迎表を印刷し、各担当が確認する

今後：オプションのスマホナビを使えば、道に不慣れな職員でも最適なルートで送迎でき、運転日報も自動で作成できる。ペーパーレス化に向けて活用したい

移行の進め方

実証事業をきっかけに導入し、サポートを受けながら段階的に切り替えた

きっかけ

厚労省の実証事業で利用開始

令和7年度 厚生労働省委託事業

→

導入から1〜2か月

従来の方法と並行して運用

ベンダーが頻回に来訪し、そのたびにアドバイスをもらった

→

その後

DRIVEBOSSだけの運用へ

操作は1か月ほどで慣れた。完全に移行するまでには一定の時間がかかった

学び：業務をデータで残すことが、AIを生かす土台になる

03

変わったこと

時間が短くなり、その時間が利用者さんへ向かった

メーカーが示す導入効果

DRIVEBOSSの導入で、減らせること・増やせること



メーカー資料より

多くの導入事業所が実感している効果として、メーカーが紹介しているもの

出典：DRIVEBOSS 紹介資料（パナソニック カーエレクトロニクス株式会社）

導入の効果

送迎計画の作成時間が、1.5時間から15分になった

15分

導入後の送迎計画の作成時間

導入前

1.5時間

導入後

15分

時間のほかに変わったこと

送迎の精度も、まわりの仕事も変わった

急な変更にすぐ対応できる

該当箇所を直すだけで、全体を組み直さなくてよい

転記ミスを防げる

手書きの転記がなくなり、送迎の精度が上がった

紙と名前札が不要に

用紙を減らし、名前札づくりもやめられた

家族からの問い合わせが減った

到着時間の見通しが立つようになった

いちばん大きな変化

生まれた時間は、利用者さんのアセスメントへ

約 **75分**

送迎計画1回ごとに生まれた時間
（1.5時間 → 15分）

アセスメントの時間　週0.8時間増

生活相談員
空いた時間を、上手に使えるようになった

→

ほかの職員
利用者さんに向けられる時間が増えた

私の実感

送迎表づくりの時間が短くなり、生活相談員としての本来の業務に、時間を使えるようになりました。

施設の振り返り

月末の残業時間も減らすことができた

出典（アセスメント時間・残業）：厚生労働省『介護テクノロジー等のパッケージ導入モデル（改訂版）』（令和8年3月）事例14

デイサービスとしての変化

生まれた時間を、
利用者さんと過ごす時間に使えるようになった

［場面1］

［利用者さんとの時間に使えたこと1］

［具体的な内容・変化］

［場面2］

［利用者さんとの時間に使えたこと2］

［具体的な内容・変化］

［場面3］

［利用者さんとの時間に使えたこと3］

［具体的な内容・変化］

04

これから

これからの取り組みと、事業所としての今後の展望

これからの取り組み

誰が担当しても回る送迎をめざす

担い手をさらに広げる

若手職員にも計画づくりを任せる

新規職員も作れるようになった。
ベテランだけに頼らない体制をさらに広げる

ルールをそろえる

送迎のルールを統一する

急な休みなど変更時の手順も含めてそろえ、業務を平準化する

便利な道具で終わらせず、改善を続ける仕組みに。
介護記録ソフトとの連携や、利用者数・送迎範囲の拡大にもつなげたい

今後の展望

相談員の余裕を、関わりと事業の広がりにつなげたい

相談員
時間の余裕が生まれる

→

関わり
利用者・家族・居宅との関わりが増える

→

満足と収益
満足度・新規利用・収益が高まる

送迎の強みを生かした介護保険外サービス（検討中）

送迎の多角化

・通院・買い物などの送迎

・他事業所との送迎の共同化

空き時間の送迎車両の活用

・日中の地域の移動支援

・他の事業との共同利用

導入を考える事業所へ

私たちの経験から伝えたい、導入の3つのコツ

01

困りごとから選ぶ

機能の多さより、自分たちが何に困っているかで選ぶ。私たちは「送迎に特化」「急な変更に強い」を基準にした

02

目的を先に共有する

何のために入れるのかを、導入前に職員と共有する。私たちも導入準備の最初に目的を共有した

03

並行運用で少しずつ

いきなり切り替えず、従来の方法と並行して慣れる。私たちは1〜2か月並行し、操作は1か月ほどで慣れた

送迎表づくりのような身近な業務から、まず一歩を

まとめ

送迎表づくりを人から仕組みへ。
生まれた時間をケアへ、そしてより強い事業所へ。

01　札と手書きの「パズル」を、AIの自動作成へ

02　作成時間は1.5時間から15分に

03　生まれた時間を、アセスメントと利用者さんへ

04　満足度と新規利用で収益を高め、介護保険外サービスへ

www.shiranuiso.or.jp

介護生産性向上の取組（在宅環境を含む）に係るロールモデル　事例発表

システム導入と業務改善による ケアマネジャーの負担軽減



高茶屋指定居宅介護支援センターシルバーケア豊壽園
社会福祉法人洗心福祉会
施設長（管理者・主任ケアマネジャー）　島田　美麻

発表の流れ

01	事例の概要	スライド 3–4
02	取組前の課題	スライド 5–8
03	取組の内容	スライド 9–12
04	導入効果	スライド 13–17
05	費用・今後の課題とまとめ	スライド 18–20

事業所の概要

事業所名	高茶屋指定居宅介護支援センターシルバーケア豊壽園
サービス種別	居宅介護支援（別表：３ 在宅サービス）
所在地	三重県津市高茶屋小森町4152
発表者	島田　美麻　施設長（管理者・主任ケアマネジャー）
担当ケース	介護：約280ケース　／　介護予防・介護予防ケアマネジメント：約75ケース
テーマ番号	15

本事例のポイント

課題	取組	成果
• 帳票修正のたびに事務所へ戻らなければならない手間 • 担当ケース数の偏り • 育成制度の欠如と魅力発信の不足	• iPad・モバイルプリンター・ICTソフトの導入 • 新人・中堅ケアマネジャーの育成制度の考案 • SNSを用いた広報活動の考案	• 時間外業務 • 15.4時間 → 12.7時間 • 担当件数 • 36.43件 → 38.28件 • 導入8か月で約14,000枚の紙を削減

取組前の課題：3つの大きな壁

1

業務の非効率性

書類の不備やプラン修正のたびに二度手間・三度手間が発生。移動と事務の重複

2

過度な業務負荷

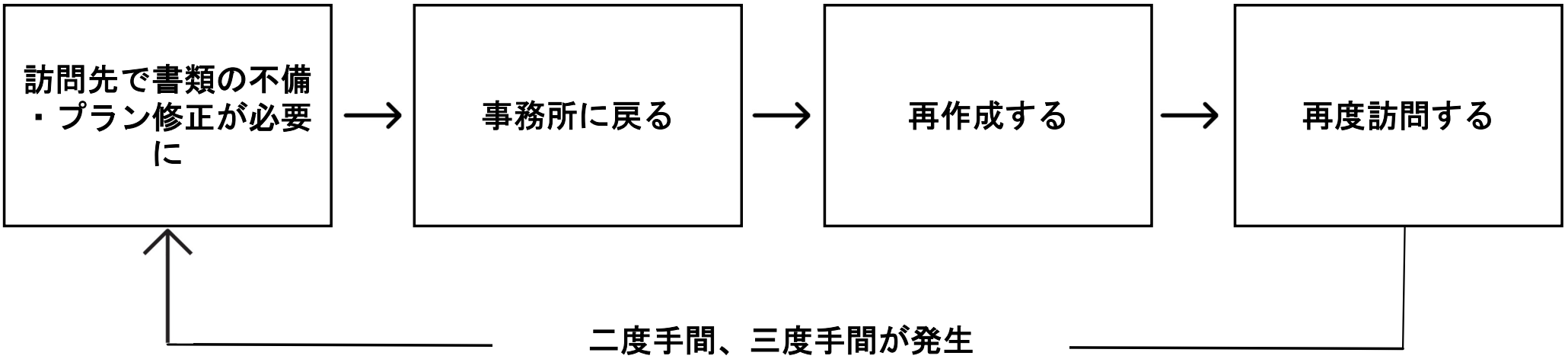
事務負担が壁となって担当ケース数を増やせず、事務能力の差が時間外労働の個人差に直結

3

採用・育成力の不足

標準的な育成制度がなく、ICT活用やSNS発信も未整備で職種の魅力を伝えきれていない

課題①：移動と事務の重複による非効率



課題：移動と事務の重複による非効率
書類の不備やプラン修正のたびに、事務所と訪問先を往復していた

課題②：事務負担と時間外労働の個人差

担当ケース数

事務負担が壁 → 担当ケース数を増やせない停滞状況

時間外労働

事務能力の差 → 時間外労働の個人差に直結 → 組織的な平準化が課題

課題③：育成制度の欠如と魅力発信の不足

標準的な育成制度の欠如	魅力発信の不足
• 新人・中堅向けの指導が属人化していた	• 多忙のイメージが先行 • ICT活用やSNS発信が未整備 • リクルート面で職種の魅力を伝えきれていなかった

↓　↓

採用・育成力の不足

課題に対する取組の方針

課題	取組の方向
業務の非効率性	iPad・モバイルプリンターを持参し、訪問先で確認・出力する
過度な業務負荷	支援経過・担当者会議録などを音声入力し、事務負担を軽減する
採用・育成力の不足	新人・中堅ケアマネジャーの育成制度、SNSを用いた広報活動のタスクを考案

導入した機器・システム

iPad	専用キーボード	モバイルプリンター
6 台	6 台	3 台

ICTソフト
ナーシングネットプラスワン
（年間契約）

通信
モバイルデータ通信契約
ケアプランデータ連携システム導入

プロジェクトとしての進行管理

1 **機器の調達**
iPad・プリンターなど

→

2 **データ移行**
既存システムから

→

3 **操作説明会**
職員向け

→

4 **習得状況の確認**
職員の操作習得

ICT導入・育成制度・SNS広報まで多岐にわたるタスクを、次の3項目で進捗管理

実施期間	担当者	進捗状況

取組の期間：検討から検証まで

令和6年6月
検討を開始

令和7年6月分
導入開始

令和8年5月
検証を終了

令和8年1月
導入8か月で約14,000枚
の紙を削減

導入効果①：記録業務の負担軽減

支援経過・担当者会議録などの入力
音声入力等が使えるようになった

→ **時間の効率化**

→ **精神的な負担感の軽減**

導入効果②：訪問先でその場で確認・出力

iPad＋モバイルプリンターを持参
サービス利用についてその場で確認しながら出力

- **ミスが減る**
- **効率化が図れる**
- **ご利用者家族の信頼度が増した**

資料を持参しなくても、iPadでご利用者宅でサービス事業所の情報の提供、介護保険申請書類等をプリンターで印刷できるようになった

実際の動画

導入効果③：動画で伝わるサービス中の様子

1

同意を得た上で、サービス利用時の様子を動画で撮影

→

2

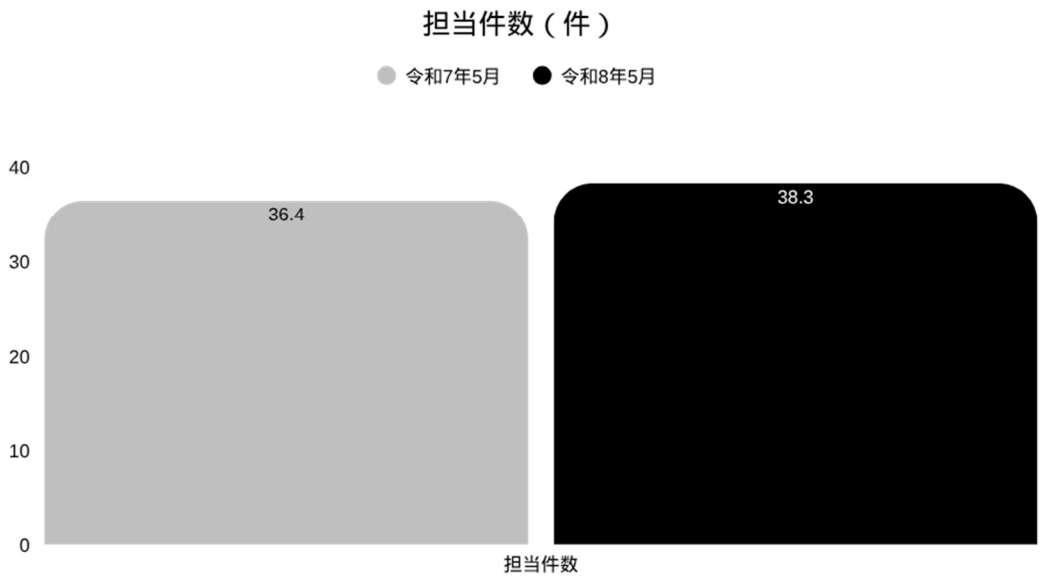
ご家族に動画を見ていただく

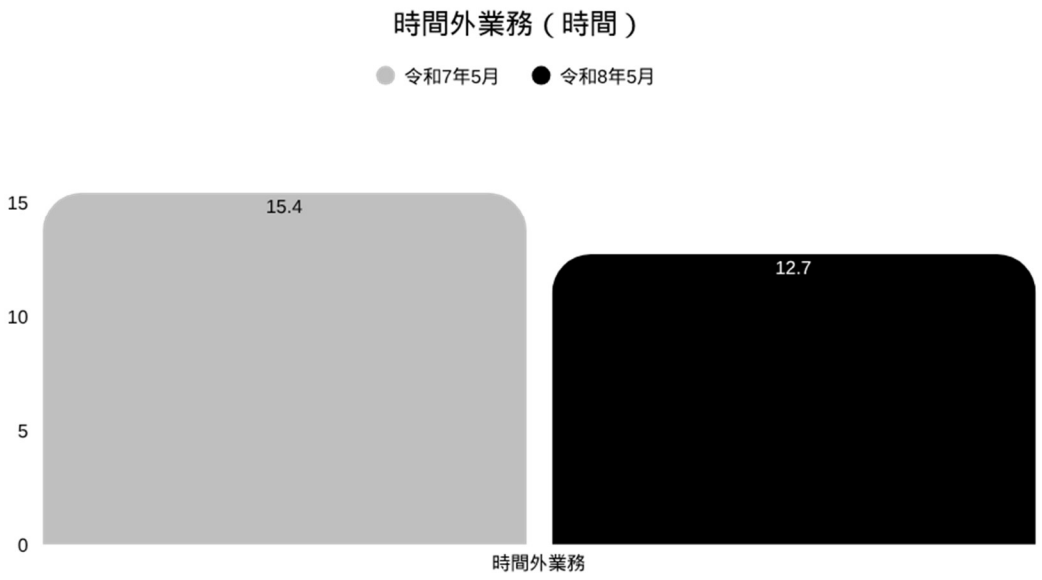
→

3

口頭で説明する以上に理解が得られた

導入効果④：担当件数は増え、時間外業務は減った





＋1.85件（約＋5.1%）

－2.7時間（約－17.5%）

※ 時間外業務は1ケアマネジャーあたり。増減幅・増減率は事例提供シートの数値から算出

導入効果⑤：約14,000枚のペーパーレス

導入8か月で削減した紙（令和8年1月時点）

約14,000 枚

月あたりに換算すると約1,750枚（14,000枚÷8か月の概算）

8事業所

法人の全居宅介護支援事業所に同システムを導入

紙が減ることは予測していたものの、約14,000枚という数字には驚き。法人全体では相当な量の削減につながったと考えている

費用と対象規模

機器・システムの費用

793,843円

月額利用料

5,000円

※ Wi-Fi環境整備費を除く

介護テクノロジー等を活用している利用者

介護

約280ケース

介護予防・介護予防ケアマネジメント

約75ケース

さらなる取組と現状の課題

業務改善に向けたさらなる取組

- iPad内でLINEWORKSを活用
- 職員間・事業所間・ご利用者への連絡ツールとして使えると、さらに効率化が図られる

ただし、個人情報保護の観点は注意が必要

現状の課題

- これまではシステムとiPadを導入し、使用することに突き進んできた
- AIリテラシーについて学ぶ
- 事業所での取り決めを行う

個人情報保護に更なる注意が必要

まとめ

課題	移動と事務の重複／事務負担と時間外労働の個人差／育成制度・魅力発信の不足
取組	iPad・モバイルプリンター・ナーシングネットプラスワンを導入し、育成制度やSNS広報も含めてプロジェクトとして進行管理
成果	時間外業務 15.4→12.7時間／担当件数 36.43→38.28件／導入8か月で約14,000枚の紙を削減
今後	AIリテラシーの学習、事業所での取り決め、個人情報保護への更なる注意

sensin

ご清聴ありがとうございました

介護テクノロジー等活用ミーティング

介護テクノロジーを活用した在宅生活の質向上

～コミュニケーションの活性化～

テクノロジーを、人と向き合うために。



リハビリ型デイサービス　リハサロン祖師谷
施設長　河野 礼子

リハビリ型デイサービス　リハサロン祖師谷

https://reha888.com/

世田谷区地域密着型通所介護･総合事業
半日型デイサービス　定員10名(25名スペース)

家族介護の経験から、暮らしの中の「できる」を支えるケアを実践・研究

自己紹介｜河野 礼子

「できない」と決めつけず、環境と関わり方を変えて、できることを増やす。

原点

育児と家族介護の
ダブルケアを15年

家族の立場で、受診・外出・日々の暮らしを
支える難しさを経験

実践

リハサロン祖師谷で実践
看護師資格を取得

認知症ケア、口腔・栄養・運動を組み合わせ
、生活機能を支援

研究・発信

大学院でケアを研究
修士課程修了

F-SOAIPを活用し、尊厳を守るケアや支援の
工夫を可視化

取り組んできたこと

大切さを実感できる環境

認知症ケア
記憶に残るサービス　本人の改善発信

実践とデータ
通所サービスでの変化を検証
LIFEフィードバックデータ活用

社会への発信
学会発表・専門誌・行政への提案

目指すのは、本人の尊厳を守り、家族・専門職・地域が一緒に支えられる仕組みづくり。

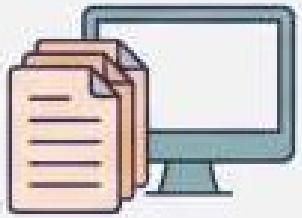
対話・コミュニケーションケアを大切にする生産性向上

導入したテクノロジー：
カイポケとiPad・iPhone・Apple Pencil

介護ソフトとICT機器を組み合わせて活用

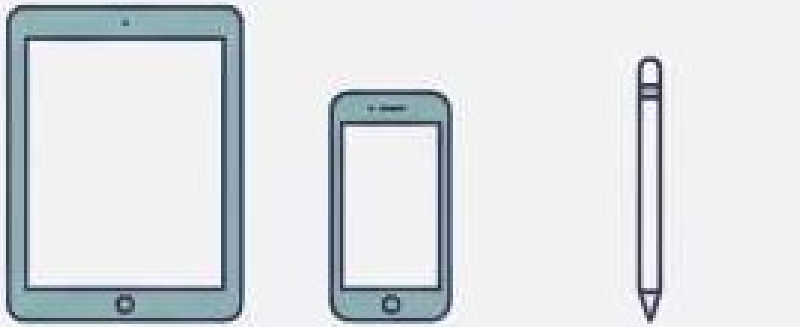
介護業務支援（介護ソフト）

カイポケ



＋

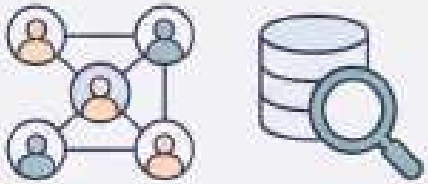
その他（ICT）



現場で感じた変化：情報共有・記録・文書業務の改善

共有しやすく、記録しやすく、文書作業を軽く

情報共有



職員間の共有が容易に
過去のデータを探しやすく

記録・計画



記録にかかる時間を削減
読みやすさ・内容が充実
計画・報告の作成も改善

文書業務



紙印刷・FAX受発信・
チェック作業がなくなった
（事業所の回答）



職員の精神的・肉体的な負担軽減にも

F-SOAIPで情報共有を、課題解決の好循環へ

記録を「残す」だけでなく、支援の見直しと多職種連携に活かす

記録＆情報共有＆指導＆管理の生産性向上

F Focus／焦点	S Subjective／主観情報	O Objective／客観情報	A Assessment／アセスメン	I Intervention／介入	P Plan／計画

活用場面

インシデントレポート	電話メモ	サービス担当者会議
出来事と背景・対応を整理	要点を共有し、次の行動へ	本人の希望と支援方針をつなぐ

情報共有から、次の支援へ

共有（事実・希望を整理） → 課題発見（背景や困りごとを捉える） → 支援を見直す（多職種で方法を検討） → 効果を評価（変化を確認・記録） → 次の改善へ（計画を更新して継続）

介護テクノロジー × F-SOAIP

ICTで記録・共有を支え、職員の気づきをケアの質と生産性向上につなげる。

※F-SOAIPは情報を構造化して記録・共有する枠組み。運用方法は事業所の業務・記録様式に合わせて検討します。

数値で見る現状と成果：時間・紙文書・離職率

時間と紙文書を削減。離職率は現状値として確認

間接業務時間

60〜90分

削減／職員1人・月平均

導入前との比較

紙文書量

1〜2割

削減／1事業所・月平均

導入前との比較

現状値

離職率

5.9%

事業所の申告値

対象期間・導入前比較は不明

削減した時間を、利用者とのコミュニケーションへ

効率化で生まれた時間を、人と向き合う時間に。

間接業務時間を削減



月60〜90分

職員1人あたり・月平均

記録・文書業務の効率化

時間を活かす

利用者とのコミュニケーションへ



対話から生まれる新たなニーズ　➡　業務改善＆新規事業

職員・ケアマネジャー・関係機関との連携に活かす

削減した時間を、チームで支えるための対話へ

F-SOAIP記録（マニュアル機能）

削減した間接業務時間



月60〜90分

職員1人あたり・月平均

時間を活かす



職員同士
対話・情報共有
サービスの質を話し合う会議・研修



ケアマネジャー等
他事業所とのやりとり・訪問



関係機関
関係機関とのやりとり

情報共有を、ケアについて話し合う時間につなげる

変化の記録F-SOAIP活用の情報共有　➡　課題可視化＆改善の循環＆多職種協働

働きやすさから在宅生活支援へ：実感した変化と今後の期待
職員のゆとりを、本人らしい在宅生活を支える力へ

実感した変化（事業所の回答）

働きやすい職場



- 精神的・肉体的な負担の軽減
- 残業削減・休憩時間の確保

利用者に向き合うケア



- 利用者と接する時間が増加
- 集約した情報をケアに活用

支援へのつながりを期待

今後の期待

暮らしを支える展望



- 本人の思いを支援につなぐ
- 多職種で暮らしを支える

在宅生活への介護テクノロジー活用　➡　本人の自立支援と家族介護の負担軽減

導入・定着の課題と、継続活用に向けた対応案

導入して終わりではなく、使い続けられる仕組みへ

課題（事業所回答）		対応案（提案）
	**人・理解** 職員の苦手意識・研修／経営方針／利用者・家族の理解	目的を共有し、小さく試す 短時間研修・相談役を設ける
	**環境・選定・費用** Wi-Fi環境／現場ニーズに合う機器・UI／導入・維持費	通信環境と操作性を確認 試用し、総費用で選ぶ
	**人材・運用定着** 詳しい人材の確保／業務手順の変更・定着	担当者を育て、手順を見える化 現場の声で定期的に見直す
	**外部との連携基盤** 異なる介護ソフト間の連携／行政との文書授受	データ連携・共通基盤 整備を働きかける **改善要請＆活用報告**

まとめ：テクノロジーを、人と向き合うために

希望の確認とサービス改善の好循環

効率化で生まれた時間を、人と向き合う時間へ。

業務を整える



情報共有・記録・文書業務を改善

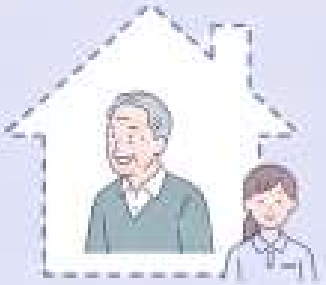
間接業務 月60〜90分削減／職員1人あたり

対話と連携に活かす



利用者・職員・関係機関との
コミュニケーション

在宅生活を支える



本人らしい暮らしを支える力へ

今後への期待

テクノロジーは手段。中心にいるのは、いつも人。 リハサロン祖師谷 施設長 河野 礼子